

臺灣通志卷一



國立臺灣大學圖書館典藏  
由國家圖書館數位化



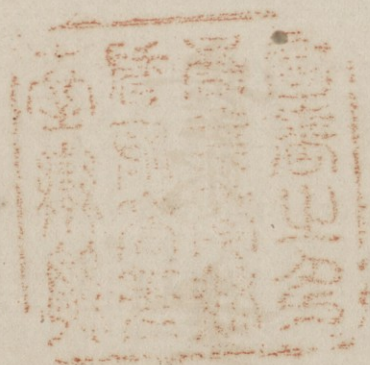
10PA  
84

VI  
70

和書  
大正10年度  
購入第1181號  
臺灣商業名錄

新

家



内湖大湖湖

457079

國立臺灣大學圖書館



0637631

文學博士內藤虎次郎輯

# 滿蒙

# 叢書



第十七卷

東京

滿蒙叢書刊行會發行





大正十一年六月  
滿蒙叢書刊行會發行

|   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|--|
| 訂 | 纂 |   |   |   |  |
| 服 | 丹 | 鷺 | 稻 | 內 |  |
| 部 | 羽 | 淵 | 葉 | 藤 |  |
|   | 正 |   | 岩 | 虎 |  |
| 暢 | 義 | 一 | 吉 | 次 |  |
|   |   |   |   | 郎 |  |

# 籌遼碩畫 解題

稻葉君山

本書は、明の萬曆四十六年夏間より、同四十八年秋に亙り、内外臣僚の遼事に關して上つりし奏議類を年月により排次せるものなり。編者を天都の程開祐といふ事、歴佚して傳はらず。

本書の流傳、亦その人のごとく、多く聞くとところあらず。我が前田侯尊經閣に一部を藏す、本叢書に收むるところのもの、即ちこれなり。江浙の間、もと藏書の淵海と稱す、諸收藏家の書目、付刊して世に行はるゝもの、從來少なからずと雖も、概ね此書を著録せず。僅に徐乾學の傳是樓書目中、本書及び編者の名を録するにすぎざるのみ。傳本の寡少なる、亦以て概見すべきなり。その原因を求むるに、清の高宗乾隆帝の違礙書銷燬に由る所なき能はず。高宗が四庫全書を勅編するや、天下希觀の書を蒐羅し、以て士林に嘉惠せんとの諭旨に出でしものなれども、其の蒐集に従ひ、文獻の内容を檢覈し、書中に所謂違礙の字蹟、即ちその統治に害ありと認めらるゝものあるを發見するに及び、或は銷燬を行ひ、或は抽燬若くは禁止せんと

するに至りしは著明の事蹟にして、爲に屢次の諭旨を發したり。或は之を秦始皇以來の書籍の大厄と稱せし程なりき。今左に其令申中、乾隆四十七年中の上諭を擧げて、之を證すべし。曰く

大學士四庫館正總裁管翰林院事臣英廉謹みて奏し、奏聞する事の爲にす、乾隆四十五年四月十三日、諭旨を欽奉するに、四庫館書籍の鈔謄を行ふべきものあり、僅に名目を存し、必しも全書を繕寫せざるものあり、亦たまさに底本をば、各省藏書の家に發還すべく、著して英廉に傳諭し、即ちこの項の書籍をとつて查明發還せしむ、仍ほ如何か情形を查辦すべきかは、便に遇ひ覆奏せよ、此を欽めよと、欽み遵ひ、臣英廉の覆奏を経るに、臣總纂紀昀等と共同商酌し、各書内の詞義違礙あるものは、業に陸續查出して、分次奏繳銷燬するを経たり、但だ卷帙浩繁なれば、其中或は尙ほ燬くべきの字句あらんことを恐る、まさに再び通じて覆檢を加へ、然して後發回せば、庶くは疎漏なからん云々のこと、四十五年五月に於て具摺して奏明せるに、旨を奉す、知道了欽此と、隨つて纂修翰林戴衢亨、蔡廷衡、潘廷筠、王春煦、吳裕德等十三員を派し、各省解送の明代以後の各書をとつて、逐一檢閱を覆加し、詳細に磨勘し、妄誕の字句をとつて刪燬淨盡し、稍、遺漏あ



るを致さざるを務めしめたり、茲に各該纂修等に據るに、已に閲竣を行ひ、銷燬を行ふべき書一百四十四部、酌量して抽燬すべき書一百八十一部を看出し、臣同該總纂紀昀等と覆核を逐加せり、理合さに略節の清單を開具し、原書三百二十五部二千一百二十三本と一併に繳進し、旨を請ひ、分別銷燬すべし、現在奉旨中の明代の奏疏に至つては、廣く蒐採を爲し、哀集して編を成せり、此項の書籍内、間、奏疏を載入せる本あり、或は採録に備ふべきの處あり、臣等亦た書内に於て詳に查檢を加へ、その違礙の有無を視て、篇を逐ふて抽出し、尙書房に彙交し、以て選錄編纂に便せん、仍りて所抽の頁數を每本の上に粘僉聲明し、尙書房の選畢りて交出するの時を俟ち、再び各原書片をとつて、別に繳進銷燬を行はん、其餘無礙の存目及重本を査するに、各書共計九千四百十六部は、まさに旨に遵ひ、各家に發還すべし、命下るの後を俟ちて、臣、翰林院に交し、各該督撫等に行文し、それをして便に遇ひ、委員に赴館領回し、轉じて發還を行はしむ、その燬くべき各書は、外間尙ほ流傳の本あらん、仍りて單を開して行知し、各督撫に一體に查繳鎖燬せしむ、これがために謹み奏す。

見るべし、明代の奏疏は、特に高宗の留意を經たることを、旨を受けし四庫館は之

に査閲を行ひ、次第に處分を加へたり。同四十七年三月中の上諭によれば、曾に刊本に止まらず、原板を押し、之を鏤燬せしめたるにあり、同年浙江布政使の達を見るに、斷篇零帙と雖も、數を盡して呈繳すべく、稍遺匿ありて、罪譴を干すを致さしめずとあり。禁書令の如何ばかり嚴重なりしやは、以て想像すべからずや。ただ當時軍機處より公布せる全燬書目を檢するに、萬曆疏鈔のごとき、兩朝從信錄のごとき、遼事實錄のごとき、本書に類するものは、大概ね摘出を経たりと雖も、獨り本書の名を載せず。思ふに、付刊始めよりして、その數既に稀に、乾隆の搜查に出會せざりしに因るか。抑も崇禎以後、國變の際、擧げて兵火に付せしものか、これ疑ふべきものの一なり。記して後考を俟つ。

本書四十六卷、附録一卷、遼事の記録の浩繁、この書の右に出づるもの少し。萬曆四十六年夏間は、恰も清の太祖の撫順を陥れて、戰を明國に宣せし際に當り、越えて四十七年春には、薩爾滸山の役あり、明清の興亡、この一役に係る。四十八年朝鮮既に危く、明國との宗屬關係に切迫を告ぐるものあり。同年秋、神宗晏駕す。故に本書は、清太祖の記事に始まり、萬曆帝の殂に至りて止む。前後三春秋、奏疏六百餘件の多きを採録せり。努めたりと謂はざるべからず。卷首、熊廷弼及び張濤二人の奏疏



を收むるは、二人者が夙に遼東を巡視し、その地方空虚にして、東夷を防壓するに足らざるをいひ、當路の反省を求めたるが、その言未だ行はれざるに、遼事發生せり、故に今日の籌遼を説くもの、仍ほ二人の先見に聽くを要す、凡例に言ふところかくのことし、是れ編者の微意なり。

翻て思ふに、明は萬曆中葉以降頻りに外難に遭遇し、壬辰(二〇)戊戌(二六)の際には、我が師との間に朝鮮役あり、丁酉二五庚子(六)の間には、播州宣慰使楊應龍の亂あり、幸にも、二役は取次終局せるを以て、遼事の發生するに迄ぶも、その遽かに大事に至るべきを想像せざりしが、詎んぞ四十七年春に至り、四路の全師覆没し、精兵猛將、數を盡くして鋒鏑に斃れたるより、始めて國難を痛感せり。以へらく遼左は京師の肩背なり、遼破ぶるれば山海危く、山海危ければ、陵寢安からず、加之、蒙古の窺伺あり、草寇の頻發あり、その危局、朝鮮役の比にあらずして、直ちに肘腋の憂なりと、こゝに於てか、擧國譁然たり。程その人の官歴は知るを得ず、然とも自序に、今幸新經略建牙、賜尙方劍、以振武略、其於防守機宜、業有定著、而新撫鎮司道各員、又同心協力、一切應援諸務、靡不部署、以時濟とあり、新經略は熊廷弼をいふ、もしくは熊幕下の士たらざりしか、悲むべし、程の言は、驗をなさず、新經略と新撫鎮との不和



は、遼事をして、益危局にみちびくの已むなきに終りたり。

熊張二人の奏議は、姑らく置く、爾餘、概ね當代名臣の手に出でざるはなく、就中遼事に直接せるもの、文字を收めたるは、其の用意を見るべし。萬曆末の明朝財政のいかなりしや、帑金は匱しかりしといふを得ず、しかも戸部は洗ふがごとし、これ注意すべきものの一なり。兵ありて食なく、地方擾亂し、逃兵相つぐの事あり、これ注意すべきもの之二なり。將帥の多くは、我文祿役中半島に角逐せるもの、しからざるも、邊功の士なり、故に、四十七年春の役は、傾國の師といふも不可なし、これ注意すべきもの、三なり。朝鮮蒙古を利用して、滿洲牽掣を策したると、戰略の主なるものなり、これ注意すべきもの四なり。其後順治入關の初、清の攝政睿親王、明の大學士史可法に致書して曰く、輓近士大夫、好みて名義を樹て、而も國家の急を顧みず、大事あるごとに、輒ち築舎に同じ、昔、宋人議論未だ定らずして、兵既に河を渡りぬ、殷鑒となすべしと。親王のこの言をとりて、本書に對するときは、感慨こゝに深かきを覺ゆべし、これ注意すべきもの五なり。

尊經閣の本書傳來については、侯爵前田利爲君所撰の文字之を悉せり、故に贅せず。本叢書刊行に際して、侯爵家編輯諸氏の鼎力に負ふところ寔に多し、これ以て

銘感すべきなり。故に之を誌すといふ。

解題

七





籌

遼

碩

畫

自卷之一  
至卷之九

第十七卷書目

籌  
遼  
碩  
畫

自卷  
之卷  
之一

# 籌遼碩畫引

頃日服部君等。滙明清名人著述關係滿洲蒙古者。題曰滿蒙叢書。逐次刊行。將以餉四方君子。以余家藏籌遼碩畫。世寡傳本。請余攬入焉。余竊以謂。欲知我則視於彼爲優。欲詳內寧不若先知外之爲表裏洞見。乃徵滿洲蒙古古今因革。以悉內外形勢。蓋亦爲不可付之忽諸。善哉君之此舉也。抑余更有感焉。余先世贈從二位綱紀卿。生際乂安。富有三州。乃文恬武嬉。優游以卒歲。人亦應不怪。而早夜振勵。效力藩治。旁盡心聚書。不問中外。不論巨纖。苟有可取以益來昆者。罔不採收。而於其可詳域外形勢者。精檢洞究。三致意焉。謂之有深慮淵識。無不可也。夫處高者遠矚。碩人則大觀。卿其庶幾焉乎。今如本書。亦爲卿所收之一。乃刊行益世。余安得不怡懌而慙慙之耶。印刷成。錄此爲引。



大正九年 月

侯爵 前田利爲撰

# 序文

粵自奴酋匪茹。遼事旁午。一時中外臣工。蒿目而籌者。章滿公車。自閣部卿寺臺省。以迄詞臣勛戚。甚者若罷吏。若廢弁。若孝廉。若青衿。若成均士。又甚者。若屬國。若女胄。凡抱同仇之義。莫不扼腕抒籌。圖上方略。其言兵。言將。言戰。言守。言餉。言運。言馬。言車。言器仗。言屯田。言練京營。言固山海。言防寬鎮。言備通津。言用夷。言徵土司。人攄所見。纒纒不一。要以矢謨陳議。憂深慮遠。內伸撻伐。外復備疆。期滅此而後朝食。則鑿鑿可以佐廟謨。真所謂憂危苦詞。當令碩畫者也。祜也有志請纓。無階借筋。覩逆奴謾書侮榜。不覺髮豎皆裂。何物么麼。輒敢以螳臂當轍。睥睨我天朝。憾不食其肉。寢處其皮。以抒國家之憤。因念高皇帝迅掃胡氛。奪腥羶之寓宙。還之中夏。于時五將軍出塞。蒙古遺孽。鷓伏鼠竄。直今幕南空庭。斯何如功伐。真所謂雪耻酌



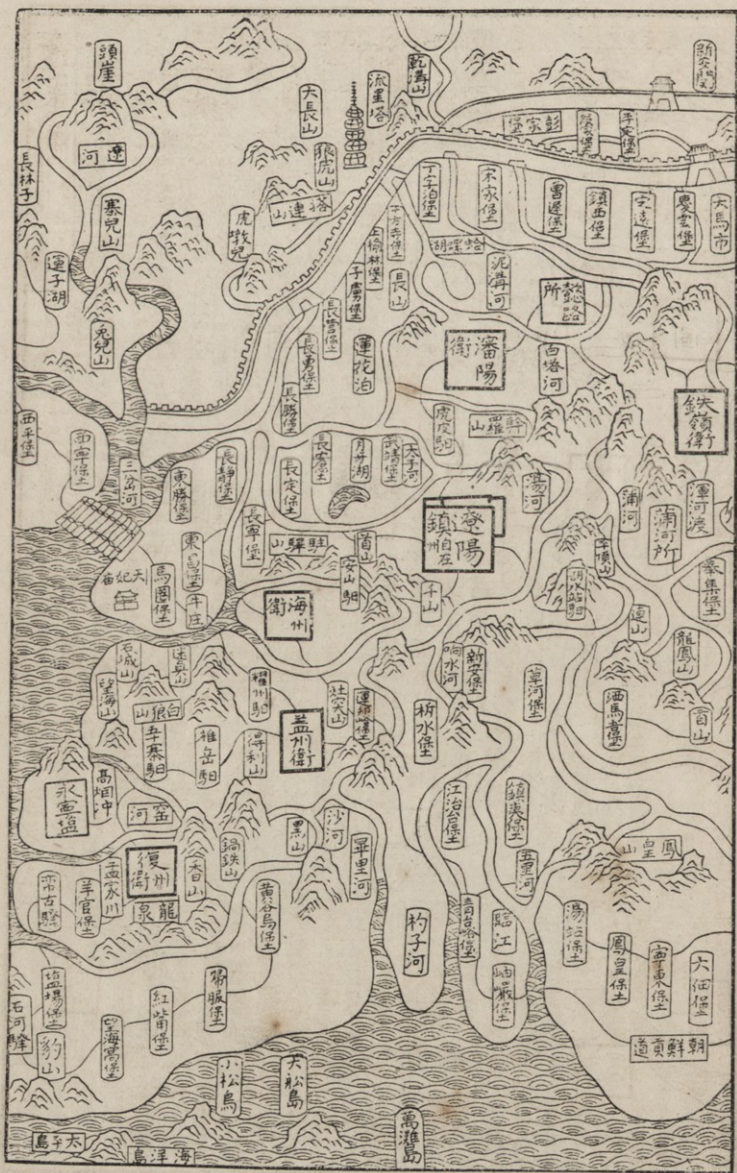
百王。除究報千古者。迨文皇帝建都北平。益懲虜患。天戈所指。至南極斗杓而還。其在東陲。則三衛錯置。用綏要服。蕞爾建州。咸受戎索。迨今二百餘禩。頰首稱外臣。曾何敢逆我顏行者。卽如萬曆初年。王杲跋扈。戕殺邊吏。然偏師一出。旋就禽雉。獻俘飲至。隨築京觀。斯時赫聲濯靈。詎謂氈裘之膽不寒哉。蠢茲奴酋。倏開邊釁。併毛憐。殲灰叭。鏃殺哮囉。誘執宰賽。屠掠金白。蠶食我屬夷。罪在不赦。頃復闌入內地。直至隕將覆軍。尅城夷堡。如蹈無人之境。此豈中朝全力。不能制伏小醜。則從前玩寇積習。爲狡奴所誑。與先當事者。輕率失計。是以取敗也。今幸新經略建牙。賜尙方劍。以振武略。其於防守機宜。業有定着。而新撫鎮司道各員。又同心協力。一切應援諸務。靡不部署。以時濟。故將士奮勵。咸歃血矢盟。思鳴鞭飛槊。以長組繫奴。雖未獲搗巢掃穴。執訊俘馘。而諸截拒撲。間奏首功。似旌旗稍稍生色。由此而繕城守。由此而練甲兵。由此而廣偵探。用間諜。相險隘。行征勦。犁



庭絕漠。懸逆酋之首。獻之闕下。直需時耳。矧聖天子。新嗣御極。其於邊事。尤切宵旰。近睹發帑犒士。而白金文綺。勞錫邊臣者。不崇朝而舉。中外人心踴躍。不啻如靈武受命時。其諸石畫。當一一布行。非徒托之空言者。祐雖小臣。幸拭目以瞻綸渙。知逆奴不足平矣。惟是諸籌。舌敝唇焦。苦心苦口。各抒一得。足襄帷幄。而制疆圉。用是蒐採成帙。仿編年例。爲四十六卷。公之海內。庶寓目者。一展帙。知閱謨秘計。我國家定非乏人。而草澤英雄。有摩厲以須。思得一出以當虜者。挾策而往。未必非行間韜略也。至於終篇。猶俟遼左之露布在。尙需續鑄。以結遼事完局。用備東觀一大典云。時萬曆庚申孟秋。天都程開祐仲秩父撰。









遼東圖  
由山海關至廣寧







遼東東起鴨綠江。朝鮮。西山海關。南旅順。北開原。外邊九百餘里。三面瀕夷。一面阻海。惟山海關內通。中有三岔河。爲遼陽舊城。洪武壬子。遼始兩岐。河西土蠻。時引諸夷爲患。冬河水亦闌入。萬曆癸巳。以來。出師援朝鮮。遼左驛騷。而虜倭兼備。境外酋蠻部落。任收束。北有建州。毛憐。女直等衛。西北朶顏。福餘。泰寧三衛。俱互市通貢。查遼陽前屯。開原。義州。寧前。錦州。鐵嶺。鎮武。廣寧。中後。中右所。瀋陽。鎮靜。清河。懿路。長勇。中前。店山。長安。汎河。西平。中左所。慶雲。武靖。廣寧。右屯。鎮西。靜陽。俱極衝。

東北女直。卽古肅慎。在混同江東。東濱海。西兀良哈。南朝鮮。北奴兒干。北海。永樂初歸附。設都司衛所三百八十二。賜勅印於開原。慶雲。新安等處。交易馬市。夷三種。一居海西。一居建州。毛憐。一居極東。野人兀者。去中國益遠。獨海西毛憐。先爲邊患。自仰逞二奴被戮。迄今貢市撫賞如故。



舊遼陽。在邊外。西行二百里。至廣寧。東北三百里。至開原地界。開廣間相去五百里。今夾河爲塞。紆八百餘里。地饒虜芻牧其中。東北則犯開原。東南則犯廣寧。中則犯遼陽海州。蓋遼左腹心之害。遼故航海。屬山東。自金州旅順口。達登州新河關。計水程五百餘里。海中島嶼相望。遠可百里。近止數十里。舟易停泊。先年山東歲運以給遼。豐歉兩利。因海島亡命爲患。始設嚴禁。萬曆二十五年來。議海運餉東征。其禁稍弛。復設遊擊於旅順。以防海。

朶顏三衛。故契丹種。始爲兀良哈。洪武中。爲蒙古所抄。乞降。爲置三衛。東起廣寧前屯。抵喜峯。近宣府。曰朶顏。自錦義度遼河。至白雲山。曰泰寧。自黃泥窪。逾瀋陽鐵嶺。至開原。曰福餘。已靖難。兀良哈有功。因以大寧畀之。授官置衛。每歲貢賞不絕。石塘古北。曹寨。馬闌。松棚。喜峯。太平。燕河。擡頭。石門。皆撫賞之處。後部落日衆。朶顏遂強。陽順陰逆。時爲虜嚮導。住牧喜峯口邊外。會州青城諸處。附青把都部下。

三衛夷共二百七十枝。酋長昂炒蠻。董狐狸諸夷。及諸婦大小嬖。只猛可真等。號爲六兇。而長昂猶黠。



# 東夷奴兒哈赤考

自開原東北。南抵鴨綠江。透蛇八百餘里。環東邊而居者。則皆女直遺種。皆遼之屬夷。所謂東夷者也。然今之呼女直者。凡三種。其一曰海西女直。則故王台之屬。今開原南北兩關之夷是也。其一則東方諸夷之爲衛所甚衆。而建州領其名。曰建州女直。今奴兒哈赤之屬是也。其極東曰野人女直。去邊遠。歲因海西入市于開原。雖不入貢。而亦不爲邊患。先是海西王台強能得衆。稱開原南關酋。北收二奴。南制建州。終其身向化。而東陲以寧。是時東夷之勢。在王台。故聽其襲祖速黑忒左都督之職。以長東夷。萬曆三年。以擒獻逆賊王杲故。奉旨加授勳銜。與其二子長虎兒罕。少猛骨孛羅。俱爲都督。賞以金幣。特優。已又視西虜例。授龍虎將軍。及王台死。長子虎兒罕又繼死。其子歹商襲職。守忠順之業。後台子猛骨孛羅。與其孫歹商。骨肉相



殘。遂弱。而逞仰二酋。稱雄于北。奴兒哈赤稱雄于南。且各恃其強。而甘心于王台之後。奴兒哈赤。王杲之奴。叫場之孫。他失之子也。塞在宵宮塔內。城高七尺。雜築土石。或用木植。橫築之。城上環置射箭穴。寶。狀若女牆。門皆用木板。內城居其親戚。外城居其精悍卒伍。內外見居人家。約二萬餘戶。北門外則鐵匠居之。專治鎧甲。南門外則弓人箭人居之。專造弧矢。東門外則有倉廩一區。共計一十八照。每照各七八間。乃是貯穀之所。先年叫場。他失。皆忠順。爲中國出力。先引王台拿送王杲。後杲男阿台。將叫場拘至伊寨。令其歸順。合黨謀犯。以報父讐。叫場不從。阿台拘留不放。大兵征勦阿台。圍寨攻急。他失因父在內。慌忙救護。混入軍中。叫場寨內燒死。他失被兵誤殺。因父子俱死。時鎮守李總兵。將他失屍首尋獲。查給部夷伯插領回。又將寨內所得勅書二十道。馬二十四匹。給領。今奴兒哈赤。繼祖父之志。仍學好忠順。屢次送進漢人一十三名口。萬曆十六年五月內。賊酋克

五十。竊犯柴河堡。射死守堡指揮劉斧。巡撫顧都御史。牌行分守栗叅政。差通事宣諭。奴兒哈赤卽將克五十斬首獻進。以後驗馬朝貢。奴兒哈赤祖叫場。原領勅書。係都指揮使。後因送進人口。且歸心聽約束。加陞都督職銜。然彼時奴酋祖父爲我兵掩殺。尙子然一孤雛也。此時惟北關之逞加奴。仰加奴最強。遂日搆西虜。與王杲子阿台等。以攻殺南關爲事。十一年。逞仰二奴被戮。奴酋於是漸長獷豕之牙。與二奴子卜寨。那林孛羅。遂相角立矣。二十二年。卜那二酋思報父讐。又日與南關相講。遂反戈以攻奴酋。不謂大敗。卜酋竟爲奴酋所殺。比北關請卜酋屍。奴酋剖其半歸之。于是北關遂與奴酋爲不共戴天之讐矣。二十六年。那酋又攻猛酋。猛酋力不能支。因質妻子。求援于奴酋。奴酋利其妻妾部落。悉兵以出襲而執之。猛酋寄命奴寨。幾二年。奴酋乃僞以女許妻猛酋。而陰縱其妾與通。徐以私外母射殺之。盡得其所。此二十八年事也。及我中國切責欲問殺猛酋。



之罪。革其市賞。奴酋因悔罪。許妻猛酋子吾兒忽荅以女。厚其粧奩。併原搶人口財物。送我兒忽荅歸南關。中國原其悔罪。遂置不問。至三十一年。那林孛羅與白羊谷。又料莊南。搶殺吾兒忽荅。吾酋窮迫無歸。因投奴寨自存。自後吾酋不返。而南關之勅書屯寨。土地人畜。盡爲奴有矣。邇年以來。奴酋自稱恭順。每以北關戕殺吾酋爲口實。尙自托于存孤之義。而實以與爲取。以護爲吞也。在北關缺望。于南關不得。又懷伊父未報之讐。每以奴酋吞併南關。謀犯內地爲詞。四十一年。北關又收奴逃婿卜占台。而妻之以女。又悔奴酋所聘老女。轉欲嫁與煖兔子把哈打兒罕。奴酋于是與北關深恨積怨。益不可解。時中國倚北關爲外藩。乃主援北之議。使鎗砲手戍金台失。白羊谷二寨。以至奴酋大憤。兵端自此起矣。初則差男莽骨太。帶領馬步夷人。在于靖安堡廣順關外地方。包寨周圍約四百丈。繼則侵入柴河。松山。白家冲等堡。撥夷人萬餘耕種。又繼則領夷兵進境。徑馳至



開原南門外河灘列營。種種跋扈。其目中寧有中國哉。已而破撫順。夷撫安。三岔。白家冲三堡。覆清河。陷開原。再陷鐵嶺。在彼勢若貪狼。在我禦如拒虎。嗟嗟遼陽一塊土。半染腥羶。寧不寒心也。蓋奴酋擅貂參之利。富强已非一日。自撲殺王兀堂。吞其地。遂南與靉陽。寬奠爲隣。自撲殺阿台。吞其地。遂北與撫順。清河爲鄰。自戕殺猛骨孛羅。吞其地。遂又北與開原。鐵嶺爲隣。自擒殺金白二酋。吞其地。而我之撫清開鐵城堡一空。遂近與遼瀋爲鄰。又兼北關旣亡。東西夷虜。自此合交無碍。門庭之寇。乃及堂奧矣。及今守遼瀋。須復開鐵。而後可固形勢。繕甲兵。徐議征勦也。乃寬奠。鎮江一帶。地雖濱海。而聞烏龍江。奴方造巨艦。繫以長纜。萬一叵測。問渡。旅順登萊天津一帶。寔剝膚之患。可謂虜習騎不習海哉。况年來。淮東海運糧儲。舉積于此。十八萬軍。生死繫命。則安得不急屯重兵。不逋簡猛將。不委任節鉞。文臣而泄泄坐視也。杞人愚慮。曷勝緯恤。惟當事者籌之。

歙諸生程令名識



# 會報

大正十一年六月

滿蒙叢書刊行會

東京市牛込區市ヶ谷臺町九十三番地  
振替東京四二六八〇番  
電話九段三二〇三番

## ○滿蒙叢書第十七卷

滿蒙叢書第七回刊行、第十七卷は籌遼碩畫首卷より第九卷に至る各卷を收む。本文五百十頁、解題其他を合して六百頁を超え、從來の各卷に比して頁數最も多し。

籌遼碩畫は解題に述ぶる所の如く、前田侯爵家の祕本に係る。今や支那に於ても、恐らく一本を残さざるべく、其の偶々我國名家に傳はりて今日に至れる、亦一奇となすべし。全部の刊行には叢書の約四冊を要すべく、原稿の謄寫その他一切の準備は完了せるも、後卷の發行は姑く他日を期することと爲せり。是れ則ち本卷を叢書第三期事業の首卷として、第十七卷に列せる所以なり。印刷は東京築地活版製造所に當れり。

本卷の組版に着手したるは、昨年春夏の交に在りしも、爾後本卷の主幹者に、種々身上の事故あり、刊行事業に専なるを得ず、遷延今日に至れるは、會員諸君に深謝する所なり。幸にして今春來上記の事故漸く去りたるを以て、今後は努めて功程を急がんとす。

## ○滿蒙叢書第六卷

次回の發行は第六卷とし、調宜延吉邊務報告書、吉林紀要、寧古塔紀略、寧古塔志、封長



白山記の各書を收む。調査延吉邊務報告書は、日支兩國間、間島問題の繫争ありし當時、清國地方官憲の實地に就き、各種公文に稽へ、古くは之を歷朝の史乘に徴して編纂せるものに係り、夫の日、支、露三國關係の要地に關し、最有益の志類たり。第六卷の功程は五月末日に於て既に約四百頁の組版を終り、七月中旬頃發行の豫定なり。

### ○編輯者交迭

丹羽正義氏神宮皇學館教授に就職せられ、後任には京都大學文學士鴛淵一氏、京都に在りて内藤翁を助け、編輯事務を擔任せらるゝこととなれり。

### ○豫約者名録

(次第不同)

|          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|
| 東京帝國大學   | 北海道帝國大學  | 慶應義塾大學   | 早稻田大學    |
| 明治大學     | 中央大學     | 專修大學     | 拓殖大學     |
| 東洋大學     | 宗教大學     | 曹洞宗大學    | 豐山大學     |
| 帝國圖書館    | 日比谷圖書館   | 大橋圖書館    | 秋田縣立圖書館  |
| 山口縣立圖書館  | 成田圖書館    | 奉天省立圖書館  | 京城滿鐵圖書館  |
| 大連滿鐵圖書館  | 四洮鐵路局圖書館 | 東京高等商業學校 | 神戸高等商業學校 |
| 大阪高等商業學校 | 山口高等商業學校 | 東京高等師範學校 | 廣島高等師範學校 |
| 第五高等學校   | 第八高等學校   | 東京外國語學校  | 青山學院     |
| 日露協會學校   | 神宮皇學館    | 旅順語學校    | 京城中學校    |
| 龍山中學校    | 釜山中學校    | 平壤中學校    | 善隣書院     |

# 籌遼碩畫凡例

一是集爲遼事鏞。故諸疏揭。凡係籌遼者。槩採入。而薊昌東省。以及京都。于遼皆患切震鄰。是以議關數處者。咸附錄焉。

一是集惟取籌遼。故凡言兵餉戰守等項。一併採錄。其間忠憤所激。不無持議過戇。語涉攻訐者。不敢摭拾傷雅。是以篇中不妨刪削。若舊撫舊經略。舊鎮將。喪師殃國。辜罪顯然。公論已定。談者縷縷。明揭玆。勿以諱。

一談遼事者。夥矣。惟疏中。各抒籌略。鑿鑿中肯。有裨廟算者。乃以壽梓。至語涉雷同。議拾風影。間刪弗錄。若其當事者。任已蹶而議仍收。則不以人廢言也。

一熊張二公。一按遼。一撫遼。其所條議。設備修守。象奴諸策。皆奴覺未發前。卓有先見。故今日籌遼。仍輯其當年奏議。錄于弁首。



一諸疏揭。率搜之邸報。乃邸報中。魯魚豕亥。錯誤者多。至不能強解。故不嫌刪刷一二語。改竄三五字。間或中有脫落詞句者。無從補綴。亦因原本。或刪去數語。或抹去數行。期于詞指了然。意義聯合。覽者勿罪。

一是集從戊午四月起。逆奴始難也。至庚申七月止。先帝終曆也。例取編年。誌前後時事。緩急耳。嗣後新主臨御。誕將天威。凡廟謨廷畫。仍當續梓。不日奴酋獻俘。遼左露布奏捷。乃告竣役。

一撫清開鐵。及三路敗沒諸將士。捐軀裹革。皆殉國難。優卹鉅典。降自朝廷。其在海內。忠憤之士。薦亡弔亡。詩文臚列。皆誼切同仇。痛深飲泣。故另梓一冊。併附。



籌遼碩畫目錄

卷一

按遼議

務求戰守長策疏

熊廷弼

審進止伐虜謀疏

建夷反側邊吏安緩疏

東夷歸疆起貢疏

修復屯田疏

懲前規後修舉本務疏

議款原圖修備疏

撫鎮棄地陷虜疏

卷二

撫遼議

東北虜情揭

張濤

東北虜情議

兵單食匱萬分艱難疏

退欲陳愚疏

屬夷家事互搆揭

建夷質子疏

竟陳遼左迂計疏

卷三 戊午孟夏

黠奴計陷孤城疏

亟議兵餉速發帑金疏

黠奴計陷孤城疏

度支餉饋不敷疏

酌調薊保援兵疏

奴酋計殺官兵疏

李維翰

趙興邦

薛三才

官應震

汪可受

薛三才

遵旨會議疏

薛三才

遼左阡危薊門震驚疏

王象恒

速發援兵以救危邊疏

熊化

廟算萬全當計疏

官應震

邊城有警內備宜嚴疏

吳亮嗣

遼餉緊急帑金遲緩疏

官應震

揭

方從哲

再乞速發內帑急議大兵疏

趙興邦

議請督臣移駐關東疏

薛三才

遼事告急廟算宜周疏

徐養量

臨朝用人以保泰運疏

盧謙

遼左阡危國勢決裂疏

張孔教

國勢方殷邊餉正匱疏

李汝華



卷四

戊午閏夏

早計防勤以固封疆疏

李徵儀

薊門足兵弁速用昌鎮大將疏

潘汝禎

嚴飭邊臣決策防勤疏

熊化

仰陳末議大伸撻伐疏

鄒之易

用人才採輿論疏

姚若水

會謀不測國計萬全疏

范濟世

請命進止疏

劉日梧

敬陳援遼一得疏

官應震

急調附近南兵疏

李長庚

按征倭播事例酌議兵食疏

薛三才

遼餉孔亟疏

李汝華

申飭固守大張撻伐疏

薛貞

用人安攘疏

丁詩教

風霾屢作可懼疏

何宗彥

兵食計當蚤決疏

薛三才

修常法策交儆疏

劉廷元

卷五 戊午仲夏一

增餉臣豫輓輸疏

唐世濟

豫發限解舊例揭

馮汝京

略舉建夷今昔情狀疏

張懋中

再允兵部續議餉銀疏

汪可受

遼薊相爲唇齒疏

王象恒

合詞懇發多金疏

官應震

整軍經武以彰天討疏

郭振明

禦戎勝算宜周疏

米萬鍾



救援方略宜全疏

敬陳勦守機宜疏

亟圖修攘實政疏

兵餉時不可緩疏

俯允會議再發帑金疏

請帑揭

亟發帑金速允廷議疏

申飭定畫以正天討疏

卷六 戊午仲夏二

遼撫喪師立賜逮問疏

遼餉燃眉舉朝袖手疏

急缺援遼兵餉疏

聽言圖勦以奮國威疏

劉盡臣

趙興邦

晏文輝

李維翰

薛三才

方從哲

吳汝胤

盧謙

李徵儀

官應震

劉日梧

王遠宜

募兵固守以圖進勦疏

潘汝楨

酌議海運事宜疏

李長庚

喫緊發帑疏

徐紹吉

敬陳措餉三議疏

官應震

急圖安攘疏

趙興邦

奴勢披猖算宜周慎疏

唐世濟

急議應猝兵將疏

楊鎬

懇乞臨朝集議疏

方從哲

寬緩坐誤軍機疏

陳騰鳳

速發帑金疏

張慶臻

急發蠹積增選裨將疏

楊一桂

講求全策立奏蕩平疏

焦夢熊

遼餉厝處惟艱疏

李汝華



卷七 戊午季夏一

速勅薊兵出關疏

楊鎬

急議應猝兵將疏

薛三才

再陳那借之策疏

李汝華

南北借湊共濟時艱疏

官應震

急借部寺現銀以濟軍興疏

李汝華

日象大異疏

董應舉

條陳薊鎮事宜疏

潘汝禎

遼餉請借揭

官應震

運道查覈頗確疏

王象恒

卷八 戊午季夏二

敬陳愚忠以滅奴酋疏

柴國柱

大發帑金疏

趙紱

謹陳根本要議揭

顧文綱

仰求多助共濟大艱疏

楊鎬

司空爭執疏

官應震

發帑伸威以寧宗社疏

許濬祥

權時通變酌盈濟虛疏

李汝華

憂患思防疏

王象恒

發帑任人疏

孫光裕

各鎮精銳赴援疏

趙興邦

忠謀盈廷採納宜速疏

郭一鶚

時事可畏敬擴微忱疏

顧大禮

卷九 戊午孟秋

持樽節以重軍需疏

官應震

市口緊要將官疏

楊鎬



禍。吾亦歸休。縱使他日禍遲而大。如科臣所慮者。亦不過如今日大勝堡之失事而已矣。而又有加乎。况狃款弛防者。尙且不得此禍。而乘款修備者。豈宜復有此事。臣日夜算此有利無害。可使城堡不至破陷。可使軍民不至殺掠。可使供億不至乏絕。可使人馬不至損傷。可使地方無內潰之變。而皇上無東顧之憂。種種便宜。皆於閑暇中得之。然則款何負於地方哉。是臣議款之本意。實在於此。蓋先爲不可勝。而後戰。戰可常勝。雖報怨。吾不以爲懼也。操其權於我。而後款。款可長固。雖敗盟。吾不以爲意也。此臣之所謂真戰真款者。此也。所以修備而待戰。非以忘戰而釀禍也。乃臣方欲用款以修備。而科臣則謂議款以釀禍。臣方欲留人以任款。而科臣必欲破款以逐其人。似此執異。誰敢擔承。若使目前之款。政難終事。必將曰吾固知款之不成。而按臣主之。今果然矣。臣且不免於今日之嗤議。又使將來之虜。一或渝盟。又必將曰吾固知盟之必敗。而按臣主之。今日驗矣。臣

開鐵深爲可慮疏

吳亮嗣

再抒末議佐軍興疏

兵部

陳一得謀萬全疏

劉 綖

天人交警亟圖消弭疏

張 銓

存大計捐小費疏

黃克纘

謹獻救時急務疏

鄒維璉

敬陳愚見仰佐廟謨疏

王命濬

酌議切要事宜疏

黃嘉善

詳部覆發營軍疏

劉曰梧

各邊防禦宜亟疏

黃嘉善

慨發帑金疏

常胤緒

建賊攻克清河疏

陳王庭

奴酋罪在必討疏

張銓

清河失守大將寡謀疏

趙興邦

議設遼撫以專責任疏

卮詩教

敬陳援遼急着疏

官應震

權便移民以絕賊望疏

楊鎬

那借採木稅銀疏

李汝華

朝政後時釀釁疏

曾陳易

博稽羣策特請宸裁疏

官應震

并陳沿邊措置略節疏

楊鎬

據實查叅懲玩疏

陳王庭

調整軍兵恭候明旨疏

李暉

申明征倭事例疏

李汝華

卷十一 戊午季秋



速講足兵足餉長策疏

周永春

再催援遼諸將疏

王象恒

亟賜擬議以保內地疏

王象恒

揭

方從哲

敬循征倭征播加派往例疏

李汝華

遼餉摻括不敷疏

龍遇奇

敬陳戰守緊要疏

房壯麗

亟點左右侍郎疏

李汝華

急圖用人疏

劉蔚

請發賞功銀兩疏

陳王庭

再調邊兵疏

黃嘉善

特勅酌議以便轉輸疏

官應震

條陳保昌事宜疏

潘汝禎

卷十二 戊午孟冬

急議應猝兵將疏

楊應聘

急補中軍添設標兵疏

黃嘉善

遼餉厝處宜多疏

李汝華

朝政用人爲要疏

薛鳳翔

夷情疏

黃嘉善

亟下加派例議疏

李汝華

遼將死事不同疏

張銓

師期將及再陳末議疏

黃嘉善

畿民疲累加派重困疏

劉曰梧

地震修省疏

郭一鶚

邊臣勝算宜收疏

田生金

乞覆守援真情疏

麻承恩

卷十三 戊午仲冬

星變修省疏

吳亮嗣

天象甚異亟圖修省疏

羅國朝

議定軍餉畫一則例疏

楊鎬

天象示變人心恐懼疏

趙紱

時事可虞天變宜喪疏

趙煥

屯田禦戎疏

吳摭謙

目擊時艱敬陳末議疏

胡來朝

留續調兵馬移將臣出關疏

周永春

殺擄屯民隱匿塘報疏

陳王庭

狡賊劫掠將官欺匿疏

楊鎬

速點侍郎共濟安攘疏

李汝華

卷十四 戊午季冬



謹陳遼左可慮情形疏

趙興邦

修文飭武疏

官應震

海內軍實宜覈疏

黃嘉善

謹據見聞直陳情狀疏

董承詔

急催以濟征討疏

楊鎬

重地疎防大將數易疏

劉曰梧

關帥原籍援遼疏

周永春

邊臣捐成心持定力疏

趙興邦

下考選肅城築疏

陳王庭

關夷勤克奴酋一寨疏

楊鎬

敬陳切要急務疏

江日彩

卷十五 己未孟春

維新圖治疏

王元雅

議舉安邊實政疏

敬陳膚議疏

撻伐將行敬據一得疏

恭陳征勤事機疏

徵解加派及搜括銀兩疏

請多餉以濟危邊疏

卷十六 己未仲春

議添兵將疏

先陳梗概疏

恭陳軍前緊要事宜疏

多餉以濟危遼疏

議定軍餉畫一則例疏

風霾修省疏

黃嘉善

趙琦美

黃嘉善

董啓祥

李汝華

周永春

周永春

楊 鎬

陳王庭

李汝華

周永春

李奇珍

恭報師期疏

楊 鎬

風霾示儆疏

趙 煥

亟命督餉大臣疏

李汝華

風霾示異疏

沈 珣

謹撮持危定傾之略疏

楊州鶴

大發帑金佐軍興疏

楊州鶴

卷十七 己未季春一

援將違律喪師疏

陳王庭

面諭亟圖安攘疏

董元儒

亟圖定亂疏

趙興邦

立下用人發帑疏

周應秋

遼薊情形並急疏

官應震

夷虜交訐疏

李奇珍  
官應震



敬陳防守疏

邊圉告急國勢可危疏

新餉已發數多疏

會議戰守疏

乞勅科臣閱遼疏

亟議安邊固圉疏

京守宜嚴疏

廷議用人疏

亟修安攘實政疏

明職掌嚴責成疏

酌議遣將調兵疏

卷十八 己未季春二

急議募兵防通疏

胡來朝

姚宗文

李汝華

周永春

張延登

王象恒

沈珣

楊鶴

唐世濟

楊鶴

黃嘉善

張至發

簡將添兵疏

楊州鶴

銳意圖新同心勵氣疏

張孔教

允用侍郎資共理疏

李汝華

大修戰守之具疏

吳亮嗣

京營簡練要務疏

薛三才

臨朝集羣策疏

方從哲

感事激衷敷陳末議疏

徐光啓

亟行查覈以振積弛疏

唐世濟

敬陳一得備採擇疏

劉蔚

倉儲最重申飭預防疏

張問達

警告日殷隄防宜急疏

趙世新

敬陳一得備安攘疏

祝耀祖

遵旨會議疏

黃嘉善

敬陳末議疏

募兵應爲歸併疏

籍兵疏

發營軍兌寺馬移總兵疏

卷十九 己未孟夏一

敬陳急切要務疏

上大司馬書

要地單弱不支揭

支餉募兵揭

勅勵朝鮮金白二酋疏

援兵運廻不發疏

軍情疏

謹抒救時急務疏

官應震

王象恒

周永春

劉曰梧

倪應春

姚宗文

王化貞

官應震

陳王庭

黃嘉善

楊鶴

韓浚



酌發帑銀疏

李汝華

敬陳膚見佐末議疏

孫之益

敬陳末議圖萬全疏

黃嘉善

臣工極力協志疏

劉有源

兵非選練決難戰守疏

徐光啓

敬陳威德並用疏

張鼐

明正軍法疏

范濟世

從權濟急疏

盧謙

宣軍鼓譟大將逗遛疏

黃嘉善

卷二十 己未孟夏二

效血誠雪國恥呈

李登

謹陳積誠感動疏

張延登

恭陳微悃疏

吳伯與

謹效愚悃疏

四二  
盧謙

條議調將募兵實用疏

韓原善

用虜機會可乘疏

王象恆

亟採忠謀斷在必行疏

郭一鶚

敬陳援遼末議疏

官應震

集議援兵急務疏

黃嘉善

招兵愈衆措餉愈艱疏

李汝華

酌議一體加餉咨

周永春

解近憂圖後效疏

晏文輝

敬陳一得疏

馮嘉會

卷二十一 己未仲夏

行稽查防冒破疏

李汝華

上天垂戒孔昭疏

李汝華

併採羣言全遼安薊疏

謹陳戰守軍需梗概疏

允查餉銀數目疏

勅科臣速閱疏

兵食已窮部臣互執疏

遼餉省費捷法疏

俯採芻蕘疏

新餉易盡舊額難割疏

條議餉務事宜疏

危遼需餉孔亟疏

奴虜交訐邊情日急疏

敬陳征勦方略疏

傅宗臯

李如楨

李汝華

黃嘉善

李奇珍

董啓祥

俞誨

李汝華

李長庚

傅宗臯

徐兆魁

范世文

卷二十二 己未季夏一



國威乍挫廟算宜周疏

經略閱視俱不可緩疏

再請勅書關防疏

夷難未平防禦宜急疏

酌議一體加餉揭

亟發經略疏

催發經略揭

瀝陳芻言以舒忠憤揭

立勅經略到任疏

亟圖守禦疏

逆酋僭號敢犯天威疏

罪己用人疏

班軍揀選宜精疏

駱駸曾

吳亮嗣

熊廷弼

黃嘉善

王化貞

黃嘉善

方從哲

龔利用

官應震

黃嘉善

丁詩教

張延登

范濟世

遼警迫近神京疏

馮嘉會

速圖安攘疏

吳亮嗣

卽勅救援疏

周永春

下詔罪己多發帑金疏

李奇珍

急調邊兵疏

范濟世

卷二十三 己未季夏二

經略將行兵食宜豫疏

丁詩教

遼勢已迫內固宜周疏

張至發

勅議守禦收復疏

熊廷弼

振積習嚴秋防疏

黃嘉善

敬陳今日危務疏

張鼎

敬陳末議以裕兵餉疏

祝耀祖

薊兵難議再調疏

董元儒

急救戰守先著疏

李植

職心感憤益切疏

徐光啓

廟算再誤貽悔疏

黃嘉善

德澤謀慮兼疎疏

王象恒

卷二十四 己未孟秋一

經臣先聲宜震疏

官應震

直陳內外怠弛疏

房壯麗

揭周巡撫書

熊廷弼

立決防勤之策疏

張懋忠

召募須求實用疏

唐世濟

朝論日紛疏

張鼐

赴邊甚急疏

熊廷弼

急救遼陽疏

熊廷弼



遼左氛熾京城患切疏

耗餉宜塞疏

催閱臣出關疏

遼警益急餉務難支疏

飛報萬分緊急賊情疏

舉新政保國祚疏

卷二十五 己未孟秋二

謹陳安攘疏

疆場失陷廟算因循疏

火速調兵遣將疏

振士氣遏夷鋒疏

援兵出關無期疏

及時修攘疏

韋 蕃

李奇珍

官應震

李長庚

黃嘉善

周之綱

張國祥

周希令

范濟世

李汝華

陳王庭

蔡思充

援兵時刻難緩疏

黃嘉善

敬陳兵食急計疏

周希令

募兵邊鎮疏

黃嘉善

遼左大勢全危疏

姚宗文

遼左制勝有機疏

牟志夔

俯允召募計處餉銀疏

王在晉

卷二十六 己未孟秋三

嚴營操以資防守疏

范濟世

謹陳策遼愚悃疏

盧謙

敬陳制勝定謀疏

魏應嘉

亟爲用人行政疏

趙紱

援兵不至遼餉將絕疏

周永春

效膚言以備採用疏

張鼐

權借金花銀兩疏

李汝華

遼餉燃眉再陳末議疏

李長庚

敬據新編補陳舊牘疏

官應震

防禦神京疏

董啓祥

直省募兵當議疏

李徵儀

京營戰守疏

陳良弼

酌羣議以足兵餉疏

吳亮嗣

卷二十七 己未仲秋一

部司蒙譴微職當禡疏

官應震

計屬急公可原疏

張延登

謹陳戰守機宜疏

王命璿

臨朝決策疏

姚宗文

肅軍紀伸國法疏

田生金



募兵近畿疏

黃嘉善

東省防禦厝處兵食疏

陳王庭

議調水陸精兵疏

黃嘉善

憂國無策謹據直陳疏

張 鼐

叩闈謹瀝封疆疏

李汝華

議固以防海運疏

王在晉

謹瀝血披消弭禍亂疏

卍詩教

卷二十八 己未仲秋二

恭陳初到事宜疏

熊廷弼

亟請盛甲硝黃疏

王象恒

上下志狃因循疏

晏文輝

議置道將疏

熊廷弼

請發軍器疏

熊廷弼

亟發近鎮軍將疏

熊廷弼

諸臣審時決策疏

楊嗣昌

客兵最苦鄉兵可嘉疏

黃嘉善

調募無算應餉無算疏

李汝華

再申截漕原議疏

李長庚

查叅閩帥疏

陳王庭

謹陳設兵減兵之數疏

王在晉

切責當事諸臣疏

卍詩教

謹陳一得以壯國威疏

程繼怡

卷二十九 己未季秋一

正軍法定官守疏

熊廷弼

速易主帥疏

熊廷弼

速議將兵以濟燃眉疏

陳王庭

廟謨宜出喫緊以收實用疏

敬陳末議以救危邊疏

兵餉報數宜確以破積弊疏

再陳兵餉之計以維封疆疏

查解軍器以覈實用疏

戰守已無可支俾作區處疏

北關已陷亟圖修備疏

庫藏空虛酌處以濟時艱揭

京營急務以振積弱疏

再陷北關遼陽益危疏

極言遼左潰敗疏

敬陳援遼十一議疏

國勢難支亟救宗社疏

孫學詩

祝耀祖

李汝華

吳亮嗣

祝耀祖  
俞誨

熊廷弼

劉蔚

劉榮嗣

黃克纘

張延登

方從哲

官應震

黃嘉善



遼事日危深籌國勢疏

救遼急着惟在發帑疏

再陳兵食防禦疏

卷三十 己未季秋二

直陳救遼急着疏

合懇發帑疏

庫貯已空國計日縮疏

收集兵力以固遼陽疏

臨朝決策疏

謹陳切要事宜疏

召對大臣以集忠謀疏

申飭紀律以實行伍疏

酌調土兵以資征戰疏

倪應春

周永春

姚宗文

官應震

李汝華

華顏

熊廷弼

方從哲

徐光啓

范世文

祝耀祖

熊廷弼

亟通壅蔽以振式微疏  
嚴勅各鎮精選援兵疏  
足食足兵以救危亡疏  
營軍操練以固神京疏

卷三十一 己未孟冬一

兵事百不相應疏

速發帑金疏

合詞三懇發帑疏

請兵戍守要地疏

敬陳第一要機疏

中朝日剝邊疆難療疏

東省兵虛揭

虎愁聲息甚緊疏

唐世濟

熊廷弼

晏文輝

范濟世

徐光啓

王遵德

李汝華

周永春

薛鳳翔

蕭毅中

王在晉

董元儒

東陲告急以安內攘疏  
時勢極迫以重防禦疏  
調譴紀律以壯軍威疏  
直陳禍福以效孤忠疏  
軍事尙無完策疏

卷三十二 己未孟冬二

申明區處大略疏  
速下練臣條畫疏  
添兵防守朝鮮疏  
敬陳上下交警疏  
風電災異疏  
兵事憂危滿目疏  
四懇借帑疏

張光朝

徐光啓

祝耀祖

喬拱璧

周師旦

熊廷弼

張 鼐

周永春

官應震

周永春

姚宗文

李汝華



發內帑議營田疏

國勢机隄人心動搖疏

五懇發帑疏

悔悟更始疏

外解將盡遼餉可虞疏

用佐兵食前籌疏

特允發帑疏

卷三十三 己未仲冬一

遵旨出關再陳末議疏

歷陳遼餉緊急之狀疏

邊事日急朝政日弛疏

催已推未推鎮臣疏

六借帑金疏

李奇珍

趙紱

李汝華

陳王庭

張問達

薛鳳翔

李長庚

姚宗文

單崇

劉蔚

文球

李汝華

夷氛叵測廟算全疎疏

周萬鎰

防夷十要以固封疆疏

王在晉

共圖安攘以保宗社疏

車朴

卷三十四 己未仲冬二

議調水陸精兵疏

徐兆魁

廟謨措餉難緩疏

官應震

遼左急缺糧草疏

李奇珍

與閣部書

熊廷弼

計臣窘同露肘疏

劉有源

內治共濟宜周疏

江日彩

遼餉垂盡遼費滋多疏

李汝華

用人發帑疏

何熊祥

料理兵馬錢糧疏

姚宗文

調兵遣將用人修政疏

黃克纘

運器續發運價議處疏

李汝華

敬陳目前急着疏

薛鳳翔

勅催原調新添兵疏

熊廷弼

卷三十五 己未季冬

監收海運疏

李汝華

愚臣計餉難緩疏

李長庚

解完軍器疏

馮時行

目擊時艱敬陳膚見疏

李永祥

共襄餉務疏

官應震

朝政節節廢弛疏

毛一鷺

酌添偵防協守疏

周永春

急揀三韓疏

彭鯤化



嚴催僱造淮船疏

李汝華

遼東敗壞難支疏

薛敷政

急發援遼兵馬咨

熊廷弼

畿輔近災剝膚疏

范性善

估計要地城土疏

周嘉謨

卷三十六 庚申孟春一

條陳募兵切要事宜疏

祝耀祖  
王象恒

議添援兵馱馬疏

文球

堵殺款虜認罪揭

熊廷弼

添兵將咨

周永春

點發坐調土兵疏

饒景暉

敬陳戰守大略疏

李汝華

議調水陸精兵疏

王紀

畿輔困敝民心動搖疏

兵餉揭

求經濟革疵政疏

催兵愈嚴虛應如故疏

謹陳緊急餉務疏

卷三十七 庚申孟春二

狡夷悔罪認罰疏

濟水輸便陸輓疏

遼左轉運事急疏

撥兵防援疏

新兵全伍脫逃疏

直述新兵失伍之數疏

司帑無餘再行搜括疏

王象恒

張 鼐

鄒維璉

熊廷弼

周永春

文 球

李奇珍

李汝華

熊廷弼

熊廷弼

陳王庭

孫之益

嚴責成厚兵力疏

薛鳳翔

請發餉臣閱臣諸疏疏

李汝華

振武備銷大患疏

鄒維璉

固屬國救危遼疏

盧謙

本色轉運甚艱疏

房壯麗

海運難增船糧難辦疏

王在晉

內帑難外帑宜還疏

陳王庭

卷三十八 庚申仲春一

特免召買牛隻疏

王在晉

需兵甚急籌策宜周疏

王遠宜

奉旨募兵疏

曾汝召

謹陳目前緊急餉務疏

李汝華

朝鮮飛報緊急虜情疏

黃嘉善



敬據援遼以祈立允疏  
國憲不飭民散可慮疏  
法今日弛民心日攜疏  
遼患已極人心堪憂疏  
錢糧缺乏至極疏  
寬縱致敗嚴急招尤疏  
漫陳餉遼之策疏  
遼餉不繼內潰可虞疏

卷三十九 庚申仲春二

屬國私情當體疏  
議調土兵不便疏  
効逃伍言利疏  
通州兵譁幸定疏

官應震

曾汝召

倪應春

彭際遇

熊廷弼

熊廷弼

曾汝召

李汝華

黃嘉善

沈珣

薛敷政

彭鯤化

陳遼左空乏疏

姚宗文

遼鎮兵食兩困疏

李奇珍

酌議停免徵調水兵疏

吳光龍

敬攄援遼管見疏

李汝華

中外迫情兵餉艱狀疏

周萬鎰

卷四十 庚申季春一

議留賢能餉司疏

熊廷弼

會議守備不設律例疏

張問達

摘目前急務疏

牛維曜

四衛轉輸無人疏

周永春

主持派運分數疏

李汝華

會議畫一疏

李汝華

議單

李奇珍  
官應震

謹陳緊要之議疏

毛一鷺

遼餉支借將盡疏

李長庚

邊鎮告急帑藏空虛疏

劉蔚

措處遼餉疏

徐兆魁

請纓勉效圖報疏

何棟如

卷四十一 庚申季春二

嚴勅催發糧草疏

熊廷弼

兵逃當問馬倒有因疏

薛鳳翔

奴兵壓境火藥全焚疏

官應震

亟圖就近救援疏

熊廷弼

內地防禦當急疏

黃嘉善

防守兩難疏

李汝華

面決羣策疏

姚宗文



亟催各道以圖共濟疏

熊廷弼

人心不可棄天疏

左光斗

敬瀝安攘疏

鄒德基

卷四十二 庚申孟夏

敬陳三說以保全遼疏

林有臺

推廣要務以備採擇疏

薛鳳翔

速議防備山海疏

文球

姦細供報夷虜合謀疏

周永春

專陳緊急未盡餉務疏

熊廷弼

舟車無湊轉運力窮疏

李汝華

民窮已極減派杜亂疏

張銓

戍卒堪憐疏

陳王庭

建夷謀犯益工疏

黃克纘

客兵鬪格居民被害疏

薛鳳翔

畿輔民力已竭疏

喻安性

再陳轉運未盡事宜疏

李汝華

遼警驚心國勢燒眉疏

江日彩

痛辨誣枉疏

李暉

東東西虜合謀疏

黃嘉善

卷四十三 庚申仲夏

敬陳遼左事宜疏

姚宗文

奉旨訪問疏

姚宗文

六逆五盡二反一順疏

林一柱

遼左將帥同盟文武和附疏

熊廷弼

時變需人至急疏

馮嘉會

數陳末見疏

李自用

援兵逃伍究肅軍紀疏

董元儒

卷四十四 庚申季夏一

處置逃兵疏

薛鳳翔

膠昌海道通行疏

王在晉

敬陳救遼機宜疏

王命濬

與各衙門書

熊廷弼

恩賚慰勞官兵疏

熊廷弼

究處脫逃援兵疏

文球

逆奴辱國敷天同仇疏

姚思仁

發帑加銜疏

薛鳳翔

申飭僱運之法疏

李長庚

思協力以圖雪恥疏

楊光夔

卷四十五 庚申季夏二



憤辱徒空雪恥未實疏

左光斗

補道臣發兵將疏

陳王庭

乞大頒恩賚疏

周永春

嚴申無甘僇辱之旨疏

楊漣

逆酋侮慢難堪疏

劉有源

速催總兵疏

文球

振積弛修實政疏

黃嘉善

藩忽被兵遼難獨守疏

官應震

合詞懇黜邊道疏

黃嘉善

海運增煩財力大匱疏

李汝華

外侮難甘自振宜力疏

李若珪

逃兵拒捕殺人疏

姚思仁

謹陳舊事以備省覽疏

周炳謨

申飭僱運之法疏

李汝華

速正逃兵劫殺之法疏

江日彩

議處逃兵以消亂萌疏

王象恒

採輿論備三韓疏

薛鳳翔

查叅將官規避援兵先後疏

黃嘉善

亟議處置逃兵疏

黃嘉善

亟控逃兵變狀疏

董元儒

備述河東一帶情形疏

熊廷弼

查勘功罪疏

熊廷弼

土兵闕逃地方釀釁疏

文球

挽人心回國勢疏

易應昌

感激思奮以期殲虜疏

陳寅

籌遼碩畫目錄終



籌遼碩畫卷之一

天都程開祐仲秩父輯

遼東巡按熊廷弼題。爲遼左情勢危急。乞勅當事諸臣。務求戰守長策。以存孤鎮事。臣每憤薊遼之間。虜衆驕橫。邊臣諱戰。頃者。中外諸臣。主必勦之議。秣馬屬鞬。期滅此而後朝食。竊忻然庶幾焉。獨審己料敵。遼於此時。情實危勢實急。臣日夜算此頗熟。實惴惴不任憂懼。今中外諸臣。第知遼虜爲強矣。而強之狀。非親歷其地。不得而悉也。第知遼備爲弱矣。而弱之狀。非親歷其地。不得而悉也。遼西起山海關。東抵鎮江。延袤二千三百餘里。而臨海一面不與焉。虜酋首以百計。控弦數十萬。直前屯者。爲賴蟒等酋。直寧遠者。爲獐兔。拱兔等酋。直廣寧者。爲小歹青。以兒鄧。黃台吉等酋。折而西北。則虎墩兔愁爲虜王。而東西部皆屬之。北則煖赤伯言。他不能等。折而東北。則卜言顧等。又折而東。則抄花等酋。此河西三面虜也。踰三岔河而東。則額

伯革。打大成等。直海州西。孛兒敗。伯言兒等。直遼瀋西。煖兔。宰賽等。直開原西。而北則恍惚太等。東北則北關。東則南關。遼瀋之東。則奴速等酋。此河東三面虜也。四面環繞。如處重圍。而三岔河。界遼爲兩段。虜又插入其內。據其心腹而居之。蓋無地無虜焉。往虜故窮餒。又馬於冬春草枯時。瘦如柴立。故我猶得一閒。近所掠人口。築板升居之。大會以數千計。次千計。又次數百計。皆令種地納糧。料人馬得食。無日不可圖我。而又介在平壤。無重關峻嶺。爲之限隔。朝入則朝獲。夕入則夕獲。蓋無時無虜焉。十餘年前。土蠻愁。動以數萬騎。蹂河西。無寧歲。而河東則奴酋在我卵翼。宰賽父中箭死。尙孤弱。是時急在河西。而河東緩。十數年來。奴酋宰賽等日益強。而河西則虎墩兔愁。尙不能統衆。插漢諸部。貪漢財物。不欲利獨歸主。而各與我市。是時急在河東。而河西緩。頃自搗巢以後。不旬餘。而警報日夕至。河西又急矣。開鐵報宰賽調取人馬。復圖挾搶。而又有拱兔調兵之報。又有



宰酋要會奴兒哈赤。同搶北關之報。又有虜於近邊雕背山南。屯營長亙數里之報。而河東又加急矣。蓋無地無時。而不急虜焉。而又則地方居民。被虜幾掠盡。自關以東。至寧遠三百餘里。不見村落。近廣寧雖稍有村落。而三兩落落。如晨星。自廣寧。東至三岔河。一百八十里。黃沙白草。一望淒然。而河東起東昌。歷遼瀋。開鐵清河。寬奠鎮。江近邊一帶。長亙千數百里。盡成甌脫。近山者巢居穴處。或數里而見一。二家。是屯塞如此。其寡少也。沿邊墩臺。大半坍塌。雖有存者。又低矮。且泥土半砌。一掘卽倒。每虜入必誡臺軍。曰爾勿舉烽。舉則殺爾。舉早亦殺爾。臺軍無以自恃。而畏見殺。往往待虜搶畢。而後敢舉。開原起慶雲堡。至柴河堡三百餘里。墩臺一百二三十座。皆棄不守。其甌石。虜皆拆去。爲板升而存者。虜反據之。以值我撫順。清河寬奠迤東墩臺。亦棄去十餘座。餘多石堆木架。哨軍不敢住。壕塹皆淤平。不復挑濬。而所至城堡。更傾圯甚。且城多無門。又城上不能行人。行則



扶睥睨。而足半垂外。每遇收斂。屯民畏入堡。如入地獄。必泣曰。與我入堡。盡爲虜殺。曷若使我四散逃生者。往往賄收斂官。以脫去爲幸。是墩臺壕塹城堡。又如此其廢壞也。全鎮軍額。失亡幾半。見在軍雖八萬餘。而有馬者僅十五。軍羸馬弱者。又十五。度人馬精壯者。不過二萬有奇。除三大營。已得三分之一。其餘又不過一萬有奇。而以守二千數百里之邊。散於兩協守。七叅將士。三遊擊。二十五備守之部下。能分幾何。其步軍。皆不習弓馬。間有打鳥銃者。據地按膝。手戰戰然。半晌不得入鉛藥。及其發也。又東的西向。而不一中。一切器械皆朽鈍。平原易地。宜用輕車火砲。火鎗之屬。又置不講。卽如開原一道。止得大將軍二位。昨恐宰酋入犯。始討遼陽大將軍滅虜砲各十餘位。暫借鎮江鉛子一千斤應用。夫宰酋爲害。非一日矣。而鑄造銃砲鉛子。豈是難事。蓋遼東邊備。大都若此。臣嘗問回鄉人口云。夷婦每見虜去男婦過。多必大罵曰。你南邊人。如何不置一弓箭。與我達子

對射。我達子也。怕性命。一弓箭不直一牛蹄。如何捨得人畜千百計。而獨不捨得置一弓箭。此雖夷婦妬我婦女之辭。亦遼左軍器一證也。而買備馬匹。又以子銀自愚。盡將年例馬價。留貯廣庫。買貨止以夷馬俵給。各道所轄。營路邊堡。軍士騎操。未經收驗。而死已過半。及各道自買。又限以定價。不得越。大氏標下。親丁家丁。每馬一匹。實價二十兩。或十八兩。其各營路十二三兩。邊堡十兩。又多貨物虛擡。及各役侵冒之數。價已半去。其實馬亦四選之餘。以我下駟。當虜上駟。何以禦敵。臣嘗思之。假如虜犯開藩。不審當先對陣者。屬之開藩兵馬乎。屬之標下兵馬乎。恐五七百里赴援。而虜去幾日矣。又不審近邊。趕逐零竊虜者。屬之邊堡兵馬乎。屬之標下兵馬乎。恐不但無馬。趕虜。求一快馬報信。亦難得矣。是兵馬器械。又如此其單弱而朽敝也。遼餉惟家丁差厚。其營堡軍士。月止四錢。或二錢五分。每歲折色四月。本色八月。各倉舊儲米豆。向因鹽糧。援例人等。買票虛出。通關



情弊。以致陳者不出。新者不入。沓爛如糞。而近收者。又被官吏挿和沙土糠粃等物。各軍雖得糧票。多不願關領。遇有前項買票者。則每票賣銀四五分。無則付之水火而已。而折色又假官帳。爲將領所扣。尅。有經年不得分釐者。終歲嗷嗷。日見逃竄。是軍士又如此其饑餒而無食也。當此無地無時。無不急虜之日。而我之屯塞城堡。墩臺壕塹。軍馬器械。錢糧之類。一無足恃於此。而欲收絕漠之功。談何容易。今之議者。不過曰標下兵馬。精壯堪戰耳。臣以爲數雖滿萬。其實人強馬壯者。不過五六千而止。無多也。假令虜以大衆犯河西。而出旁枝。擾開鐵間。不能分兵。越七百里而往援也。又令潛師犯遼海。而以虛聲恐我於西。不能以大兵空國而東也。又令虜以萬騎犯廣寧。綴標下大軍。不敢出。以數千騎。堵山海關口。使薊兵不得東。數千騎攻高平。使河東兵不得西。而以萬餘騎掠寧遠廣寧間。不能分兵。出鎮城一步也。二十二年間。虜嘗用此法矣。把兔兒以萬騎犯鎮武。東綴



大兵而卜言台周慙率數萬騎直攻右屯城者六日時幸鎮武捷而西虜氣奪耳不然右屯且被屠又不然虜釋右屯不攻而遍掠村屯寧遠廣寧一帶且無子遺此往事也況薊遼虜情相提而論原自不同賴蟒部落雖近萬其精兵不過三數千騎耳卽糾合插漢而薊地重墉疊障故險甚若使去冬謹守隘口不至疎玩則河流必無失插漢久頓冰雪中無所獲必且悔而大責二酋之長以去去則必不復合而二酋之勢孤二酋且如薊何若插漢一枝則強甚于薊遠而于遼切近薊于賴蟒二酋進足以戰退足以守剿之而得固足除兇剿之不得亦不遺禍而遼于插漢諸酋戰守無據剿之而得則讐殺無已剿之不得則禍未忍言徒甘心于無奈薊何之虜而解腕于無奈虜何之遼臣之于此實所未曉臣伏讀聖旨今日問罪重在賴蟒二酋其各夷及款虜素不助逆及悔罪自新者俱撫賞如故若爲二賊勾誘效尤同惡戒諭不悛卽將市賞盡革併議勦誅大哉王言旣許

之以自新。又先之以戒諭。所以撫夷狄而安邊人者。甚厚。使當時誠遣則使宣諭。示以祖宗二百數十年參養之恩。戒勿令助。則挿漢未必不從。賴蟒未必不孤。何至怨結兵連。以有今日。然既前事矣。頃聞當事。主兩鎮夾關。出剿之議。檄鎮臣西出。時鎮臣復從錦州。躬擐甲胄。遠出境外。奮不顧身。爲士卒先。臣誠服其勇義。獨念重兵出塞。未應嘗試。假令虜今日以數百騎嘗我。而大軍出境。明日以數百騎嘗我。而大軍出境。伺我軍且疲且玩。而大虜猝至。以乘我。此再鼓而衰。三鼓而竭之時也。不可不慮也。曩哈流兔之役。聞非鎮臣本意。今騎虎之勢。誠不得下。似應養精蓄銳。俟虜於境上。以主待客。以逸待勞。俟其至而一大創之。幸而全勝。則虜之敗氣。數年不復。而我可得數年之安。不然而勝負相當。則虜亦懲艾。來意且緩。而我亦可得一二年之安。以此論首功。則一可當十。十可當百。以此論戰功。則內在神京。外在封疆。豈不安攘並收。戰守兩得。而境上堂堂正正。當場睹面。



之功。比之出塞。不更足以震國威。而寒虜膽耶。如必欲主出剿之議。必犁庭掃穴。而種滅之。永絕禍源。然後可。不然。而今日搗巢。明日報復。使軍士暴露不得休。男婦奔避不得聚。田土拋荒不得種。白肉覓疔。徒自患苦耳。又況虎穴既難。直探兔窟。又復他徙。越插漢。而遙攻賴蟒。則襲兵在後。舍賴蟒而先取插漢。則強敵在前。雖勤之而不得也。臣願諸臣大樹戰功於境上。而不必再圖出塞。以地方徼幸可也。去冬。奴酋修築南關舊寨。屯軍聚糧。意在窺開原併北關耳。昨且有宰賽會搶北關之報矣。猶云以夷攻夷也。我不暇顧。惟拱兔差使宰賽等營。調兵來往。此必欲因西虜之隙。度大軍不得東顧。而乘此以秋賞挾我。不得則大掠我。又甚則祖把兔兒之故智。合抄花諸酋。犯搶遼海一帶。張西虜之勢。以牽制我。昨鎮臣傳箭。選兵待調。一時道將。憂恐無措。咸謂不去。則懼以違誤軍機獲罪。去則空城誰守。萬一虜乘虛入。一方生靈將何所賴。臣曰不妨挑選以應彼急。河東河西。



俱是撫鎮地方。有事無事。俱是撫鎮責任。彼中自有調度。諒無他虞。顧臣雖謾應之。而心實恐。恐念寧遠一帶。地方空曠。猶野無所掠。而遼海屯聚頗多。虜自十八年大獲而後。常有垂涎之意。不可不防也。今河東之兵。似難輕動。河西之兵。又難獨支。卽薊以偏師來援。亦復不濟。近該薊鎮選得精銳二萬七千餘人。以備征戰。又此時各處修防兵。計且雲集塞下。宣延四鎮兵亦且至。其兵力頗厚。臣謂此時督臣當提重兵。移駐山海關。適中調度。薊急則援薊。遼急則援遼。而薊鎮撫臣。則移駐東西協之間。昌鎮總兵。移駐昌薊之間。宣鎮總兵。移駐宣昌之間。以成犄角之勢。而遼左撫鎮。則以全力照管兩河東西間。而無致有顧此失彼之患。可也。顧臣所尤慮者。不獨在強虜。而又在餓軍。何也。遼軍自東征騷擾以來。復遭高淮毒虐。離心離德。爲日已久。今又驅饑寒之衆。置之鋒鏑之下。憤怨之極。勢且離叛。嘗密聞外間人言。向特怕虜殺我耳。今聞虜築板升以居我。推衣食以養我。

歲種地不過粟一囊草數束。別無差役以擾我。而又舊時虜去人口。有親戚朋友。以看顧我。我與其死於饑餓。作枵腹鬼。死於兵刃。作斷頭鬼。而無寧隨虜去。猶可得一活命也。不祥之語。以爲常談。而近益甚。洵洵皇皇。莫保旦夕。及今不爲設法處餉。速行救濟。直待一旦內潰。爲夷狄驅。而噬臍無及矣。該鎮上年分京民。二運糧餉。尙欠四十萬有奇。撫臣具疏催討。該部悠悠不行處解。近復有借發帑金之疏。浹旬以來。未否皇上省覽。惟節見。兵部題發。薊鎮軍餉。先蒙聖旨。允發太僕寺馬價銀五萬兩。昨復蒙允借太僕馬價十萬兩。戶部湊處十萬兩。解給該鎮。是已洞鑒邊警之甚急。而軍餉之委。不可緩矣。倘蒙俯念遼鎮危急。借發帑金。聽該部如數扣還。誠爲便益。如或未蒙俞允。乞比照薊鎮事例。借發太僕寺馬價十萬兩。該部湊處十萬兩。速解遼鎮。以救一時燃眉之急。不然。而遼軍自東征。稅監相繼。騷害苦倍于薊。本折銀糧。向無實惠。窮倍于薊。平地守禦。寄命虜口。危



倍于薊。該部額餉十欠其七。多倍于薊。墻垣不守。遺寇門庭。重倍于薊。鼓譟數見。易與爲亂。驕倍于薊。以種種倍薊之情。而當憤憤報讐之虜。此莫非軍士。而我之糧餉。獨少獨遲。顧若此。蓋從古以糧賞不均之故。彼此相形。而激變者亦多矣。是不可不爲之深憂耶。臣又願皇上責成部寺諸臣。無急薊而緩遼。無救薊而棄遼。一視同仁。尅期給發。以定人心。而無致有內潰之禍。可也。如果臣言不謬。伏乞皇上亟下該部議覆施行。而至於臣前所言墩壕城堡。軍馬器械。倉糧等項。一壞至此。皇上見之。必有惕然心動者。夫拯焚拯溺。此何等時。而事體久壞於因循。人情每推夫時勢。略刪舊套。全欠新圖。卽如軍馬一節。臣曾疏革羨餘。爲補軍計矣。而軍未見補也。曾疏劾馬價爲買馬計矣。而馬未見買也。臣初以爲無軍無馬耳。及問地方官軍。皆云。軍在各千百戶名下。多賣放。及勢豪所霸占。若上司。肯爲印官作主。不聽其誣捏。則久者可勾十之四五。近者可勾十之七八。未嘗無軍也。



又云。近因營堡專靠夷馬。俵給土產者無所售。盡與朝鮮貿易。每月中江九市。每市二三十匹。歲過朝鮮者。約二三千匹。未嘗無馬也。由此以推遼左。雖是在在凋殘。件件狼狽。然尋頭覓緒。隨事設法。豈遂不可下手。而在事諸臣。每遇難阻滯礙之處。輒姑置之不欲問。嗟夫。時至今日。顧安得見成事體。而使我安然坐享耶。補偏救弊。革故鼎新。及今圖之。已覺其晚。若復不圖數年之後。奴酋愈加強盛。妄萌故業之思。虎墩兔愁。能統大衆。再踵祖父之惡。東馳西擾。有雖欲爲之而不得者矣。近見本兵新任條陳內單。舉實遼左一款。蓋真見情勢之危急。有不得不急爲之所者。伏懇天語叮嚀。嚴行申飭。在事諸臣。速將前項。着實料理。事事見新。無徒容頭過身。以偷旦夕。仍倣漢廷詔問趙充國屯田故事。勅問督撫諸臣。額伍作何勾填。戰馬作何買補。軍兵作何訓練。器械作何製造。城堡墩壕。作何修治。戶口作何充實。屯塞作何團保。棄田作何墾種。屯田鹽法。作何清理。牧馬驛遞。作

何調停。何事冗濫。可以裁革。何軍孤危。可以增添。一切興革事宜。多方諮諏。會議妥確。逐款登對。伏候聖奪。而又定之以規則。程之以限期。載之以考成。久之以事任。爲期於必成。而無畏難苟安。以隳底績。謀期於久遠。而無支吾目前。以飭近功。則事有責成。人無推卸。三五年後。廢墜不起。治化不新。元氣不實。威武不壯。而夷狄不畏服者。臣不信也。

遼東巡按熊廷弼題。爲狡酋近狀叵測。乞酌東西情勢。審進止。以伐虜謀事。今三月初五日。東虜奴兒哈赤。差部夷干骨里。牧牛二夷。齎印信公文二角。俱爲下情事。一稱裏邊如要張其哈喇佃子。須有皇帝印信公文與我。卽行送進。以討陞賞。一稱北關那林孛羅。與西虜做親。同心作害。搶開原地方。又順帶西夷。赴市買賣。這二心賊夷。臨近居住。不得安穩。你天兵。我夷兵。夥同趕他遠處去罷。有西虜兵馬。



我奴阻黨有開原往南到江沿爲止邊界地方我奴一心主正看守等情。到臣。臣不勝駭愕。卽以大義諭之。曰。海西與爾建州。俱是二百數十年。忠順夷人。原無罪過。何故趕逐。縱有罪過。中國自興問罪之師。何需爾兵。且中國天覆地載。似此忠順屬夷。倘被別部侵害。尙當扶持。何忍自加之兵。干骨里卽問。臣有人侵害北關裏邊。還顧他麼。臣謂如何不顧。譬爾奴酋被人侵害。我中國念爾忠順。豈忍坐視。昔朝鮮爲倭所逐。我中國不惜數十萬兵馬。往援以復其國者。此奴酋之所知也。歸語奴酋。毋得妄生他念。二夷遂唯唯辭去。及初六日。又據廣寧備禦鄒儲賢呈。爲拿獲奸細事。內稱。盤山驛捉獲夷人一名。番谷。係奴兒哈赤下部落。供稱。正月內。奉奴酋差遣。因新撫鎮初臨。奴酋畏懼興兵征剿。差本夷。粧扮漢人。網帽襖袴鞋襪。使人不疑。往裏探聽。臨行又屬付。有人識出。你只說是降夷。吳把太一枝。密來投奔夷主。恐怕關口挈著送回夷寨加害等語。隨拘夷官吳把太卽王。



盡忠。面相質證。原不相認。細加嚴審。方纔供吐。是奴酋部落。彼酋見有精兵二三萬。又西虜失勒措。帶領部兵一百家。蚤投建州住牧。奴酋又曾合騷達子。約於朝貢夷人回巢畢日。興兵犯搶。故叫本夷前來探聽裏邊兵馬消息。又稱同行夷伴有名忽失塔者。前後差來。在河東打探。約說他先去報信。不知去否等情。到臣。臣又不勝駭愕。除檄行道將。一面密加哨探。一面整飭武備。仍戒令勿自張皇。以速其釁外。及二十日。臣閱視至瀋陽。復據開原兵備副使石九奏。稟稱。職數日內。偵得建夷情形。或二三百一營。或一二百一聚。俱散布猛酋舊寨。叩之云。我都督與二都督速兒哈赤。近日不睦。恐二都督走投北關。令我們在此防範。職蓋有以料奴酋矣。旬日前。職聞奴酋因修自己寨城。怪速酋部下不赴工。問其故。則云。二都督將欲另居一城也。奴酋怒甚。將速酋之中軍。並其心腹三四夷。立炮烙死。仍拘繫速酋如囚。今且聲言防其逸投北關也。狡哉奴賊。百計以圖北關。而不

得則爲此內應外合。夫此賊方蓄異。豈肯自殘手足。卽自殘。豈肯急自宣揚。職諭北關。業有所以待彼等情到臣。臣益不勝駭愕。噫。奴酋豈嘗須臾忘遼耶。奴酋不忘遼。其肯須臾忘北關。奴酋之計。豈不以爲吾欲圖遼。而不合西虜之勢。則恐己之獨力。未必速得志於遼。遼未可圖也。吾欲合西虜。而北關爲之中梗。不噬而嚙之。西虜未可合也。吾欲併北關。而遼無事。遼無事。則能爲北關援。而且議吾後。北關未可圖也。是故數年以來。子女財帛。所以蠱惑西虜者。無所不至。所以挑剔西虜。使其讐北關。而怨我中國者。亦無所不至。竊竊焉。惟恐西虜與我兵端不開。而彼不得乘機。以爲所欲爲。自去春有慶雲之役。而河東之兵端開矣。去冬有哈流兔之役。而河西之兵端開矣。兵端一開。因而乘西虜恨我之郤。以合西虜。因而乘我有西虜之急。以併北關。而圖我將無所不得志焉。而奴酋就中取事。欲收漁人之利矣。夫人方欲收漁人之利。而我且爲鷓爲蚌。與強盛莫當之虜。爭一



且之命。不勝則禍且目前。勝則我力已敝。而奴酋乘其後。其庸有濟哉。自插漢聚兵報讐。初得此報。人皆爲河西危。而臣獨爲河東危。何也。西虜雖強盛。然所欲。不過搶掠財物而止。無遠志。而東虜城郭田廬。飲食性情。與遼同。所志在我土地也。西虜與我界限頗嚴。尙不知內地虛實。而東虜舊規講事。止在關上。關吏爲之轉達。自舊撫鎮玩寇以來。給銀牌數面。與干骨里等。任其出入。且戒驛遞毋阻。阻者輒聽夷稟。而加之罪。以此往來。月無虛日。每住廣寧。輒數月。如家庭然。凡兵馬之虛弱。錢糧之匱乏。城堡之坍塌。地形之險易。與夫民窮思亂。而欲投虜之狀。無不周知而習熟也。西虜勢散。糾合亦不易。羈縻亦不難。近講賞各夷。親對督臣云。拱兔是學好的。又不曾進犯遼東。如何殺了他守邊的達子一百五十名。可見前日所搗者。止是拱兔一家諸夷。未必盡與我讐。猶可設法解散。而東虜則擁兵數萬。人心號令。皆出於一。非烏合而輕於聚散也。向雖知此酋有異志。然或冀



在數年之後。乃自得地以來。疆土日闢。愈見跋扈。今觀其所爲若此。恐此舉動亦不在遠。臣何得不爲河東危。臣兩月前。曾與鄉紳劉御史論邊事。以爲河西旣急。奴酋乘此。必來欺我。我不得不奉承。宰酋乘此。必以秋賞挾我。我不得不聽從。且奴酋向來不敢併北關者。猶恐我援。而北關猶力與奴酋抗者。亦恃我能爲彼援耳。今若乘此取北關。則北關無援。必爲所併。北關併。而東西二虜合。則遼必危。其與本兵書。亦曾微寓此意。有奴酋乘此欺我。東西俱急之說。而日者。遼左情勢危急一疏。又嘗惓惓焉。蓋已慮及於此矣。爲今之計。西虜之釁。斷不可深。北關之援。斷不可孤。東虜之計。斷不可墮。而深西虜之釁。孤北關之援。正所以墮東虜之計。斷不可誤。近聞督臣。宣諭東西大虜。東西大虜。亦各赴薊門講款。似有機括。夫薊旣得。遼以息肩。遼豈可代薊而受禍。亦應亟遣間使。宣諭虜王。示以中國二百數十年。豢養之恩。約束部落。令其解散。雖有拱兔一家。亦無能爲。而仍用好

語。以慰藉之。使洗其羞而平其恨。則拱兔亦未必不聽。如此則西虜一散。而東虜之謀可伐也。去年誘殺宰酋之謀。奴酋遣人密報。宰酋得脫。而又因此以間北關。謂實知其謀不以告也。宰酋遂因此感奴酋。恨北關。近奪北關馬百數十匹。又欲會合奴酋。同搶北關。以雪不告之恨。近者開原道密爲宰酋曉譬。宰酋始與北關稍解。今亦遣夷叩關乞款。臣以歸我掠人太少。駭行該道再議。若使此酋尙可羈縻。仍復北關甥舅之好。以牽制東夷。使不敢發難。而東西之勢不得合。則東虜之謀可伐也。插漢宰酋。旣不與我爲難。我得乘暇。以修戰守之備。而又歸其奸細。以諭奴酋。謂爾酋實忠順。而此人妄行離間。歸爾誅之。以明爾二百數十年款附之誠。奴酋旣見釁無可乘。謀復先覺。則其氣自沮。而東虜之謀可伐也。然而自勝勝人之道。實不出臣前疏所言。勅問當事。圖上方略者。近是。若智不出此。而徒敝敝焉。與西虜從事。則強敵在前。有折屐之痛。狡酋在後。有掩襲之虞。臣實不



知遼之所終矣。臣嘗歎。今日中外事體。好博虛名。而受實禍。不問情實如何。但存體面。及其事難卒。業又不難。貶體以徇之。併其虛名。而有所不暇顧。今邊臣諱戰久矣。忽得遼左出塞一戰。正宜籍是以揄揚武功。震疊虜衆。而臣又爲是解釁息爭之說。似不可以爲名。然而究竟實不出臣言所料者。卽如近日覆勘疆界一節。臣思釁不可啓。禍不可速。已棄之地。旣難以徑與東夷爲辭。又恐以亟圖恢復開隙。第云必使奴酋畏威懷德。有不得不退還者。而爲是姑徐徐云爾之說。至於碑文。辱我中國。於體宜毀。加賞原爲存地。地去賞存。於體宜革。此則所謂名者。亦稍稍存之。雖待夷狄之術。或不宜屑屑計較。而所以存中國之法。待中國之人者。自不得不出於此。乃當事猶以未建萬全之策。而輕挑犬羊之怒。爲非計。其慮禍甚近。其憂患甚遠。臣甚服之。而亦自疑其虛名爲不足顧也者。夫虛名而果不足顧也。則無爲侈言絕漠。深西虜之釁。以爲東虜資。而講求所爲萬全之策。斯



可矣。事有緩急。禍有淺深。伏惟聖明。亟下該部。而酌審進止焉。

遼東巡按熊廷弼題。爲建夷反側愈甚。邊吏安緩可虞。乞勅當事諸臣。早備嚴防。以弭大患事。臣惟建夷匪茹。狡焉思逞。自去年數引重兵。壓我靖按撫順之間。自知悖逆難容。常恐我兵剿處。或親自引兵來迎。或累石樹木。阻塞道路。或收邊部家小人塞。盡歛精壯。爲兵待戰。自去秋已來。報者數十輩至。後又勾串西虜。要將人畜財物。盡分西虜。而已獨得其土地。地方始入。塘報。今月初二日。寬奠又報。據夷人佟達子密說。烏龍江一帶達子。俱被我們都督撤。進裏邊大寨住牧。鮮明盔甲。俱發與烏龍江精兵達子披戴。無盔甲者。日夜製造。二十日。清河又報。東夷一百餘名。自本月初七日。前至本堡。買賣延今。一十二日不去。指稱。取討缺債。暗密打聽消息。及差通事宣諭。離邊十餘里。遙見盔甲達子數百騎。隱伏山下。沿途擺撥。絡繹不絕。及至

新築關門。把口披甲達子。約五千騎。執鎗欄阻。不容前進。稱說關西兵馬到了。不曾陳遊擊接着合營。不曾而各堡又稟。但係通兵隘口。俱有達子。堵塞瞭望等情。由是觀之。奴酋包藏禍心。既已懷不自安之情。處不得下之勢。而又乘我兵屢敗於西虜之時。若是此等舉動。始終止於自防。則奴爲備我。我之備奴。已自不得不急。若是聲言自防。而一旦突出。爲先發制人之計。則奴爲圖我。我之圖奴。如何其可更緩。而以臣觀。於今日邊吏。無論圖奴。卽求其畫一備奴之策。作一備奴之具。而亦未之見。不過曰吾第示之以羈縻。鎮之以安靜。自可僥倖二三年。而可以無亂。夫以今中外不同心。上下不齊力。倚辦不得人。兵不集。糗不積。甲不堅。器不利。城堡不高厚。長短之技。不相敵。西事不得收拾之時。誰能舍羈縻而言攻取。舍安靜而言生事。羈縻安靜之說。是也。而羈縻安靜之實。非也。何也。夫所謂羈縻者。必使奴酋畏威懷德。有不得不聽我約束之意。諭退地。則退地。諭去車價。則



去車價。諭減進貢人數。則減人數。內消逆萌。外解警備。彼此相安。長爲藩夷終其身。然後謂之羈縻。今嫚詞相加。至不能忍。而纔得一軟語。便以奴可羈縻也。觀兵境上。輒倉皇無措。而纔一退去。又以奴可羈縻也。大官大吏。見夷使。响响作兒女子語。通使宣諭。頭搶地送款而已。何曾昭宣朝廷威德。一讐其驕悖。而至於安靜二字。中間有許多應作事件。如凡操兵買馬。儲糗蒐材。繕器治垣等項。必須日夜經營。時刻拮据。勞勞焉。從極不得安靜中而後。博得一安靜。乃今之所謂安靜。則亦安靜而已矣。遼東無郡邑有司。事事倚辦於將領。及衛所官員。此輩有何智謀。有何憂慮。有何爲國報効之心。有何維桑自固之計。在愚蠢者。旣一籌莫施。而狡黠者。又百計推卸。但享見福。遑恤其後。以此責之召募。而不召募。責之操練。而不操練。責之備禦。而不備禦。而在事者。見人情事勢之難。輒仰屋歎。而付之無可奈何。不得不藉安靜以自解。陛下試問諸臣。爾言羈縻。奴酋眞聽羈縻否。爾



自安靜地方。終得安靜否。臣不知其何以置對也。今奴酋反側。已是如此。邊吏安緩。尙是如此。臣爲遼危。不敢不言。伏乞亟勅當事諸臣。速求所以羈縻安靜之實。如或不聽羈縻。終難安靜。亦當從長作何區處。毋徒挾持虛說。醞釀實禍。以陛下之封疆爲戲。至於新增兵馬一節。假使急急召募。分配操練。無論東夷。卽如近日西虜入犯。得此一枝。與佟鶴年犄角而進。何至退縮若此。殺掠若此。查得寧前開原。人少難募。廣寧原未議募。顧各已召至一千餘人。或一千六七百人。而遼陽人多地闊。反止召及六百。清河未曾議增之先。已將四錢餉。召至四百人。卽以充數。而遊擊一加。雖月九錢。而不爲召一卒。乃近來議論。有謂且緩召募。留餉別用者。有謂遼兵無用。必召關西人者。有謂部覆限定三年。不如不召者。而頃得職方徐郎中書。又云。裏邊浮議。有謂錢糧已費。過十五萬。曾無一騎一卒中用者。有謂葉主事因糜費錢糧數多。服毒自殺者。臣皆不知何謂。似此日延月挨。左搖

右惑。臣等何敢自執增兵爲是。惟乞再勅地方諸臣。如有奇謀祕計。可以退伏東虜。便當各獻一策。付部存案。擔任利害。召募之事。卽徑停止。如其無策。亦須上緊速募。以壯兵實。勒定期限。凡募不及數。與雖及數。而不中用者。輕則罰調。重則降黜。仍勅部科。記定今日文武諸臣姓名。無使離局之後。建夷猖獗。得以逃優游養亂之罪。再照人情積玩已久。振刷實難。無論撫按文移。視如故紙。雖以陛下留心九邊。每旨必致叮嚀責備之意。然自該部一行督撫。督撫一行道將。道將一具遵依緣由。而渾然忘者。往往而是。頃語各道。以人情如此。須乞嚴旨督責。方肯做事。有對臣者云。幾曾見者嚴旨做一事來。此真切中邊人膏肓之語。夫至嚴旨不以爲意。而臣言又何益哉。臣惟盡心盡職焉耳矣。臣無任憂懼激切待命之至。

遼東巡按熊廷弼題。爲謹敘東夷歸疆起貢大略。併陳愚見。以安邊



境事。頃接邸報。見兵科疏論東夷北虜封貢事情。欲要釋建州爲外懼。仍當許貢。待我明正棄地之罪。然後再興侵地之師。且以東夷已就約束。不可輕議大役。開禍於日後。憂深慮遠。實與臣見相同。除將官差人。通虜挑虜事情。牌行分守開原兩道。查報外。惟是歸疆不果與我。不許貢之故。有不可不一商確者。去春塘報。建酋退還張其哈喇佃子。欲要改建堡城。不知者以爲當是何等一塊大地。而奴酋肯以歸我。奴酋果忠順耳。而其實不然。臣勘疆時。曾親至其處。乃是一山峽。起孤山堡迤東北。而插入建地中二十五里。寬不踰數十丈。窄僅十數丈。形如拗項瓠。有入無出。兩旁皆高山峻壁。深林密菁。向屬建夷樵採。雖云捷徑。西接鱸場三十里。東接靉陽五十里。併無立界起墩。且不通援道。若改堡於此地。以數十里據山口。斷其外援。全堡皆爲寇藉。我不能有也。奴酋以我不能有之地。愚我。而我以終爲寇藉之地。自愚。又誇其忠順。謬矣。且佃子之退。不自去春始也。前春以



來。夷使牧牛等。持文來送。臣以爲此給我者。屢不受。又移書督撫。細論佃子地形。以爲勿受虜愚。誠謂鴉鵲關與橫江。土地未歸。而不敢以一峽。了棄地之局。外欺於虜。而內欺主上。此歸疆不果之說也。至於進貢一節。與疆事相連。我以此覘奴酋順逆。奴酋亦以此窺國家重輕。疆貢兼完。則我重。舍疆完貢。則我輕。爲一峽所愚。而欣許其貢。則我又輕。去年九月間。開原道請貢詳至。臣批云。奴酋貪我賞市之利。其急急欲起貢者。故自本情。前番在事者。不識此機。而反急之。以此奴亦驕。輒挾盟豎牌。全勒車價。以邀我。乃年來。增軍買馬。壯我聲實。緩視貢。爲可有可無之物。而奴故益急。此馭奴一大機括也。據詳減人數。去車價。仍依本院前諭。奴心似已懼服。但人數減。而廩給猶在。尙屬無名。車價去。而車數未定。終須費說。況張其哈喇佃子。不過一山溝地耳。其原議西至鱸場三十里。東至鬩陽五十里。皆崇山深林。向屬奴夷樵採。未曾取直定界。縱使界定。而其地亦不可堡而守。

也。奴知我不能守。故歸以愚我。而我遂欲改堡以爲功。又自愚矣。舊鴉鵲關。及九墩地方。皆一一載在誌書者。可曰除張其哈喇佃子外。皆非我所應得者。而一槩逼求退還乎。橫江一帶。爲華夷共棄之地。卽云非我所應得。而納糧有年。且原議新民仍種夷地。量於地畝。派銀給賞。蓋爲存地也。地已去矣。而奴酋五百兩。速酋三百兩之賞。可不議裁乎。大氏夷情固當順。國體亦當尊。事干大議。未可草率。除地界俟守道詳至。再議外。該道仍將廩給車數。再一斟酌。本院非不欲急得一貢。以了東方事。但求其妥耳。此繳誠謂。前次奴以我之求貢。挾地立碑。今次亦當以奴之求貢。責還地土。此起貢不許之說也。夫奴酋之狡焉。思逞有年矣。一旦歸我佃子。聽我滅夷數。革車價。非真出於悔罪輸誠。而虞我有以制其死命也。世讐在北關。腹心之讐。在所併南關。灰叭諸部。外援在西虜。自臣撫北關。以樹其敵。收宰賽拱兔。以伐其交。激怒宰賽。與北關復親。以助其勢。而南關灰叭諸頭目。



又見我召兵買馬。援兵四集。以爲必取。皆欲謀擁故主以叛。變在肘腋。而不得不聽我也。其心以爲。佃子雖退。而裏邊不能守。猶吾地也。夷數雖減。車價雖革。不過部落失利。而吾之額賞全在。猶吾利也。吾何以不持此緩一日之師。暫弭仇讐。安反側。而圖再逞於異日也。此奴酋之所以能強能弱。詭譎而難馭也。是故三十七年春夏以前之奴酋。欺我易與。動爲虛喝。以恐我。秋冬以後之奴酋。懼其內潰。僞爲卑屈。以緩我。恐我者。備我猶疎。而其禍猶顯而小。緩我者。備我愈密。而其禍愈深而大。今日制奴如制虎。咆哮固噬人。蹲伏亦噬人。那得無慮。而乃纔得一山峽。便以爲輸誠。纔示一弱狀。便以爲不足慮。臣恐東方之憂。不在虛喝。恐我之日。而在卑屈。緩我之日也。近年爲此地界一事。驚擾邊部。蓄怨懷疑。夷漢洶洶。旦夕莫保。大非國家之福。臣實危之。且此地。或在山麓。或在山腰。或在山頂。崇林大樹。山民不能以斧斤制。先將樹皮剝去。聽其枯死。聚柴焚倒。使生木耳。木性已



盡。木耳不生。然後曳開。作地耕種。其開墾之難。有如此。非如人言可置屯而種者。山民之往。在取人參。松子。木耳。蘑菇之利。不在種地。吳楚之戰。起於採桑。與夷爭利。終必惹禍。況離堡。近者數十里。遠者一二百里。亦難照管。題目自大。實用自虛。封疆之臣。尺地寸土。義不敢不校。若論朝廷規模度量。當包夏孕夷。懷遠安邇。似不宜屑屑於此。以長禍亂。卽如科議。如置此而先許起貢。亦是救寧東方。眼前急着。當聽督撫鎮道。酌量完報。顧臣意之所重者。正不在此。年年跋扈之夷。卽年年入貢之夷。年年憂奴之中國。卽年年受貢之中國。夷非以畏服貢。我亦非以威德來夷貢。而貢之權。不在我也。不惟不在我也。而方且以貢狃我弛我。方且以貢貧我損我。方且以貢賞交結西虜。誘其入犯。以敵我。方且以貢賞招合江上諾夷。侵北關。以孤我。方且以貢賞分給南關。灰叭諸部收其心。以圖我。而是貢也。乃反爲寇盜資。是故善收貢權者。必在有所制伏此酋。而使之不敢不貢。然

後可制伏之。要如何因其勢而利導之。以奴酋之所算者。還以算奴酋。北關不可疎也。西虜不可挑也。江上諸夷。因北關招致之。而不可使其合也。南關灰叭諸夷。先後來奔者。示以興滅繼絕之義。寵之名銜。置之近邊。以號召其遺衆。而不可使其冷落也。樹其仇忌。而撤其藩籬。離其羽翼。而潰其腹心。而我又簡戎蒐伍。討其軍實。而嚴其警備。則奴酋且左驚右盼。恐恐然。自顧其肩背肘腋間。皆敵國焉。而敢出寨一步。以圖我。而敢據寨。經年阻貢。以開罪於我。故能使夷不敢不貢者。善收貢權者也。春秋之義。不治外而治內。萬全之計。在用夷以攻夷。臣敢以此兩言。爲制伏建酋之要。伏惟皇上留神省察。

遼東巡按熊廷弼題。爲欽奉聖諭。修復屯田。以助糧餉。謹區畫大略。乞敕當事。大修邊防。保民護田。以圖經久之策。事節該兵部與臣等。爲遼乞增兵餉云云。惟是屯田一節。瞻邊省餉。第一要務。遼雖弊壞。



而土最膏腴。荒蕪者多。委可開種。地方官委。宜設法經理。思尋長法。不宜專靠增添爲活計。況今內地。千零萬落。北盡南空。詢詢皇皇。只欠一反。臣且不知此時腹裏靠誰。何論邊鄙。漢以匈奴。千里轉餉。而天下困。唐以藩鎮。耗竭國用。而人心離。宋以西北用兵。括盡民財。而社稷危。古今敗亡之禍。未有不始於邊鄙。而終於腹裏者。邊臣倘有嫠婦宗國之恤。亦可凜凜於此。而圖所以爲自立計矣。臣爲遼左策。食不足。則兵必不得強。田不墾。則食必不得足。人不聚。則田必不得墾。屯寨不固。則人必不得聚。邊防不修。則屯寨必不得固。臣請先言屯田。次及邊防。臣嘗考實錄。高皇帝以遼左之地。在元爲富庶。列衛置戍。遂因海上運饋不便。令羣臣議屯田之法。以圖長久之利。洪武二十四年。收糧五十三萬餘石。永樂十年。收糧七十一萬餘石。其後災沴頻。仍數目虧減。今雖正數三十二萬有奇。而以粗折細却。止二十一萬餘石。版圖具在。而糧數日減者何也。昔之土地闢。今之土地

荒也。國初額軍十餘萬。並無年例銀兩。專靠屯糧支給。至嘉靖間。誌書所載。軍馬猶存七萬三百有奇。步軍三萬七千四百有奇。屯軍一萬八千六百有奇。鹽鐵軍二千七百有奇。而是時解給軍餉。除山東鈔布花外。部發年例。止一十九萬八千有奇。今則五六十萬矣。兵額日減。而糧餉倍增者。何也。昔軍自食其力。且令折色者少。而今軍坐食於官。又冒雙糧者多也。況自先年改屯軍爲操軍。耕作之徒。率歸舍餘。屯軍盡廢。而屯田益荒矣。臣奉簡命。夙夜馳驅。北抵黃龍。東抵鴨綠。南極於海。西至山海錦義一帶。間關險阻。雖逼近虜穴。人跡罕到之處。無所不遍歷。無所不相度。自山海關。北至杏山三百里。中間熟田已墾。與岡嶺鱗薄。難墾者居半。可墾者居半。試以方里而井。井九百畝之法料之。何啻萬頃。錦義右屯。傍山沿海。何啻數千頃。廣寧東三十里。舊有羊腸河一道。自西北而東南入海。龍窩潮溝。其故道也。自先年挑挖。路堤阻其南。河遂橫溢。而東入三岔河。一遇山水泛



漲。堤內堤外。盡爲瀦淀。若依故道。兩岸築堤。中讓百丈之濶。任水緩行。不與爭險。度不及五十里。便可導入於海。又外循大黑山起。至三岔河。舊邊塞址。築一墻壕。如路堤然。一以防虜。一以納邊外客水。使歸於河。則一百七八十里。盡是沃壤。何啻二萬頃。自三岔河。東起牛莊。歷遼瀋開鐵。西北順邊一帶。六百餘里。一望甌脫。又臣行開鐵地方。如過丘墟。因查屯寨存廢數目。據各冊報。三萬遼海二衛。舊有大小屯寨。一百四十七座。今止見存一十三座。鐵嶺一百二十八座。止存二十二座。汎河懿路一百三十四座。止存二十九座。按圖覽冊。不覺泣下。通計前項地土。何啻二三萬頃。而遼瀋以東。鴨綠以西。臣不能更僕數也。惟金復海蓋四衛。地無遺利。然多山坡沙磧。所收較薄。而拋荒者。反皆腴土。緣在河西者。山居西。而原疇居東。在河東者。山居東。而原疇居西。河界其中。而虜夾處焉。以此腴土。盡行拋荒。每問居民。皆云。此地種一日。可收子粒八九石。遼俗五畝爲一日。市斗六

斗。抵倉斗一石。是五畝地。而可收十三四石也。其美利可惜有如此。所至憑軾。但有浩歎。臣按古屯田之法不同。大要不出兩端。有募民耕種。築室具器。五里連邑。令其自爲戰守。如鼂錯之制者。有督兵耕種。查給牛種。收租爲餉。令其且耕且戰。如趙充國。韓重華輩之制者。今遼土曠人稀。前項荒地。不但軍種不盡。民種亦不盡也。二法並行。宜無不可。遼兵徒取充數。縱使孫吳爲師。韓白爲將。極力選練人馬。強壯。騎射慣熟者千人。而得五六百人。亦足矣。其餘老弱蠢怯之輩。天生性定。勢不能強。削則銷兵。留則靡費。曷若驅令屯田。使彼無用。亦爲有用。遼兵八萬。若簡此輩十分之三。隨便屯種。可得二萬四千名。每名一分五十畝。可種一萬二千頃。畝取子粒倉斗一石。可收一百二十萬石。折細六十萬石。除給本軍應得月糧外。可餘三十一萬餘石。查得見種屯地。一分者納穀八石。豆四石。大草小草。及雜項銀兩約二兩四五錢。始得完訖。科亦重矣。若種此田。每畝收二石者。今



只止收一石。而一石之中。又有五斗係自給之數。是四分中而取其  
一。分軍無不趨事也。遼東將官。養廉甚少。若照隆慶二年例。墾田十  
頃者。內給將官五十畝。爲養廉之資。如一將官。領兵二千者。內撥六  
百人屯種。計屯三百頃。該得養廉田一千五百畝。收穀一千五百石。  
豈不足用以免剝削。又照嘉靖八年例。墾田百頃以上者。撫按獎勵。  
三百頃以上者。奏請擢用。不及者叅罰。則前有養廉陞擢之利。後有  
叅論戒飭之害。將官無不趨事也。此軍屯之大略也。其餘不盡田土。  
多方招人承佃。聽其各擇所便。開坐畝段。告領戶出。開墾耕種。隨其  
所佃畝數納稅。量寬二年。以爲牛具子種之費。俟三年成熟。照見行  
科糧事例。一體徵納。而又酌量道里遠近。地形險易。爲之分置。堡寨  
以居之。併小屯爲大屯。使零星散處者。皆得聚處一城。城內設置器  
械火藥等項。城外深壕三道。壕塍多種榆茨。糾結纏護。止留一門出  
入。一遇傳烽。在田者。各歛物畜歸堡。各執火器弓箭以待之。丈餘門

徑。雖有數千騎。安所馳騁。今開原西北二三孤屯。全賴此法。雖委身虜口。虜不敢近其門。而過焉。此其効也。沿邊二三十里。而輒置一座。參差布列。聲勢相倚。守望相助。居則習於射打。出則敢於堵禦。而又下賞功之令。殺虜級一顆者。照軍例。賞銀五十兩。願陞者聽。將官毋得強奪以冒功。而又下禁抽家丁之令。屯間有猛勇善騎射者。聽其堡自守。總兵官。毋得抽墮害人。使以習射爲戒。如此則不必官與戰守。而人自爲戰守。不必官與收斂。而人自爲收斂。卽民卽兵。有收穫之利。而無寇賊之害。民無不趨事也。此民屯之大略也。民間開一萬頃。官可收十數萬石。開二萬頃。可收近三十萬石。以此令於軍屯。所得計其歲入。可省年例。不下二三十萬金。臣算計見効。不以無用之軍。置之空虛之地。坐啖心頭之盡肉。而長療背左之頑瘡。使中原黔首。有一日不可知之禍。其利一。軍屯有趙充國守禦之備。民屯有鼂錯實塞之利。其利二。弱卒三分屯種。騎軍五六分爲田者。遊兵於彼。



防護於彼。操演軍馬。俱列塞下。虜不敢乘隙。而肆虜掠。其利三。遼人不習畜藏。一遇荒年。山海關一線咽喉。誰爲販賣。而海運又不可得。無路乞糴。輒相繼填溝壑。開墾多。則畜積富。而水旱寇賊。皆可恃以無恐。其利四。通商中鹽。使商人佃種邊地。上納本色。惟西北邊糧貴處。所宜行之。遼中米豆極賤。常計算。歲中兩淮山東鹽引。該銀四萬一千三百餘兩。若照時價平糴。半米半豆。歲可得十八萬石。今查三十三四五年。通計歲坐派不滿十萬石。是部派已幾少一倍矣。而又有賣窩買窩。虛出買票等弊。雖有四萬。而軍不得四千金之惠。若墾田。則有餘蓄。此鹽宜徑還部。照數解銀。使軍沾實惠。其利五。今屯田多爲勢豪所侵占。而貧弱軍餘。以無田包有田。少田包多田者。往往而是。以此賠補愈重。逃亡逾多。逃亡愈多。拋荒愈衆。且遼糧有屯科丈詰四種名色。不知今日之科丈詰。卽昔日之屯田也。屯糧重。而科丈詰糧輕。奸猾巧立名色。旣以避重。又圖脫軍。弊蠹日滋。屯額日損。

臣謂遼東與腹裏地方不同。非官而軍。非軍而官。屯田之外。別無地土。似宜不論屯田養贍。及科丈詰名目。只總名曰地畝。以實徵之數。第田爲等。分糧爲則。一類徵收。以足原額。不足額者。以開墾新糧足之。貧軍有糧而無田。及雖有田而不足分數者。應豁者豁。應補者補之。庶田畝一均。糧稅輕省。貧餘不致逃亡。見田不致拋棄。是墾田者不但招未來之人。而且保見在之衆。不但闢已荒之土。而且存未荒之地也。其利六。而或有爲之說者。不過曰銷兵爲農。若營伍空虛。何不知兵農合一。古今通制。且老弱耕耘。精健操備。勇怯分途。不相混累。如此簡練。是壯實而非空虛也。又不過曰步軍耕種。若城守無人。何不知無事則耕。有事則戰。戰且不妨。寧妨於守。且地方無事則已。一遇有事。還須本城丁壯。人自爲守。而是區區老弱者。不足賴也。又不過曰卒皆惰遊。仰食縣官。若一旦就農。必且恥。恥且不測。何不知此可爲家丁驕悍輩設耳。步軍背負作苦。疲於奔命。若得歸農。如弛



重負。而奚云恥也。又不過曰胡騎擾我。若不暇耕種何。不知自古屯田。如趙充國。曹操。諸葛亮。羊祜。郭子儀輩。或孤軍深入。或兩軍對壘。或四面受敵。然皆爲之。而迄有成效。何疑於今。又況有大修邊防之說。預爲保障。而斷可免於不時軼擾者哉。且夫向來遼東條議修邊者。其說亦多端矣。有乞公帑百萬。覆議減而至六七十萬者。有謂照薊門例。灰石甃砌者。有謂板築土墻者。或工費浩大。而難完。或沙土易頽而難久。其說皆不可行。以臣愚見。如寧前錦義一帶。土多沙磧。只合照依舊址。挑挖大壕一道。壕深闊各二丈。一直切下。本質自可耐久。累土爲塹。但取土勢自起。不宜加陡以速其圯。山石漫坡。鑿削如壁。溪澗水口。用合抱之木三股錯立。式如拒馬槍。而少短其上。布列二三層。不宜如近日細木欄杆。有同兒戲。自大黑山。東至三岔河。又踰河起海遼。開鐵。至鎮北關。地平土堅。壕溝水口。俱如前式。惟累土爲塹。當用土荻。包砌於外。如土城然。以取其峻。且草長土固。可以

堅久。東昌以北。至慶雲關以南。數河橫出。皆可引水平灌入濠。深可丈。淺可五六尺。春夏秋間。虜騎難越。冬間冰結。墻土凝固。又不得掘挖而入。若西北。起靖安迤東南至鴨綠江一帶。邊臨海建。山林叢薄。似亦不可無壕一道。但此疆界未定。且有西北壕墻。阻當達虜。吾得少息其力。亦稍稍足以制其東。今且置不論也。其用工不宜似舊時。各脩其地。零星挑濬。力薄勢分。虜擾輒輟。合應鳩全遼人力。併聚一處。今年完河西。明年完河東。內撥步軍二萬人。二十五衛民夫。大衛五六百人。小衛三四百人。併見在邊夫共一萬五千人。合之得三萬五千人。編成一千四百隊。每隊日限工程一丈。一日可完七里七分。百日可完七百七十里。一年只以百日工程爲止。使軍民得以休息。自山海關至鎮北關。邊長一千四百餘里。計兩年可得完報。軍夫除本等月糧外。日給鹽菜銀八釐。邊夫與軍夫同。惟民夫日給一分。計一日該銀三百兩。一百日該銀三萬兩。兩年工完。共計鹽菜銀該六



萬兩。又通查西北衝要。邊堡六十餘座。除曾經脩理。及未甚坍塌。尙可守禦者。着令自葺。以待其後。其極坍塌。而又極衝要者。約二十餘座。邊堡大不過四百丈。每座撥夫一千名。燒造拆砌。當年可完。鹽菜銀兩多者千金。少不過六七百金。烽臺亟應修築者。百十餘座。每座撥軍六七十人。燒造修砌。亦當年可完。鹽菜銀兩。照前算給。臣今年湊聚贖銀。重包清河等六堡。及墩臺七十餘座。已行有一定法。則可以做照。兼以城門。木植。鐵斤。犒賞等費。共約四萬。總計三年以內。壕塹堡臺。工可俱完。而費亦不過十萬。或將一千四百餘里。分作三年。每年約修五百里。卽將所修地方臺堡。當年完給。免使人夫。今年河西。明年河東。後年又復河西。致滋往返。而一方全完。卽一方早得屯種。此尤便易。其護工官軍。合用精兵五千人。選謀勇二將。分布工所。首尾防護。又除見在戰車外。再造六七百乘。多載火器。環工爲管。隨處安置。庶免虜衆時來擾害。此工旣成。無論百千小虜。不敢近覷。卽

使一二萬騎。填壕掏墻。亦須延遲半日。而臺烽一傳。耕種人畜。早已入堡。各營兵馬。早已到邊。如未過壕。督率火器。對塹打之。如其已過。少則截殺。多則堅壁以待之。彼野無所掠。勢必自退。所填之口。能闕幾何。非復往時。平曠馳騁。吾第以火器驚其後。彼搶口而出。勢必自亂。而吾又因而乘之。不但防守兼可取勝。大要壕墻修。然後臺軍有恃。而烽火明。烽火明。然後趨避得早。而屯寨固。屯寨固。然後守禦有賴。而人民聚。人民聚。然後耕種有主。而田野闢。田野闢。然後收穫得利。而財賦足。財賦足。而後軍食贍。饋饟省也。且不但此而已也。嘗見虜三五騎。或十數騎。到邊。臺軍輒舉烽。一烽舉。則各烽齊舉。及本路與鄰路將官。引軍馳赴。而虜復去也。官軍歸。而虜又至。烽又舉。官軍又至。而虜又去也。一而再。再而三。不獨疲而且玩矣。故其引兵而出。常不待齊一。而爲虜所敗者。往往有之。若此工成。零竊卽臨壕窺伺。臺軍第密報本堡。官軍驅逐。無數舉烽以滋疲玩。此蓄銳之利也。山



海關迤東四五百里。虜不時出沒。禦人於大道之左。以此冠蓋貢車。及撫夷貨物。與地方官。使往來無不沿路撥軍護送。少則數十。多則數百。甚有空營而行者。何以責其無事操練。有事堵殺。若此工成。此輩皆得歸伍操備。此訓練之利也。全遼每歲。爲虜所殺掠者。何啻數千人。若此工成。一年存數千。十年存數萬。而此數萬人者。十年所生育。又不知其幾萬。此又生聚之利也。其他便宜。難以縷悉。以後地方誠能隨時修補。豈不爲數十年之利。乃臣又有一法。不必逐年修補。而其利更可永賴者。遼中榆茨甚多。且蕃。若於墻塹裏沿闕。植五六丈地面。樹成無使太高。高礙哨望。但長至四五尺。卽當頭截斷。使其枝節橫生旁串。彼糾此連。十年成林。十年綿密。愈久愈厚。愈厚愈堅。斧不得施。火不得焚。雖教虜十萬填壕平塹。而亦不能插翅飛越也。臣想晁錯所云。中周虎落。及古人榆關之說。或亦此意。且此事行頗簡易。卽以遼陽東協計之。邊長一百六十里。該地二萬八千八百丈。

而該協及長安。長勇。武靖。三備軍兵。共六千五百餘人。計地坐派人。止栽榆四丈四尺。四日尋窆。一日栽植。而五日可完也。舉一東協。而全遼可知也。若令邊堡預收錢莢。就便種秧。一年尺許。二年移種。尤覺快便。是一日而全遼可遍也。至於屯寨之法。合於大路之西。邊堡之東。相錯而置。河東約計十五六座。河西六七座。每座除人力外。鹽菜等項。約費千金。但得帑金二萬兩。先將見在屯民散處者。築堡收保。餘俟屯種日廣。人民日聚。陸續增置。不拘年限。通前總計。不過費銀一十二萬。部中若能分作三年。每年措處四萬。付地方官。如法經理。期於有成。三年之內。可使邊固。六年之內。可使財足。十年之內。可使小康。舍此法。則無以爲遼計也。伏乞勅下該部酌覆。轉行督撫。責令各道將。應清查者。盡數清查。不宜以任內難完。故自隱漏。應挑濬者。盡力挑濬。不宜仍前偷安。苟且塞責。應給發者。多方給發。不宜吝惜暫費。以隳遠功。其一切調度事宜。統俟督撫條畫。次第施行。



遼東巡按熊廷弼題。爲遼敵已極。遼人已空。謹按四十年來邊情大略。再申膚見。乞勅當事。懲前規後。修舉本務。以保子遺性命事。臣惟遼左今日之患。莫大於無人。夫邊非無人也。土沃而民聚。向嘗稱庶矣。自萬曆四年。七年。十一年受虜。而寧遠。前屯之人盡。自萬曆五年。八年。九年。十一。十四。十五。二十二。二十六。二十七年受虜。而錦義。右屯。廣寧之人盡。自萬曆二年。四年。八年。二十七年受虜。而開鐵。汎懿之人盡。自萬曆二年。三年。十年。十一。十三。十七。十八。二十五年受虜。而遼瀋迤北之人盡。自萬曆五年。六年。十八。十九。二十一年受虜。而遼海迤西南之人盡。間有存什伯於千萬者。邊吏又不爲之保護。聽虜節年檢拾無遺。雖使造物能生人。遼人善育人。而歲計所產。不抵所掠。遼於是乎無人矣。自遼之無人也。舉族被虜。而補軍不得。田土拋荒。而徵糧不得。補取不得。則墩軍盡。不得不貼以堡軍。堡軍盡。不得不貼以營軍。而營軍又漸盡矣。徵糧不得。則額糧虧。軍食自不得。

不乏。軍食乏。京運自不得不多。而京運且不至矣。始不得不議增軍。以通勾軍之窮。而及其增也。又苦無人之應募。始不得不議增餉。以通額餉之窮。而及其增也。又苦後來之難繼。說者但謂軍不必增。一清軍而軍足。不知遼之無人可勾也。但謂餉不必增。一清餉而餉足。不知遼之無人辦餉也。遼於是乎益不可爲矣。此臣所謂今日之患。莫大乎無人者也。而問其所以無人者何也。邊臣好邊功。以開釁。棄邊人。以償仇。本務不修。而以人予虜也。臣愚不諳時務。竊謂今日存遼之計。當以保人爲第一義。而保人之計。莫先於實內與固外。實內之事非一。而屯田積儲爲大。固外之事非一。而修邊併堡爲大。去年蒙皇上允行臣議。今年猶蒙聖心記憶。於常平疏中。批下查催。而邊臣泄泄。從事不以爲意。得無謂搏弄見在人馬。便足支吾虜患。而或搖於主戰之說。猶冀得一間覓首功。而誇張之。如往事。若然者。臣恐殺掠不盡之人。更以一戰盡也。則何不取四十年之戰法與虜禍。而



一一觀之。每見我軍出境。輒俘獲一二千計。我僅亡一二卒。而平虜。高平之捷。爲境內所罕見者。其陣亡乃半。且俘於首虜何也。境外襲取易。而境內堵截難也。每見搗東夷。今年二千。明年千數百級。終不敢一報。而搗西虜。輒報。報輒殺掠無算。不堵不追。而反趨海建。取償於東。以報捷。何也。取東夷弱易。而取西虜強難也。每見大虜。以數萬二三十萬人寇。我軍幸皆少陣亡。而間與小虜千百騎戰。屢屢亡至二三百人。何也。有戰有不戰也。近見虜以五千入大勝。三千入長定。僅三時而陷一堡。殺掠千數百人。及查往時。虜常以二三十萬。搶五六日十餘日。而殺掠僅滿百。或不滿百人者。何也。有報有不報也。故觀於四十年之戰法。而後乃知戰之不易也。觀於四十年之虜患。而後乃知今日之不如往日甚也。觀於四十年戰款之故。而後乃知其爲搗之數見誤。非款之數見誤也。觀於四十年無人之禍。而後乃知犁庭掃穴之不能使遼有生氣。而反無生氣也。戰何容易言也。萬曆

初年。國家尙無倭孛播州之役。地方尙無東征稅使之害。府庫充盈。物力饒足。而一時宿將驍丁。又不乏人。此能戰之時也。而其戰法已如此。豈以今日之物力兵力。反能犁庭掃穴。而超出於四十年戰法之外。臣有以知其不能也。不能超出於四十年戰法之外。而再遺四十年無人之禍於往後之年。使無之又無。以至無人盡。臣有以知其不可也。戰何容易言也。然則今日之計。何適而可。高城深池。息民養士。外固封守。內務農田。蠲其煩苛。而簡其文法。虜來則拒。去則勿追。而一以生聚教訓爲主。此臣之所謂以守爲戰者也。誠如臣修屯之說得行。深吾壕。高吾牆。以扼虜於外。併小屯爲大屯。適中建堡。環築壕牆。以收保吾人於內。厚儲多蓄。以飽士馬於平日。而又選將練兵。大修火器戰車。以備堵截於臨時。由是而小虜以鼠竊。鵬搶至也。必有所憚。而不敢入。卽入矣。而填壕掘牆。必稽遲而不得遽入。留其半以守口。而不敢全入比人。而吾民早已入堡。壯士早已登陴。虜自度。



不能速得志於堡。則偏索諸野。又無所得。而衆少又不敢過夜。且慮我截其所入之口。而不敢不速出。不待我軍之驅逐。而亂馳。過日中遁矣。何待戰。由是而大虜以數萬至也。扼於我之壕牆。而不能一蹴越也。困於我之城堡。而不能旦夕下也。堡民但爲我堅守一口。而各路官軍至矣。虜見吾官軍至。必解圍。而合衆以衝我。我勿與浪戰也。晝則環戰車爲方城。層列火器。擡營而前。直薄其壘。夜則以大砲驚擾之。虜欲掠。而吾野已清。欲戰。而吾壁已固。欲相持。而畏吾火器存。割不住三日。不得利。而氣奪退矣。退而尾之。爭口而出。必亂。亂而擊之。則利在我矣。何至不敢與之戰。虜見小人之如彼。大人之如此。而皆無所利也。且受挫焉。且失賞焉。必貪吾餌。而不能不搖尾乞憐。以求我。我則順其欲。而因以制之。不過絕以激忿。若復狂顧反噬。以侵我。我惟據其險。而坐以困之。不遠出以倖功。任虜之去來。順逆我皆待之於境內。握之於尊俎。而進止。款戰之權。無一不操之於我。由是

戰也可。不戰也可。謂之善戰也可。謂之諱戰也亦可。此臣之所謂以守爲戰。保人而存遼者也。詩曰城彼朔方。易曰王公設險。以守其國。此以守爲戰之說也。臣嘗謂修屯之利極大。屯田之利六。已見於臣之前疏矣。至於修邊築堡。有十五利焉。虜騎不得決驟。一。零賊或什佰。或千騎。不敢輒窺邊省。境外無時之備。二。墩軍得牆爲恃。登臺覘敵。烽火嚴明。不致失悞軍機。三。虜掘牆填壕。我得預知爲備。使虜無所掠。四。本堡軍民自足拒守。贖下營軍各操。免分散貼防。而益其寡。五。虜入有時有鄉。軍馬免游防奔馳之苦。六。行旅無禦人大道之懼。營軍無空壁護送之煩。七。士馬得閑。操練養精。蓄銳以待戰。八。軍不。死於饑疲。而軍伍自壯。馬不死於奔馳。而馬價自饒。九。虜憚我備嚴。不敢要挾。而款益堅。撫賞之費益省。十。居民安心耕牧。人畜禾稼。無鈔略之虞。十一。聽人自爲收斂。不但可省鬚髻錢。而且免遠羈城郭。得婦子醯耕之便。十二。邊人弓矢之勁。膽力之壯。過於營軍。若使據



險。人戰家守。亦可助我兵威。而杜虜之覬覦。十三。民鮮畏虜。塞下田。不待軍屯。而告墾者衆。漸可足食足兵。十四。邊人骨肉相保。亡係累之患。每歲存千萬人。爲遼儲軍。爲皇上守邊。十五。以此之利整衆。何衆不武。以此之利禦虜。何虜不却。以此之利安邊。何邊不寧。而反是者。害亦如之。邊臣試自忖籌邊之略。凡所爲兵馬。錢糧。器械。戰陣等務。有一不出於臣之所議者哉。假令不出於臣之所議。舍其十五利。就其十五害。而能兵強馬壯。橫行絕幕。收犁庭掃穴之功者哉。則臣言又焉可以忽乎哉。蓋臣嘗思之。人力強盛之會。攘外乃能安內。則當先戰而後守。人力衰微之時。內虛益受外侮。則當先守而後戰。此戰守先後之序也。實內之事。重在修政。則當先內而後外。固外之事。重在設險。則當先外而後內。此修邊屯田。先後之序也。河西自關以東。前寧錦義。正安鎮武一帶。河東自藩以北。蒲汎開鐵一帶。村田已盡。虜覬吾邊堡。則邊堡爲重。自藩以南。遼陽海蓋一帶。人居稠聚。虜

覬吾村田。則民堡爲重。凡中路驛遞城舖。在廣寧之閭陽。十三山。凌河一帶。得錦義爲外蔽。似稍緩。而村田依焉。則當視與民堡並重。在寧前之高嶺。沙河。東關。曹莊。連山一帶。去邊僅咫尺。地最稱急。而軍民依焉。則當視與邊堡並重。在遼海之甘泉。鞍山。長店。南沙河。虎皮。北沙河一帶。去邊三五十里。在緩急之間。而遠近居民依焉。則當視與邊堡民堡並重。東邊除臣已修過六堡外。其新奠。永奠。孤山。鱸場。灑馬吉。散羊谷。馬根單。東川。會安。白家衝。三岔。撫安。柴河。松山。靖安。威遠等堡。皆東夷所窺伺。則當視與迤西邊堡並重。湯站。鳳凰城。鎮東。鎮夷。甜水。威寧。奉集。柘木城等堡。皆東西夷所常犯。則當視與迤西民堡並重。此邊墻城堡。先後之序也。前寧錦義。正安。鎮武等處。千里甌脫。不容大舉。而閭陽。十三山。右屯等處。爲必受之區。則重。蒲河。汎懿。開鐵等處。一望丘墟。不容大舉。而遼瀋海蓋等處。爲必受之區。則重。河西雖受大舉。村屯猶落落。而遼瀋海蓋。人財輻湊。爲全遼根



本之地。又值虜朝夕垂涎之時。則尤重且急。察其重者。而厚集其力。察其急者。而早圖其備。察其尤重且急者。而舉全鎮之力。以從事。此又修防先後之序也。善治邊者。先觀大勢之所在。想定一規模。然後酌其緩急輕重。而先後由之。則目前既可應急。而不忙。將來益得收功於有永。而不然者。徒出於苟且補葺之計。今日補一罅。而明日之罅又見。於此補一綻。而於彼之綻又見。縱使搏弄人馬。如熊如羆。如虎如龍。而以八萬之兵。散於一總兵。三協守。二十一參遊。二十四備守。一百二十一堡官。二千三百餘座墩臺之下。而又有搪撥差調。必不可少之役。計一將手下人馬所領。追堵者。實得幾何。虜以二千入。而一路窺。一萬入而隣路窺。三萬入而全鎮窺。曾何益於多寡之數。而况乎。其終不得如熊如羆。如虎如龍也者。則柰何。遂以此盡邊臣之能事。而置修屯本務於不問也。去年部覆臣疏修邊一節。欲待西虜受欺。建夷弭伏之後。軍有餘暇。再爲後圖。此誠老成之深慮。臣敢

不服。但恐西虜欺我無險。終無款時。建夷因我受欺於西。終無弭伏時。軍士益疲於防調。終無餘暇時耳。臣無兵權者也。去年獨用河東人力。猥修墻壕六百餘里。堡城七座。墩臺九十餘座。維時西虜正報仇建夷。正領七千騎入靖安。五千騎入撫順。非受款弭伏之後。軍有餘暇之日也。然且爲之無恙。正唯虜未款伏。調人馬在邊。舉防虜修工。而兩得之。不令高座城中大暇也。豈以督撫鎮道之兵權。闔鎮之全力。而反待欸伏。聽緩急之節制於虜耶。臣不宜億逆竊窺其間。蓋有三幸五懼焉。高才自喜者。幸邀掩襲之捷。叨冒陞賞。而輕視此爲無奇老成。自命者。幸偷眉睫之安。苟免無事。而重視此爲難就。又其下者。幸中外之扶同。功令之寬縱。掩罪飾功。而翫視此爲不必。是爲三幸。我方養優處尊。而經年走荒塞之下。以當農田土功之役。則有任勞之懼。民方難與慮始。而一旦動懷安之衆。以拂燕雀處堂之情。則有任怨之懼。同事方情乖志異。而一處有作。有不作。以取賢智先



人之忌。則有任嫌之懼。當事大臣。方依違兩可。不敢主張於其上。而邊吏擔承於其下。則有瞻前怵後之懼。議事諸臣。方好持文墨。日伺人過於其內。而邊吏踧踖於其外。則有憂讒畏譏之懼。是謂五懼。以此三幸兼五懼。是以明知修屯之利。爲保人存遼第一義。而不肯爲。明知四十年無人之禍。而不敢一破其常套。夫皇上以封疆之事。寄之邊臣。固將寄之以封疆人之命者也。人則不保。而徒持一塊空土。以還皇上。則遼之人奚罪哉。皇上之封疆。奚賴哉。

遼東巡按熊廷弼題。爲議欵原圖修備。謹申明本意。以便地方遵行事。遼左自去冬。忽議搗巢。以致虜衆怨憤。殺我軍民。陷我城堡。建虜因而乘機窺逼。擁兵壓境。臣不忍生靈之慘毒。尤懼東西之結連。不得已。亟議欵撫。而本兵督撫。見邊警之日劇。戰局之難收。亦遂皆以復欵爲事。蓋審時度勢。事固有不得不然者。昨接邸報。見科臣疏陳

兩河戰欵機宜。其大旨。在河西者謂。戰則禍小而速。欵則禍遲而大。戰存春秋攘夷之意。欵蹈叔季請和之愚。杜松決戰。而事非心是。馬拯稽欵。而事是心非。在河東者謂。募勇敢。勤訓練。整器械。給戰馬等項。固是正經之策。而以力勝。尤當以計勝。凡所以揣情摩勢。申前說而攄後筭者。亦既纏纏無遺矣。第中間事體。尙費商量。內如計勝建酋諸欵委。如科臣所料。臣與撫臣。亦曾皆筭及之。然尙有一二出於科臣所料之外。而不可以語人者。機事不密。則害成。建中奸細頗多。未便如科臣顯然。明洩其事。臣不敢言也。杜松馬拯心事是非之辯。地方自有公論公案。自有歸着。臣不必言也。唯是所論戰欵。關係地方利害重大。當此事難結局之時。撫道府惴惴焉以爲憂。而一見此報。莫不相顧錯愕。謂不欵。則地方無一可恃。而欵則又恐釀遲大之禍。蹈請和之愚。虜一渝盟。異日以成敗利鈍論者。但願戰不願欵。而傳之罪。跋前疐後。進退維谷。臣又安得不將議欵本意。一申明之。臣



惟籌邊之策。雖無出戰款兩端。而總之以守爲本。以暇爲乘。乘暇以修守。所以待戰而固款也。以守爲戰。是爲眞戰。見利則戰。不利則不戰。先爲不可勝。而後戰者也。非如搗巢。犯不測。以保難勝。割僞級。以誇首功。此科臣之所謂戰。非臣之所謂戰也。以守爲款。是爲眞款。虜服則款。不服則不款。操其權於我。而後款者也。非如疏云搗巢必至於報怨。報怨而復歸款議。此科臣之所謂款。非臣之所謂款也。往時舊撫鎮。以款爲主。割地糜財。無所不啖虜。數年之間。苟幸無事。旣幸有其暇矣。無柰狃款偷安。弛不設備。事事敝壞。以至今日。然猶幸及臣與撫臣抵任之初。戎不生心。邊境稍帖。私冀一日之暇。可以措手。而遼事尙可爲也。乃無由而有搗巢之役矣。當事者。但知懲舊撫鎮。狃款之過。不度己力。不審虜勢。倚任一將匹夫之勇。而務以戰矯之。矯之而至於殺官軍。陷城堡。肝腦塗原野。兒女汗羶腥。反爲狃款者所竊笑。而且藉以飾其割地媚虜之罪。又心以今日之敗爲快。謂遼

東一塊土。鎮此者。果非吾李氏不可也。興言及此。可勝痛心。由前言之。以暇爲暇。是爲狃款而忘戰。由後言之。以暇成不暇。是爲矯款而輕戰。此非款之過也。皆有暇而不善用款者過也。至于今。西虜報怨。東虜弄兵。應接不遑。足慌手亂。求一暇而不可得矣。臣因伏而思。曰。暇不暇。非從天降。非從地出。亦顧人之作用。善討便宜何如耳。誠使宣諭得法。款撫得宜。當此勛勤之時。覓一閑暇之會。以練我士馬。精我器械。葺我城堡。修我險阨。清屯鹽以作餉。飭馬政以資軍。收拾驛遞。以無累營伍。撫恤窮民。以漸培根本。而又隨宜駕馭。不失中國操縱之權。多方間諜。盡破東西勾引之計。凡有深謀密畫。不可語人者。皆得從便預爲之所。雖狡虜異類之心。無終不敗盟之理。然一年寧帖。則得一年之暇。以修吾備。兩年寧帖。則得兩年之暇。以周吾防。待我安排布置。一一完備。則伸縮在我。任其叛服。而吾皆有以制之。虜若奉約。吾仍羈縻。虜若渝盟。吾卽謝絕。虜若犯搶。吾遂堵勦。虜若悔



復不免於他日之追求。是臣以局外議事之人。尙不免首尾之是畏。況撫道有局內任事之責。寧不益手足之無措哉。且天下事。爲之於未壞之前。其力易。收之於既壞之後。其力難。中國之人。言語偶觸。尙難遽平。而況夷性之桀驁。無理之事。多生枝節。尙圖挾索。而況漢過之已先。今日之事。不但議戰難。議款亦難矣。近督臣差通使。送通夷好人八名。來遼議款。仍伴還虜。與之講折。住虜中者浹旬。而拱兔竟不與一見。撫道頗以爲慮。臣曰。此不過知我之所急在款。而故作此態。以要我耳。我若急急欲款。則必爲此酋所輕。而虜愁。及黃台吉諸酋。皆復輕我。而其款亦皆不可久。況諸酋已款。而此酋獨何能爲。吾但時常撫慰諸酋。而於此酋姑且緩不與通。若爲絕之之狀。以示我不甚要緊之意。彼力絀於糾合。氣平於殺陷。欲滿於虜掠計。在屬厭之時。而又恐失我市賞之利。將必差使求我。而我遂因而應之。如其索我。而我又因而緩之。隨機應變。必得其要領。以爲控馭。而後伸縮

遲疾之權。皆操於我。而不爲彼用。是款之爲說。臣亦不過欲立定一  
規矩。以便地方。一面講折。一面整頓。而機權之妙。實有不得而汲汲  
焉者。是蓋未可取必於早決者也。且非惟西虜爲然也。卽制馭東虜  
之策。亦不出此。近議增兵設將。分布要地。前後遠近。互爲犄角。以固  
其守。而此外仍須用羈縻之法。以好待之。而毋速其叛。故不固其守。  
則恐襲我之空虛。而一速其叛。又恐乘我之倉卒。故其所以自計者。  
不得不急。而其所以待奴者。不得不緩。緩之者。正所以覓閑暇。修守  
備。而成其所爲急也。守備旣修。然後操縱由我。從此服而釋之。携而  
取之。進退攻守。惟吾所爲。而無所不可。今雖議募萬人。遼左人稀。豈  
能一呼卽應。卽應矣。買馬製器。繕甲編伍。豈能一時取辦。事事未卽。  
而遽欲早決機宜。東間西謀。以重其疑畏。而促其侵叛。臣不知遼之  
所終矣。臣願今於奴酋。惟只募兵訓衆。行以安詳。處若無事。以徐圖  
其後。且勿先露權奇。驚虜啓戎。而致他日之有悔。是則臣之本意而



已矣。若使天肯祚遼。東西兩虜。俱聽款撫。果得數年寧帖。數年閑暇。亟趁此時。大修邊備。嘗膽枕戈。以發其憤。破釜沉甌。以決其勝。拯焚救弱。以急其事。而不敢一刻錯過。一事苟且。以弄虛文。致釀大禍。如科臣之所慮。臣且藉是以酬一念之苦懷。而免他日之遺議。此則督撫鎮道之事。而臣愚不敢自必其後者也。

遼東巡按熊廷弼題。爲撫鎮棄地招虜。事關封疆。謹循職糾舉。並請查勘。以正欺君負國之罪事。准兵科都給事中宋一韓揭。稱遼東候代撫鎮趙楫。李成梁。棄地招虜情罪。合行勘明議處。選差有風力御史一員。前去查勘。要見寬奠等處。原種新地。是否軍民告明。每歲納糧若干。有無倉串籍簿。原議攤地。徵銀充賞者。是否舊地疆界。夷酋阻貢三年。有無照常給賞。卽未給賞。年來積銀若干。見貯何處。目前地界。有無分明。鴉鵲等處。曾否設有關隘墩臺防守。其四至俱照前

撫臣張學顏展拓里數。踏看明白。果爲奴酋占據若干。作何講議。令其退還。仍刻石界址。永杜侵爭。一一勘確回奏。聽該衙門覆議。上請。如法論罪。陞廕。應追奪者追奪。道將等官。應追論者追論。庶欺君負國者。無軼顯罰等因。備劄到臣。依奉案行分守遼海東寧道。兼理邊備屯田右叅政謝存仁會同。整飭遼東開原等處兵備。兼管屯田副使石九奏。親詣地方。逐一從實查勘明確。作速呈詳。以憑覆勘。去後據分守等道叅政等官。呈稱云云。督同遼東掌印都司。自在州。親詣查勘。自撫順關口勘起。查得本關地名黑沙臺。離本所二十里。原係向來通夷關口。與東州堡地方。俱守舊邊。並無告墾田地。而馬根單堡所直霧兒口。煙子溝。槽子峪。及散羊峪所屬地名大峪。查雖韓斌舊邊之外。而住民徐天保等八百九十八家。陸續告種納科。萬曆二十五年。六年間。已經前撫委官何繼祖等。分定基址。蓋有年矣。至三十一年。韓宗功等。盡行驅進清河堡。誌書所載。舊邊原有鴉鶻關。離堡



七十里。撫夷廳基址見存。今新鴉鵲關距堡止二十里。又誌書內松樹口墩。東安墩對直。今邊各三十里。靖安墩二十五里。靖虜墩二十里。靖虜空墩二十五里。向化墩十五里。靖夷墩十里。又一堵牆。誌書所載。盤嶺墩。離今邊對直四十二里。共計墩臺九座。沿邊相連共六十六里。雖係嘉靖年間失守。而內有盤嶺墩。松樹口二處。向爲我民宋三等五百餘家耕種。亦被驅進。地全入虜。寧遠伯李成梁圖以大松樹口。盤嶺住民爲逃民。非也。鱣場堡邊外。亂墳子。長子溝。牆板溝。張外郎房身。離八字房身。桃墻峪。積堆柴。葦子場。共八處。住民胡勳等一千一百餘家。告種納科。先經委官何繼祖等。公同夷人。分立界址。今亦盡數驅進。孤山堡。查係萬曆二年改移今處。此其所建六堡之一也。內有張其哈喇佃子。離堡二十五里。西北接鱣場堡三十里。東南接綏陽五十里。計邊長八十里。內設歹溝。紅石崖。南河。金口墩臺四座。俱係萬曆二年新建。雖初議建堡于此。未果。而其地向係本

堡軍民耕種守哨。今俱棄。與夷人住牧。惟金口臺見存。今亦被夷折毀。卽誌書所載。乾岔兒臺。亦棄不守矣。自黟陽迤東。新奠。寬奠。大奠。永奠。長奠等處。至鴨綠江邊。原係巡撫張學顏。總兵李成梁所創。一路墩臺。邊界俱存。卽界外近地。如雲頭里。喇喇泊。剪子河。松子嶺。幾處尙聽住種。惟自黟陽界起。賽兒疙疸迤東。至橫江一帶。共計地名四十餘處。住民四千三百二十餘。沿長近三百里。皆在鴨綠江西岸。俱經二五五六九等年。委官何繼祖等。公同夷人。刻木鐫石立界。俱被韓宗功驅逐入境。以上住民。共六千八百餘家。計地約六百餘頃。俱係陸續告在撫按衙門批道。轉行各官。查明詳允。每畝先納地界銀三分。方許開種。徵糧三千餘石。俱有庫收倉收。簿籍存証。其撫賞一節。先于萬曆二十三年。夷人馬三非。奏討賞銀五百兩。蟒段五疋。蟒紗五疋。一向未與。至二十九年。委官何繼祖等議。以漢人旣種夷地。卽於種地人戶。派銀三百八十兩。加撫順所原有額賞一百二十



兩。共足五百兩。蟒段紗十疋。折價銀九十四兩六錢。自三十年起。照議徵給。至三十一年。議分疆界。未曾起徵前項銀兩。已蒙撫院會同總鎮將。三十一二三四五年。陸續先於廣寧庫借給。牌行分守道。動支前庫夷馬價銀解補。三十五年。亦於廣寧庫借給。未補。夫初告開墾之時。先納地價。又納科糧。又納賞銀段價。爲撫夷之用。而夷人亦忻然相安。未聞有攘奪而蹂躪之者。胡一旦驅還而棄之也。各屯住民。開種已久。生長子孫。蕃衍族類。選其精銳。人可爲兵。儲其糗糒。積可爲餉。簡而練之。進可以戰。墩而堡之。退可以守。得寸則寸。得尺則尺。不以鱗介易我衣裳。而今乃曰。此原夷地。俛首下氣。以與之。而又借此以爲奇功。寧不使夷人齒冷。而輕我中國乎。當其未開種之先。卽境外爲甌脫。秦莽崎嶇。而夷虜之巢穴尙遠。及旣驅還之後。則疆外爲阡陌。木拔道通。而夷之駐牧益近。豈彼以金牛之計。而誘我五丁之鑿乎。且此開種之民。給有帖文。納其科糧。出有撫賞。何謂逃民。旣

非逃民。何謂招撫。自以良民爲逃民。驅劫爲招撫。我民流涕而號。夷人掩口而笑。由是夷志日驕。而立碑之說起矣。其曰你中國。我外國。何其悖傲。既並稱國。又稱兩家。何其僭逆。由此稱王。由此阻貢。悉自得地之日始。而其害蓋有不可禿穎數者。其新地攤派錢糧。已經本院出示免徵外。所有棄地等官。相應分別。議處緣由。呈報到臣。該臣覆勘。得自撫順關起。至東州堡。迤東清河所屬。以至靉陽一帶。爲成化中副總兵韓斌所定之舊界內。惟孤山一堡。又迤東新寬大永長五堡一帶。爲萬曆二年。巡撫張學顏。總兵李成梁所展之新界。而新舊分矣。舊界外之新地。如馬根單。散羊谷。鱣場等堡。所直霧兒口等處。猶得以出邊告種爲辭。至於清河之鴉鶻關。松樹口。東安。靖安。靖虜。靖虜空。向化。靖夷。一堵墻之盤嶺各墩。一連九座。長六十六里。此皆我之舊邊也。今則縮守內地四十里。而七十里之邊失矣。孤山之張其哈喇佃子。西北接鱣場三十里。東南接靉陽五十里。先年雖建



堡未果。而其地猶我軍種。萬曆二年所創歹溝。紅石崖。南河。金口四臺。及誌書原載乾岔兒臺。猶我軍守也。今則以堡側古壕爲界。前項盡沒。而八十里之邊失矣。新寬大永長奠五堡。舊皆邊衝。邊外地曰松子嶺。乾灘子。十岔口。青崖子。文大人營。鍋兒聽。舊皆虜衝。此萬曆初年。閱臣原議也。故展設五堡。以扼諸衝。今其界俱在。卽科臣所云雲頭裏。喇咧泊等處。亦俱在。若以失去原展之地。硬坐李成梁。成梁必不服。但自鰲陽界起。賽兒疙疸迤東。至橫江一帶。徑一二百里。長約三百里。住民耕種已久。課無逋欠。虜無爭競。此不可謂其非我地也。土人稱爲朝鮮餘地。初亦不信。及查成化中。朝鮮苦女直邀劫。請改貢道。兵部郎劉大夏曰。不可。朝鮮貢自鴉鶻關。由遼陽。經廣寧。踰前屯。山海關。迂回三大鎮。而後入。此祖宗微意。令毋窺見中國淺深也。今舊鴉鶻關。在清河之東北七十里。正與長永一帶新地對直。若從鴉鶻入貢。此正經由之地。土人之言。豈盡無據。又查遼誌。嘉靖十

六年以前。鴨綠江西。湯站堡東。地名九連城。南北順江一帶。遼人麗人。住種混雜。交通行竊。該國移咨都司勘呈。御史胡文舉疏請。此後遼屬軍民。不許在此住種。朝鮮住民。不得越江採取。其後皆爲我民住種。是以有鎮江城之建。此卽九連城故地也。又先年。李成梁自險山。展出一百八十里。當時並無一夷居住。卽今長永大三奠迤北新地。二百餘里。當初亦無一夷居住。而我民始居之。由是觀之。不論朝鮮餘地與否。順江以北。總是華夷共棄之地。不可謂其盡建夷地。今則盡棄與夷。而三百里之邊。又失矣。此棄地之大略也。卷查居民告墾者。自萬曆十三四年間。已有之。原非以東征稅監之。故華夷相安。奴酋向亦無說。祇因二十八年六月間。原任寬奠叅將張光先。恨新地之民不服拘喚。詳請逐歸。其時撫臣始有分地分疆之說。而按臣揚宏科。屢駁不允。不曰奴酋旣稱藩臣貢市。何爲分土分糧。則曰撥兵逐歸。併拆毀房屋之議。無乃孟浪。于是復委潘仲禮等。傳調夷人



鎖什等。公同踏勘。議以居民見住爲界。刻石鐫字。永無爭擾。止於東西新地。派銀三百八十兩。合撫順原有額賞一百二十兩。湊足五百兩。以充奴酋犒賞之費。各夷服撫去訖。三十年七月。守道張中鴻。照此通詳。趙楫壓案不批。遂聽李成梁之謀。以爲此奇貨也。奈何不以此數萬人。援招回之例。邀封廕而進爵秩。忽於九月初八日。牌行該道。成梁亦用手本。專主招撫之說。而以前兩年成議。竟不提出一字。其後按臣不查來歷。惟楫與成梁之是聽。而更無一阻手處矣。三十一年三月十四日。通判郭裕。會同韓宗功。調到夷人張海干骨利等。諭以查照韓斌舊邊。分爲界限。各夷俛服無辭。業于十六日。破土空界。而楫忽傳郭通判等。且候張通判來同勘。忽又牌行郭通判等。暫回遼陽。至四月初三日。却又牌稱張通判不來。郭通判等。仍速查勘。何旬日間。反覆之遽也。掩卷思之。不得其故。及查據備禦郎名忠稟稱。通事董國雲。自夷寨回述。奴酋要將漢人趕進。若不肯進。我就着

達子趕他。要打就與他打。要射就與他射。要斫就與他斫等。語甚惡。而奴酋公文。亦隨以此語至。蓋董國雲一到。而郭通判之委旋出矣。然後乃知楫與成梁之意。以爲奴酋本與我民安靜。無故趕回。不借奴酋索地爲名。恐人議論。而人衆數萬。不借此先聲。以劫之。人豈肯入。故密使董國雲。通同奴酋。作此圈套。以塗耳目。向者各官之撤。正待此耳。自是張海等。益鴛鴦掠我生畜。殺我屯民。不肯照依老邊定。自明牆起。順裏路。而舊邊鴉鶻關墩九座。因以與之。其後郭通判。力辭不管。是以復有廢將皮承德之委。自是割張其哈喇佃子。自是割橫江一帶。自是燒毀人房屋。剽掠人財物生畜。自是驅逼人民。渡江潛避。而溺死者千餘人。饑凍死者萬餘人。餘皆流離殍死。不知處所。此驅回人口之大略也。人旣回。地旣棄。奴酋旣安坐。而得數百里之疆土矣。其心以爲界碑不立。則撫順以南新得之地。尙未定。撫順以北南關之地。尙無名。顧遽以定界爲言。則恐不與。而先假忠順碑。以



嘗我。遽以開原爲言。則恐不與。而先請撫順四關碑。以嘗我。遽以四關爲言。則又恐不與。而先請遼陽廣寧二處。以嘗我。及我纔許二處。而夷隨以撫順四關口要矣。我纔許四關口。而夷又以開原要矣。已而四關口之碑立。而遼陽廣寧二處不題矣。撫順南北之界定。而紀功勞。以表忠順之說。不題矣。今其碑文曰。你中國。我外國。兩家一家。是兩大也。曰撫順以南。至江沿九百餘里。邊疆無有存案。我二人重立案。是得新地。而與我定東南界也。曰撫順往北。到開原邊疆。無有舊案。我二人重立案。是併南關。而與我定西北界也。曰三十年起。年年與我大賞。是恐裁革犒賞蟒段。而與我立案也。曰你大國人聽見。不殺他生命。有青天。追究你們生命。是謂中國違誓。而受天誅也。悖逆滿紙。見者髮豎。而一時撫按。猶亟亟稱其忠順。不審忠順語何在。職貢三年不修。不審忠順碑何名。先是開原之碑石。副使堅執不立。又兼爭改批語。不決者年餘。會閣臣以車價通夷事發謀。同趙楫等。

急求入貢。以完通夷之局。而楫等亦因此以息人言。乃奴酋知我之急在此。顧亦緩以挾我。既許復車價。以求之。而奴酋曰。必爲我速立碑。我始貢。則許速立碑。以求之。而奴酋又曰。必依我夷文。我始貢。則許刻夷文。以求之。而奴酋又曰。必副將盟誓。我始貢。則許副將往誓。以求之。而奴酋又曰。必開原立碑。我始貢。守道曰。先起貢。後立碑。撫臣曰。一面立碑。一面起貢。奴酋曰。先立碑。後起貢。畢竟碑立。而後起貢也。自此碑一立。我民卽不敢於碑外拾取一草。守臺軍士。無不向臣控訴。涕泣不休者。此界碑之大略也。萬曆二十三年。夷人奏討賞銀五百兩。蟒段紗各五疋。向未議給。二十九年。委官潘仲禮等議。以漢人不必收回。量於種地人戶。派湊額賞。充前犒賞。爲存吾地耳。其後地旣歸夷。前項賞賜。該道張中鴻議行裁革。而楫復疏。將寬奠。清河。撫順沿邊一帶。未曾起科田土。攤派充賞。見今查議。無處攤派。然自三十一年起。至三十五年。奴酋已三不貢矣。而所許賞銀。則已俱



借庫銀。逐年支給。不敢遲缺。此撫賞之大略也。以上四略。臣絕不作一風聞影響語。皆繙閱卷案。而總括之。可按而覆者。科臣之以棄地陷虜論楫等也。初竊意奴酋當如何強橫。眈眈此土地者。而二臣獨畏禍不得已耳。及臣挨年月日。查閱卷案。始知分土分糧之說已寢。加賞存地之議已成。民已照舊住種。酋已久皆傾服。蓋自二十九年五月起。三十一年三月止。奴酋并無片語隻字。向我瀆擾。惟自四月初。董國雲自夷寨回。而奴酋忽大變局面矣。是奴酋向未敢於爭地也。我則陰導之爭。向未敢於驅民也。我陰導之驅。向未敢於出兇悖語也。我則陰導之兇悖。以恐嚇我民。而漸至於辱國辱陛下。是謂獻地。不止棄地。是謂通虜。不止陷虜。此等事體。外關封疆之強弱。內關國家之盛衰。伏乞嚴勅部院會議。務從公擬斷。毋徇私而背公。毋壞法以庇罪。臣愚不勝願望。

籌遼碩畫卷之二

天都程開祐仲秩父 輯

遼東巡撫張濤揭。照得北關世犯遼東。自成化正德以前。節次慘毒。卷案如山。俱難枚舉。近查萬曆十一年。仰加奴。逞加奴。爲白金二酋之祖。糾結土蠻。恣殺開遼。比仰逞俱殄。禍猶未歇。卜寨。那林。遞興。是爲白金二酋之父。十三十四十五六年之間。糾合西夷。以兒鄧等。忙谷關等。恍忽太等。南行殺掠。及攻克靖安。鎮北。威遠等堡。慘不可言。白金二酋。率祖父之行。猶爲開原大患。三十六年後。因與奴酋交鬪。而奴酋強甚。二酋始歸中國。爲依人之鳥。儻得假手中國。勦奴酋。以快忿。不勝大願。而故結該路道將。歆盟行事。烽報惟所扶同。以是知北關誠順夷耶。又查奴酋之本寨。去橫江。鎮江。清河。撫順等處。入犯遼陽。僅逾一塹。最切最近。其距開原頗遠。奴酋謀犯中國。舍其切近。圖其阻遠。而有事北關。非奴酋不審封域形勢也。以北關爲西酋之



路。北關婚好西酋。而奴酋西之路。卽不可得。西之好。尤不能修。以是  
 知奴酋必怨北關。而不但匿壻不還。老女負婚已也。本年十月初五  
 日。貴部院咨稱。令總兵官提兵東去開原。出邊屯住北關。代金白二  
 酋戍守。相機殲殺建酋。其廣寧。寧前。遼陽一帶。蒙調西兵移住。一片  
 石。寧遼有警。西兵出關救援。不致分總兵官西顧之慮。誠奇絕之妙  
 著。救寧之勝算也。先是分巡道汪國楠。亦有移鎮北關之策。職猶未  
 達。今如貴部院。西兵援西鎮兵。乃可崑力東方。視巡道之議更完。除  
 已抄咨示鎮外。猶斟酌未行。但查八月九月十月。節次聲息之報。有  
 山海叅將藺登瀛報。賊一萬要犯前屯。義州副總兵李懷忠報。乃蠻  
 達賊。並哈刺營達子。一併上馬。不知犯搶那地方。又山海藺登瀛報。  
 賊一萬要犯錦州。又報賊二千要犯寧前。中後所叅將李繼功報。賊  
 四千要犯寧前。又義州李懷忠報。乃蠻借克什炭等兵。要行犯搶。又  
 山海藺登瀛報。賊三千隨帶三箇月食。要犯廣寧等處。又錦州遊擊

尤彪報賊三百要行犯搶那地方。鎮靜守備李正胤報。乃蠻等賊四五千。要犯搶舊路。攻尅邊堡。又大康堡屬夷報。賊二三千。在目下要犯搶那地方。又山海藺登瀛報。賊八萬要搶遼東三岔河。又報。賊六千要犯山海東西。又鎮靜守備李正胤報。乃蠻賊要犯細河。又山海藺登瀛報。賊三千要犯寧遠。又寧遠撥夜報。賊五千要犯中後所。又山海藺登瀛報。賊二千要犯寧遠。又寧遠撥夜報。賊四千要犯東關。及中後所屯堡。又山海藺登瀛報。賊七千要犯中後所。鎮靜守備李正胤報。賊一萬要犯錦義二州。又山海藺登瀛報。賊四千要犯寧遠。又報。賊五千要犯寧遠。又前屯副將李光榮報。賊一萬要犯寧遠。又義州備禦馮有功報。賊二千。在邊打圍。又報。賊五六百打圍。又杏山備禦佟國祚報。賊一千在邊打圍。又大康堡報。虎墩兔愁。帶領二千箇頭兒。上邊打皇圍。又報。打刺趁等。要犯搶清細河。是寧遼一千餘里之間。警報紛紜。雖是遼東歲歲年年之常事。惟全鎮分防。枕干坐



戟。每憂難支。不知寧遼可置之度外。而且宜急於東夷之外邊乎。一旦寧遼有警。虜之突忽。疾如風雨。信馳關內。兵出關外。卽啟關點放兵數十萬。動經二三日。方可稽詰發行。虜若不待西兵之至。先行殺搶。可任之乎。卽得出關。止可救得八里舖一處近地。然亦不必點查。後可萬一有濟。如俟點查。卽八里舖亦不濟事。如虜自晝來。傳烽進關。後可萬一有濟。如果夜犯。關門幽阻。等到天明。飽搶慘殺而去。亦不濟事。若自八里舖而外。至前屯錦義清細三岔。十方等處。動岐千有餘里。關內之兵。人生兩翼。馬皆千里。恐亦無及。竊思北酋老女負盟。逋壻客匿。雖經固諭。罅隙已成。難保不逞。該路將役。各欲行私。東挑北弄。難保無烽。職欲爲遼計。恐妨北事。欲爲北計。恐妨遼事。貴部院之奇策。要必出於西兵住一片石之外。而後可倚賴也。

遼東巡撫張濤議。東珠紫貂。天下之厚利也。利從江夷來。是卜占台

之部落也。此利向從江上。到南北關販賣。開原人甚利之。而遼陽人不能分其利也。自奴酋爲圖此利。爲納南關猛骨卜羅爲壻。以猛酋卽江夷叔姪也。猛酋雖爲奴壻。不能強江夷。以貂珠之利與奴。奴憾猛酋不爲他勾引江夷。因猛酋調戲伊妾。故殺猛酋。但收猛酋之子。吾兒忽塔。妻之以女。然奴酋利江夷之心。未已也。只得將三箇女兒。次第與江夷占台爲妻妾。只爲盡圖江夷貂珠之利。柰奴酋貪甚。得了江夷貂珠。不與全價。奴酋卻到撫順關上貨賣。又得了厚價。遼陽撫順人。利奴酋有此貨來。與奴酋俱相善。在江夷。却說貂珠賣與北關上。得全價。如何奴酋阻住我。不得到北關上賣。開原之人說。北關有江夷貨來。我開原人纔得厚利。今如何把去奴酋奪了。只到遼陽關上賣。所以商同北關。一心同口。謗愬奴酋。挑弄江夷。北關二酋。因以原許奴酋老女。故稱天下絕色。願獻與江夷占台。且私送衣鞋。誘哄占台。及至。哄動占台。以致占台與奴酋三女反目。三女訴苦于奴



酋。而奴酋征占台之兵出矣。占台走赴北關。依就老女過活。奴酋要殺北關。問如何許他的老女。今日反把來哄他女婿。北關遂不敢以老女與占台。而占台亦不敢要老女。北酋另以幼女配占台矣。卻要另把老女與西酋宰寨。奴酋又要殺北關。故老女亦不能與宰寨。另以一幼女與宰寨矣。今見開原人與北關歃血。同要去殺奴酋。北關恃開原。又要將老女與西酋煖兔之子。糾兵同殺奴酋。以致奴酋大怒。要與北關興兵也。

遼東巡撫張濤題。爲北酋之釁益崇。東酋之釁益急。全遼之釁益侈。兵單食匱。縶拽萬分艱難事。臣稽東北二酋。世讎世殺。不論有釁無釁。率以爲常。乃者。北關納誘叛之逋壻。措久聘之老女。以致構禍有辭。是在北自開之釁也。頃又恃開原之出助。而老女欲嫁於兔酋。因占台之思歸。而屬部多亡於奴寨。是爲奴酋毆夷者。金白二酋也。此

北關之釁。所以益崇也。乃者。奴酋忿北關之挑掎。疑開原之歆盟。以致報怨生奸。是在東不平之釁也。頃又親來訴苦。而聲救。恐眞爲大兵。虛想平和。而偏庇却傳於密虜。是爲北酋起戎者。卽北叛之多酋也。此東酋之釁。所以益急也。近日奴酋兩次訴狀。先一次。親投到關者。臣已封送于兵部。後一次。關上遞來者。臣又咨送於總督。意猶缺望。語多忿戾。卜酋密私其奴。而懷歸。北酋疾視其夷之叛去。東北兵連。勢似難已。夫使二酋雖動。遼左三面之邊。寂無王庭。尙可援北拒東。無復他顧。乃自臘月三十日。報虜七八萬。結聚遼河。鎮臣張承胤星夜出矣。西北一帶。兵馬北急。那之西矣。寧前乃昂等酋。又報巨萬結聚松山等處。西急。又那之北矣。幸仗天威。三犯三禦。一矢未亡。而餘嚴未解。分防未撤。那移出境。捉襟露肘。夫使餉以時給。兵有宿飽。馬無奔疲。尙可百抽其十。千抽其百。萬抽其千。出赴北關。相機戰守。乃今五月無餉。五月無料。些須新馬價銀借盡矣。些須撫賞銀借盡



矣。兼以我兵近聞西事戰色盡灰。西風欲動。文武官僚。憂形于色。叩臣病邸。相對歔歔。臣又只將牌行五道。復將些須舊馬價借出。以濟燃眉。頃據開原道薛國用詳稟到臣。內稱北關差稟石伯江達子。從東建來者報。奴酋正月之內。仍欲復出。北關各部夷。歸奴窠如流。卜占台亦欲逃去。岌岌乎北關將有內潰之虞。又金白二酋。問中國救與不救的信。職業已面分付云。奴酋或再來。我當出救。然只可與爾守寨。我決無對敵之理。如奴酋不來。爾可自守。我兵猶無出境之理。但救之名易彰。救之實難周。目今額兵無幾。新兵無餉。恐無備不能擊其肘。虛聲不能恐其心。卽以區區之兵力。分之搗巢。分之救援。而搗不成其真搗。救不成其真救。祇以貽笑於東。結怨於北。招釁於內地耳。救之。而北關雖好。我兵與奴兵。各有所傷。釁端一開。兩仇莫解。干戈相尋。息肩無期。職不敢諱兵以坐視。亦不敢妄動以起釁。是該道之言。誠老成之長慮。東北之至計也。以臣視之。該道知有開原之

外藩矣。至於廣寧之腹心。寧前之肘腋。遼陽之肩背。未暇議之。及而慮之詳也。該臣批詳大意有云。東北二酋。前按題有便宜之妙策。張良復生不能奪箸。况奉有欽依。誰敢故違。往救之役必不可已。東協新協。責成有在。毋得以千里詳文往返誤事。且昨奴子在遼。諭之撤兵。奴乃隱忍。今日奴又何所顧忌乎。須慎圖之。臣又商同鎮臣。將廣寧大營火器鳥銃。手量發開原聽用。餘有些須兵馬。量留在營。以防寧廣千有餘里之虜。不敢擅自全移。致取近攻之禍。其遼陽一道。及開鐵等處兵馬。盡爲開原所用。以成便宜之事。至于果濟有北。果殲彼東。多未可期。臣有去年東事一疏。一揭俱存。但恐不幸言而中耳。值此東北之多事。西南之迫虜。又值此兵無可騎之馬。馬無可戰之兵。兵馬無可需之糧料。大事可寒心。夫可消可平之毒。遽砭之而使開。開則性命當防。極餒極瘠之蹇。紛挺之而使馳。馳則仆跌難保。若曰只靠現在兵餉。一戰而勝。萬全而援。臣實未敢逆睹。臣但心願之。



矣。臣謹瀝血疏聞。如果臣言可繹。伏乞勅下該部。先議給餉。以足食。猶恐遼兵寡助。更議徵調。以足兵。庶幾全遼有幸。而北關舉安。東酋授首。後事之功。當可勞俟。

遼東巡撫張濤題。爲病不忘遼。退欲陳愚事。臣目擊三韓。有兩大事。似宜遠慮。一爲北關適開二釁。終爲開原剝膚之憂。一爲東遼久闕三藩。終爲神京左臂之患。何謂二釁。北酋有一老女。東酋求婚。陽爲交驩。北酋陰欲復行兼併。猛酋卜酋之計。北酋灼姦拒婚。不可謂不智矣。亡何。東酋之壻卜占台。迫于岳奴之劫。殺棄其妻子。亡命北關。而北酋納之。當欲室以老女。東酋忿號。卜酋惶恐。亦不敢娶此老女矣。北酋猶念卜酋未可虛拘。旋以少艾二女。一贅卜酋。一贅卜酋之弟。東酋亦不能堪。若曰北酋密誘伊壻爲壻。令伊三女爲活寡婦。諸甥爲有父之孤子。聲言陳師。北酋告急。臣等奉宣國威。禁奴狂逞。奴

隨斂戢。而其衷豈甘心焉。北酋乃謂。東酋巧連西酋。代爲侵軋。事或然也。此謂東一釁也。北酋金台失有女。爲兄嫂那林孛羅收養。以嫁宰酋。生有子女矣。宰酋反目。踢妻至瞽。乃者。金台失。又故殺那林孛羅之妻。卽宰酋之岳母。是已宰酋乘隙生心。挾求北酋之老女。意謂得此一物。亦足贖殺伊岳母之罪。北酋亦無不可。奈老女以死自守。乃曰。我姑見棄。我豈敢往。宰酋疑爲北酋故拒之。他詞糾衆攻北。失利而去。頃又益兵復攻。擄去男婦二十餘人。北酋不怨宰酋。而怨奴酋。蓋謂奴酋之賄連也。事又或然也。是謂西一釁也。北酋積此二釁。危若累卵。北關危。開原豈能獨安。臣欲令北酋送還卜酋。則卜酋必不生。是以殺之之計。送之也。非人情也。况乎送又無能緩西酋也。欲令北酋女與宰酋。則老女必尋死。是以死之之計。與之也。非人情也。况乎與益祗以怒東酋也。臣調停之文誥。聲救之機宜。凡可解息救寧者。日與鎮臣商確。隨便舉行。無敢瑣瀆。第念東西有合併之勢。北



關蒙腹背之災。日來厘厘募兵。輿薪杯水。其何能濟。儻謂一怒之安。聖王不諱。然必如拯朝鮮故事。兵馬糧餉。量得十分之二。始足圖功。而東方必可平矣。何謂三籓。遼左南鄰朝鮮。雖有倭賊。尙阻大海。惟東北西三面。處處近虜。年年被虜。祖宗朝戍守方新。刼戍鮮利。故虜患稍淺。比年生齒寢繁。地利漸闢。劫掠多利。故虜患日深。且三面空坦。墻垣未備。戎馬易馳。須得塹限華夷。守資屏捍。將達賊無飛戾之伎。而士女有金湯之藉。誠萬萬不可已之大役也。臣始入遼。卽檄該道有云。國守於險。地完於利。未有舍險失利。而可徼倖無虞者。他塞多墻。彼賊常少。不知全遼何故不墻。況四面虜倭。累年搶殺。禍常岌岌。計復悠悠。有識者議遼宜墻。而瞎議者反詆爲多事。遼之官司計墻宜急。而遼之紳弁。哂墻爲迂。其中有故而沮毀。無見而猜尼。兼以苟且希功之輩。慮不移晷。事恐逢尤。遼竟無墻。而虜恒苦遼。弊難殫述。今日心知城遼。係千好萬好之盛事。亦心知城遼。有千不好萬不

好之胡言。顧今日。日營遼之必易爲城。而心不能已。又心痛遼之易城不城。卒受無城之害。而議不能已。每每逢人下問。固知遼之城。有宜山修者。謂因山劈山而修也。有宜水修者。謂因水堤水而修也。有宜磚修者。謂柴便灰便而修也。有宜植修者。謂柳多榆多而修也。有宜仍修者。謂基在石在而修也。諸如此類。因勢議城。因城議工。因工議費。因費議處。因處議督。因督議防。因防議能。因能議報。而遼城不足難矣。此非忠亮幹濟之選。功名久遠之士。不敢與謀。爲此牌仰該道。乘暇閱邊丈邊。估築牌內。事理心上。經綸局外。區畫不無殊倚焉。道有分轄。計在互濟。機相競勸。蹟可蚤熙。而靈臺靈沼。移爲靈城。不無奇企焉。臣竊查得。遼邊自一片石起。至三岔河西岸。計一千一十二里一十八步。內除山川險峻。人馬不通。并大凌河。三岔河。及已完石牆。共三萬九千六百三十餘丈。計二百二十里。不必修築外。實該應修邊牆。七百九十二里。每里計一百八十丈。共一十四萬二千五



百六十丈。內應剷削偏坡。八千四百五十九丈。計四十七里。其應用石修之牆。有四萬五千九百六十四丈。計二百五十五里零。每丈石工灰價築砌。及僱覓人工。該用銀二兩。共該用銀九萬一千九百二十八兩。此蓋就山取石。累石爲牆。石平面極大者爲底。平面稍大者砌身。根闊一丈八尺。收頂一丈二尺。高一丈九尺。磚石雜砌。堞口高四尺。通高二丈三尺而止。其用輒包土牆八萬六千九百一十二丈。計四百八十二里有零。共該買柴燒輒。買灰砌築。僱工等項。每丈細算工值銀三兩。共該用銀二十六萬七百三十六兩。中可構石爲底者。差可省也。高低廣狹。一如石牆。其東邊約八百餘里。內有二百餘里。係水修樹修。無容紛議。內六百餘里。前院修過。土牆猶存。因之包砌補築。十可減費三分。大約用銀二十五萬。可續前功。通共三面邊牆。實該用銀五十九萬六千六百六十四兩。連削偏坡。不過六十萬有奇。更加意外之費。一萬一千。又加墩臺堡署。料銀五萬。前後浩費。

不過六十六萬一千。增至七十萬。寬然裕矣。此等工價。要皆秋毫不  
派軍民。不徵力役。一視民間工作。平買平僱。而猶差從其厚者也。臣  
就遼中設處。有前撫題過馬價。可得十五萬五千。邊夫銀可得三千。  
又前院常平倉本穀二十八萬。每石變價一錢五分。可得四萬二千。  
總計撥括可得二十萬。仍少五十萬。或令就遼開廣事例。或令就遼  
官鑄銅錢。或令就遼姑開山澤。或令九寨贖復廢弁。或令四方量贖  
軍徒。計可復得六七萬。其四十二三萬。不無仰乞於戶兵工三部。及  
問寺湊給。至於分地設防。以衛工作。則各路將官之任也。分工設督。  
凡閒將材官。有志功名者。皆得任事。則各道委任之能也。因功酬勞。  
勞劇功懋。閒者復官。任者陞秩。微能曲技。旌異咸周。則道將分別紀  
錄。撫按題敘。詳明之責也。日月有課。工料無破。心計之士。自有章程。  
臣何贅焉。臣知遼左之三藩。以斯爲第一義耳。三藩永固。東西北邊。  
小竊盡杜。大舉無虞。自是而屯田可日廣。自是而招募可不增。自是



而額餉可稍省。自是而奴酋不足圖。自是而舊遼陽不難復。其福利可勝言哉。伏望皇上勅下該部。再加擬議。堤坊二釐。在援北酋。以保開原。則恭行天罰。當不得養東建之癰。蓋東建據參珠貂皮之利。遼人及天下姦人。多爲所用。易戒害。成書艱罔。斷不可不慎。不然。數年內外。猶可偷安。若懷永圖。似不可已。而今宰酋且迫北酋甚也。收拾三藩。在完遼。以捍畿輔。則東顧保障。當不得吝朝鮮之賚。蓋朝鮮介有無輕重之間。國帑及四方之帑。盡爲所糜。急其所緩。鴨綠恩偏。舍其所芸。巫閭隅泣。惟遼無人。城遼不宜勞遼之人。惟遼患貧。無貧自不患遼之寡。要必厚僱募。以富遼。遼無人而有人。有人而有工。有工而無厲矣。不然。仁原之簣未覆。澤門之謳已騰。東遼區區。安勝此詛也。

遼東巡撫張濤揭。爲屬夷家事互搆事。遼左四面背酋。東有奴酋。北

有金酋白酋。自受中國功封。世稱屬夷。往不暇論。粵稽萬曆二十一年以來。每以貪戾淫昏。動態殘暴。今年四月及七八月間。北酋屢來告急。屢諭使平。頃據開原協將李效忠。及夜役張錦傳報。奴兵北關兩日之內。聲息三至。將夜各報。時日兵情。互至互異。職去開原凡七八百里。攝道去開原亦四五百里。北酋浸潤膚愬。自其故智。將夜吠影吠聲。冀生事端。曲踐歆盟。自有深膺。一二文職庶官。居恒交弁。杯罍簞簋。扶同照應。難憑的確。屬者春仲。清河卻稱。奴擁精甲八百有奇。其時職亦隨流登告。後審烏有。不勝檢舉未遑之悔。豈惟清河。今年六月。北關截劫奴酋人畜布段。共三千五百有餘。開原道將。反報奴夥宰賽煖兔二十四營。達子數萬。焚擄北關立哈等屯寨人畜。又作踐田禾無數。比及嚴查。該道止以字識誤筆回報。又云北關無數達子。躲避山谷。先疑搶去。今已回了。詳文在卷可據。是在北關爲捏情挑激。在開原爲喜事應承。不知每來誣報一番。奴酋切齒籲冤一



番。卽或中有反情。亦有誣輕爲重。誣無爲有覆也。故職于今報。懼仍前誤。尤疑奴之巢穴。切近遼陽。而遼將之報未至。屢次牌行該道。駁詢千有餘言。不能具述。該道信中有疑。聊以報至。所幸。按張順夷一疏亦旣弁聞矣。職惟直指。使者風聞言事。陳報應蚤。職非直指。不敢遽言其風。祇東發兩諭。布告奴酋。令其休兵。以俟區處。北發兩諭。布告金白二酋。令其別置奴壻。勉許老女。以紓猝變。北酋聽否未復。而奴酋撤兵。連得報矣。職欲更具一疏。敬告天子。竊想瑣瑣酋家鄙事。頻聒至尊。而重貽東顧之憂。義所不出。又想卽有題疏。不過發部議覆。不如徑以揭投。如必加兵。煩爲議題。如止宣諭。煩爲擘畫。以便遵依。顧揭雖多言。而不多不悉。乞垂清察。職念按張繼鬪狠之疏。奏便宜之策。興出境之旅。問構怨之酋。用心有在。壯氣可偉。唯便宜一策。言未容易。蓋遼必有便宜之兵。後可騎便宜之馬。亦必有便宜之馬。後可乘便宜之兵。尤必有便宜之料餉。後可以供便宜之兵馬。而無

師興資匱之虞。今遼之餉料。半年無給。遼之兵馬。僅僅若此。值此秋高。分防二千餘里。無城之邊。東急那于西。西急那于東。北急又復那于東。西烽砲時聞。駝驚日遠。退求枕戈之瞬。憩寒磧而無從。慘聞枵腹之嗟號。悲風而有痛。如此之兵之馬之餉之料。撤於今日。難撤之窮邊。援於平昔。未援之虜域。於此有人。明目搖手。乃曰。何不便宜行事。此真所謂天下饑。何不食肉糜。天下寒。何不被狐腋者哉。儻必慨焉便宜。盡將防邊兵馬。趨赴北關。西北雄酋。簇獵境外。遼中舉動。辰發辰。知我方孤棲於酋關。彼卽沓搗於遼腹。此一時也。勢必舍置北酋。進而攘虜。四顧邑屋。宛其居矣。紛皆虜矣。將見北關未必以便宜全。而遼左先必以便宜破。奴酋未必以便宜殄。而北關且復以便宜盡矣。防漏憂天。當講補天之石。顧傾憂厦。當求撐厦之材。無石無材。而漫言補撐。開門揖盜。赤體撲燎。可爲寒心。兼以挑奴起戎。奴反北關之旅。直向開遼。拚死橫逞。開遼其有幸乎。縱使兵馬糧料。十分充



峙。時情世法。百分脂符。惟所便宜。無復掣肘。而不聞乎。猘狖之役。歌采薇。而遣之有所稟耳。雖遼臣勅中亦載防倭。昔勅朝鮮。何曾據勅漫往。且易重師貞。書言度義。乃今東北二酋之義何如。北利江酋之貂珠。潛計姻婭。密贈衣鞋。江酋惑之。乘奴攻敗。竟投北關。而北關居奇矣。奴曰。老女我聘已久。何物北酋。既匿我壻。又以我之聘妻。溷妻吾壻。春三月間。欲兵一次。職等宣諭再三。北酋懼而老女之婚止。猶然計羈卜酋。另妻以女。奴亦不問。奴第眈眈。俟老女不置。北酋堅欲讎背。懇通開原官將。出境歆盟。日以殺奴爲事。而故以越耕爲名。奴益不平。一面憤來辯訴。一面賄結西酋。事誠有之。北酋邀截攔搶。尅去馬牛段布。奴怨憾慚惶。入于骨髓。奴又欲兵北一次。職等再三宣諭。姑亦已止。奴復訴耕。如撫安三岔二堡邊外地。係成化年間牧種。如柴河靖安二堡邊外地。係萬曆二十七年牧種。其中添有新夷事。亦有之。遼陽姦弁捏報。清河之甲。實無是事。職商鎮臣。躬巡其地。具

稽虛實。奴恐天兵已動。潛攜妻子數十人。待命撫順之外。奴若曰。天朝不必疑我加兵。我先將妻子送入。就是鎮臣諭通事董國雲遣之。有曰。天朝未兵我。只查地。地去邊。遠者八九十里。近者亦五六十里。奴復語國雲曰。願以子送入。免使北關又謗。職隨差諭撤耕。奴亦卽呈甘結。願撤新耕。惟云苗已布種。秀而幾實。中國收乎。職曰不收也。奴曰北關收乎。職曰汝何詐也。豈有東種北收之理。奴曰然則將聽其爛委于土乎。職曰到秋成時。汝仍收去。明年不許來種。奴唯唯矣。八月間。遼陽姦棍。想到奴寨。便有犒賞。不知何故擅去。逼奴撤耕。奴曰我子已質。許我秋收。你的馬法。已有成言。如何反覆。必是北關又來謗我。奴卽具一印信漢字稟狀。訴告前後情節。職將原稟。咨送兵部立案。訖。職又遣諭北關。令其自爲之計。毋得終匿伊壻。措負奴婚。一切諭帖。俱已刻行。北酋悍愎。適將伊弟速把亥之女名討藍住者。許嫁宰賽。又將搶奴馬牛段布。俱與宰賽。闖刀誓和。西釁斂矣。奴聞



而忿。正要興兵。忽因北酋所分卜酋來夷不能安插。盡逃奴寨。其中有名禿勒德者。妄報奴酋。有云。北酋將計娉你奴之女。今已改嫁宰酋去訖。此奴之所以忿不能忍。而謀動干戈于北也。此其義。奴直乎。北直乎。卽背不直。而彼善于此。要難故抑。若使獨謂北關爲順。提兵征奴。一戰殲奴。然且不可。况內無成命。外無厚資。輕以零星餒卒。投之虎口。一旦輿尸而還。開邊叢議。撫鎮之肉。其足食乎。職嘗有言。奴與北酋。皆盜也。北之盜奴。無他技也。所持者。開原之火線斧錐。及其盜夥也。是欲併挾開原爲盜者也。奴之報盜于北。則有故也。奴非無事之酋。而北又與以匿壻騙婚之事。奴正欲爲有名之師。而北又與以截東勾西之名。是奴本有盜心。又恨北酋之巧構。怨中國之偏護。而激其爲盜者也。夫挾開原而爲盜。先者。職未見其順也。激于北關。而以盜報者。職未見其全不順也。此等委曲。職心知之。未敢告人耳。北關屬夷也。東建亦屬夷也。兩夷互成火水。而中國則無分覆載。卽

中國惡盈福謙。疾強殖弱。僅可意行。難以事著。著則益增之毒。而反傷其覆載之公矣。語曰不善爲吏。視已成事。職查萬曆二十一年。東北三酋聚兵各萬。交相攻殺。奴殺北關達子三千有奇。馬牛無算。遼東宣諭之外。未加遣一矢。又查萬曆廿七年。北關會合騷酋。搶殺南關。人畜勅書。殆盡。南糾奴酋救援。奴反將南殺虜。至無噍類。遼東宣諭之外。亦未加遣一矢。固知今日奴罪貫盈。斷不可貰。職當未構之前。業有東酋警報紛紜之疏矣。業有北酋二釁之疏矣。業又移咨軍門。預圖東事。應違矣。咨中語複不錄。大意謂各酋之家事。中國不宜照管。其說誠是。惟三酋之家事不平。則東北之禍害難息。萬一東酋一動。北酋必不能支。而近爲開原之計。將往救否。兵馬可出邊。以勤以夷攻夷之夷否。職欲先事題請。恐涉張皇。欲臨事題請。恐失機會。未然之籌。萬全之慮。及其閒暇所宜。蚤定爲此具咨。或卽貴部院。獨斷出奇。抑或轉咨兵部。預求定策。職謂前無所因。而今有所創。誰其



信之。內無所受。而外有所專。誰其與之。無信無與。而欲以空拳搏虎。漏艦衝風。誰其保之。職唯是寧慎。毋忽。寧怯。毋雄。寧爲東遼。存數千里之荒徼。而毋敢委荒徼于一擲。寧以不佐盜獲罪。而毋敢以善開邊受賞。職若欣豔豪舉。妄意女直。釁鼓。毛憐。焚旗。要必如職前疏所請。量得救援朝鮮之半。乃可從事。至云質子會疏。其東酋本情。業具投部印揭之內。初職會藁。蒙按溫詞。許可畫題。職始發疏。比及某道。某道與按薦議。而後倒節有指。按示職曰。祿山質子禍唐。劉聰質子禍晉。宜拒奴子。職愚未達其時。職疏已發五日。計不能追。職自復書。並因巡道致書。其言若曰。士庶之家。走一人畜。到宅必須報官。孔子有言。旣來之則安之。今日之疏。要亦報官之役也。未必見棄于孔子者也。至其奴之誠狡。與其子之去留。職疏兩端畢具。其視按慮。不翅加詳。職且有云。若欲奴與北關不爭。彼自世讎。此不敢保。若奴二三年間。敢叛中國。職身保之。且今日質子。奴爲中國。不爲北關。此自職

事與按無累。頃按一見抄叅。皇皇剖別。更也仰之君子哉。按慮奴圖北關及開原。及遼陽。及山海。中外熟詞。簡牘蝟具。大凡揆策。莫衆則迷。稽衆自的。職謬繹之。未敢自信。奴酋貪刻無比。一貂一雉。一兔一珠一參。部落諸酋。私攘私市者。殊死。而奴只以一人專其利。其視財物無取。好惡與共者。異矣。奴之妻子弟姪。恒遭劒矢。崇城密護。夜恒數徙。其視簡易忠厚。堅培本榦。內理腹心。以希呼吸通關。緩急禦侮者。異矣。天性反常。蕭牆叵測。猶能橫恣罔怠。各夷惟所捲襲。美利惟所兼併。子女惟所盛供。而剗剔繼之。積威所劫。匪伊朝夕。首難無倡。伏而未動耳。儻有一筆邪氣者出。奴不過劉哮之續而已矣。雖劉哮釜中蝦鮒。不能望奴之萬一。然奴之府怨彌久。彌博。所願甘心。實繁有徒。于此獨夫何有。無以則聲其蠶食七夷之罪。而加之討乎。討必如蜀于播。兵徵四國。餉集數省。將簡璘縵。鼎足遼鎮。猶昉成化丙戌故事。間發一旅于朝鮮絕海。而北遏奴竄路。大縱嚴兵于清撫。進攻



五關。授北關爲先鋒。徑指重城。奴懸囹上。祇又播之楊而已矣。即奴奄捲東方。自君自長。播楊冠帶。鈐轄未及。大明一紙之檄。頻聽調發。流人角訟。渝守牧楊囹圄。楊見獄司。無異孤豚之于屠肆。窮年縱脫。入穴之鼠。洞深蟄遠。所費蒐掘。是播亦不敢望奴之十五。然奴腴而境肥。衆所覬覦。播瘠而山險。衆可有無。絜此較彼。奴之可圖。衆利有歸。殊易于播。策此而後。中議便宜。職有屏息聽示耳。再查夏秋迄今。虎墩兔愁。日與好兒趁等達子讎殺。紗花色特兒等。日與五路達子讎殺。三酋要皆款順。距廣寧僅三四十里而近。旣云宜救。應該一視未有開原最有關繫。而廣寧不足重輕者也。伏乞裁察。謹揭。

遼東巡撫張濤題。爲建夷懾服天威。謹修質子曠典。乞勅朝議處置。以慰遠忱。以息邊患事。臣惟九塞之夷。遼左爲甚。全遼之夷。建奴爲甚。蓋自奴酋奄有毛憐諸衛。稱極衆。併獲勅書賞賜。近又益據腴壤。

盡參貂東珠之利。稱極富。吞徂南關。灰扒。吭哪。黑龍江諸夷。稱極大。牛馬羊豕。子女金錢。歲結宰賽。拱兔等酋。明攻北關。暗擾遼地。以快己忿。而且將冀逞大欲。則羽翼已盛。稱極強。奴酋擅如是之衆。庶富厚。廣大強橫。而不屑小試。自惟生聚修築。訓練爲急。且有明刑法。習星占。諳韜鈴之南人。充入幕之賓。倨軍師之位。時每追念女直之舊。微露反鄙周邦之意。比年以來。人有異其諭令退地不聽者矣。人有異其諭令改碑不聽者矣。人有異其諭令送還吾兒忽答。摩羅合。不聽者矣。人有異其捨碎禮臣諭帖。鎖執通事李得時於鐵房。三月不放者矣。凡所傳播兇鋒狂焰。驚動中外。上自朝廷。下及郡國。元臣碩弼。百司庶府。山林野叟。市巷走販。靡不憂杞人之天。嘯漆室之柱。臣甫入遼。開遼道將。紛以越耕告。又故以耀甲清河告。又屢以攻害北關告。而金白二酋。亦自來告。彼路道將曹文煥等。糜我賞需布段幾百餘疋。牛酒半之。猶然移我火器。私出塞外。潛與金白二酋。刑牲矢



盟。以徑路刀金留犁。澆酒鑽飲爲會。亟以便宜二字來丐於臣。臣書生不知便宜。拒之甚力。聊爲更調。姑寢其釁。然臣猶恐奴姦叵測。未可盡認張皇。固執不理。尋會同按臣張五典。督臣薛三才。皆以道將紛報夷情。奏聞矣。亾何。奴酋籲號冤枉。申遞漢字詞揭。求要面赴臣處伸訴。臣當允許。去後月餘不至。臣慮阻梗。檄詰撫順備禦等官。而奴酋遣使干骨里等。始至。其稱舊耕等地。一係成化年間。一係萬曆二十七年。到今無異。只新添牧耕等酋。願卽撤去。其稱北關構怨。以匿伊壻。及奪伊婚等情。臣復諭之使平。而奴酋唯唯矣。乃北關復又騰揭報急。謂奴賄宰酋。陰行其事。臣每疑慮。密商鎮臣張承胤。曲圖所以救寧之術。鎮臣謂非躬至其地。未可廉實。遂假巡邊。而甲擁清河。舊耕添耕。及鑽刀私誓等情。肇得其悉。隨卽宣諭。令其甘結撤耕。奴今卽以甘結呈矣。臣慮鎮臣止據夷使通譯。未面奴酋。安可過信。復揀精敏奇勇之士。躬詣奴寨。盛陳皇上威靈。并誦奴酋隱微。庶幾

有當。臣諭有云。前據東夷甘結。情似忠順。今日卻又賄買宰賽。搶殺北關。擄劫人畜。羽報紛至。甚是可疑。若曰只是宰酋一部狂逞。不與東夷相干。今北關又說。現獲東夷勾連。賄買宰酋人贓。明有證驗。東夷何得再爲支遯。欺誑中國。似此舉動。東夷如鬼如蜮。不可方物。我國費許多心力。封他官號。厚他賞賚。不如養一狗一猫。猶有一家之義。中國情盡恩隆。已到極處。再加不得。東夷反面背恩。亦到極處。再信不得。問罪之師。誠不可已。但本院又想東夷是伶俐乖覺之人。有通達時勢之智。他豈不知中國之大。兵馬之強。謀臣勇將之衆。若是激惱天朝。赫然一怒。徵四海九州材官。兵餉要一百萬。就有一百萬。要一千萬。就有一千萬。要一萬萬。就有一萬萬。東夷兵馬。只要天朝兵馬。汗雨一滴。就滄死他部落。腳跡一動。就躡翻他地皮。他善度量。豈不曉暢。正恐東夷必不孟浪至此。所以本院屢批開原申文。還爲東夷存疑。又聞東夷有言。若是本院疑他作反。願以親子送到聽用。



或留廣寧。或留北京。惟中國之命。爲此選官再諭。詳示順逆禍福。並查送子聽用等情。若果真的到來。即便題請加恩。世世天澤。永永保守。卽有讒言。以此一事。百不能入。而東夷得自固之策。天朝免意外之防。姦夷不能行挑激之謗矣。臣又申語鎮臣。若曰往昔制夷。多用質子一法。卽先臣楊繼盛論開馬市。亦采質子之議。此非臣今日臆撰也。鎮臣與臣議符。特遴督理三營大旗委官籍大成。往選差丁兵馬成功等十餘人。爲伴當。遼陽守道白養粹。亦差官趙一鶴。代撫順備禦王崇吉。添差通官董國儒。佐大成同去。報入奴酋寨內。奴酋遣伊中軍打兒漢等。迎大成於一百五十里外。供應犒從。同行打兒漢。卻說太師差馬法來。有何話說。我奴在山後打圍。便傳信去。大成具將諭帖事理。逐一傳布。奴酋就來出迎大成於二十里外。入寨酒宴大成三日。虔奉大成等。貂衣掛七件。貂皮三張。紅狐皮十九張。馬鞍一副。又具牛羊犒從。備說節年看邊。恭順情由。願將親子質當廣寧。

城內。或赴北京等語。遂遣第七子巴卜海。年一十七歲。從以頭目阿都。干骨里等。三十餘人。入撫順關。飛報到臣。俟臣諭到。方敢前進。臣卽牌行道將。令其細查。是否眞子。牌云。奴子假而我以爲眞。則酋必我哂。奴子眞而我以爲假。則酋必我怨。哂怨之間。輕重釁隙由之。不可不慎。隨該署撫順備禦王崇吉回稱。查得。今來奴酋男巴卜海。係奴兒哈赤第三妾名眞哥所生之第二子。長子名巴卜太。今來次子名巴卜海。此妾又生二女。一與兀刺江夷普張太。一與雷都。實係奴酋之男。又詢通事董國雲云。此實係奴酋排行第七男。從小看生。每去常見。非今日遽然所識。伊妾母見在。未蒙示。先小的亦防此姦。每密詢入市買賣夷人。衆言相同。及觀動作行止。諸夷畏甚。實係眞子。臣遂差夜役曹得勝等。導入廣寧城。力疾開門。會同鎮臣張承胤。共詢來情。俱與道將詳揭無異。除臣牌行馬政同知李守仁。中軍遊擊高寬。王純臣等。一面查送前寺安住訖。該臣勘得。一奴酋也。由前聞



觀之。陰鴛如彼。而亦不傳有陽順之貌言也。由今事觀之。陽順如此。而亦難信無陰鴛之逆志也。夫豈奴酋歷事彌練。機械彌沉。搏戾欲亢。伏匿欲下。乃且姑爲右賢王之侍。而終忍以巴卜海爲隗恂耶。臣所不能過揣矣。臣照得自漢甘露。唐貞觀。以及我明洪永間。占城高麗故事。修文來遠。豔爲美譚。嗣是隆慶二年。把漢那吉背祖奔降。雖亦夷孫。而順逆之數。較今差異。彼時朝廷之上。一意主張。斷令容納。竟致宣大四十餘年。免於烽火。爲貺殊厚。今奴酋之智計。貲威。視俺答尤烈。覬覦願欲。視俺答尤奢。負雄長之勢。而效行成之請。在那吉。不過逆祖亂命之叛孫。在巴卜海。實爲遵父治命之愛子。此等恭順。殊出人意想測度之外。文耶情耶。即使勉爲文也。而中所顧畏。益可知也。非仗皇上文武聖神。遠制奴酋之死命。天地雨露。深泌奴酋之赤衷。奴酋焉肯委心割愛。吟嘯扼腕。垂涕判袂。屈夜郎自大之體。敦曠世久湮之典。如斯之謹哉。臣謹會同總督薊遼都御史薛三才。巡

按山東監察御史張五典。合詞題請。伏乞勅下兵部。查議。奴子應留。應還。或住廣寧。或赴北京。及一切官費事宜。自有舊章。臣等竊計其留也。狼子野心。未可計。鼯眠之穩。其不留也。堯天舜日。不聞拒來格之苗。若慮其窺遼左之虛實。習中土之夷險。則遼人之久爲奴耳目者。十人而五也。南人之竄。爲奴腹心者。萬人而十也。凡我中華之輿地。圖。兵食志。馬政考。材官傳。不乏臚列舊矣。而奚俟其子之遼語哉。第其供億之費。木土之患。當在意中耳。又凡奴酋所與差去官夜役。皮張鞍掛。應否令各員役收拒。俱唯廟斷施行。至於北關金白二酋。私與曹文煥等血誓。亦有韓昌張猛。偕單于敵東山。舊典可不深問。其私給出邊軍器。爲奴口實。應令取還。又北關所匿奴壻卜占台。或令送入開原。仰乞天語。勅令臣等送還江寨。令收原娶奴之三女。共新娶北關之女。一家完聚。庶東北互親。釁孽可杜。萬一奴酋復背今議。肆害占台。則興滅繼絕。問罪之師。在有名。抑或調停東北之術。



別有定奪。統祈廟算。臣等曷任竦息待命之至。

遼東巡撫張濤題。爲竟陳遼左迂計。以俟聖明察覽。以效萬一補報事。臣觀今日內外諸人。競談遼事。多屬風聞。雖出入遼中。而事不關心。言有所擇。亦與風聞無異。卽如北關東建二酋之釁。言人人殊。要皆聽聞所收。忠盡所發。其云北關必救。臣亦言其當救。臣有屢疏。屢揭。又有密書詢問本兵。言兵言餉。言勦言救。委曲頗具。疏揭書劄。具存可覆。柰何九邊多故。無可那之兵。太倉久匱。無可湊之餉。而其議未能中窾。其請未能如願也。今幸廷臣借銀議。允遼得與分二十萬。可以勾當東北一役。但此一役也。一則情僞之當稽。其稽云何。去年奴酋往犯北關。他不必贅。如報清河耀甲八百。及再查之。止有檢舉之空文也。又報奴酋糾合宰拱二十四營達子。燒燬北關屯寨。不計其數。掠殺酋婦男女三四千有餘。及再查之。止有字識之誤筆也。本

年正月之內。又報。奴酋兵馬已行三日。而清撫之閒。奴酋切近之處也。及查兵馬果否已行。而清撫不知也。又報。奴酋將各寨馬兵盡已喚去。正月二十九日起行。往攻北關。親見步兵在前。馬兵在後。大約五六萬有餘。時已盡將北關山頭占定。開原烽火。絡繹沓至。臣商鎮臣。先發鳥銃火器手前去。旋撤各路防兵。及標兵營兵。及遼開等兵共萬餘人。奔波數日。該道復有止兵暫住懿路之文。而今報又云。奴兵未至。又云。莊南送親。則亦酋部覆謬之支詞也。臣當屢報之。頃卽與鎮臣商說。奴酋既到撫順。訴苦。北關將恐官司信了。必有一番烽火。惟奉近議不可不救。臣言不數月。而警報果至。乃烽火又只如此。諸臣謂其卒如臣料。而臣則安願有此過料也。是東北之形情。近在開遼。尙爾恍惚。況乎廣寧。卽廣寧有聽用官萬里侯等奔告。臣曰。奴酋已圍了北關。乞旗督救。臣笑而遣之。且毋須汝。迨至事定。臣詰里侯等官。前日云何。里侯等但云。廣寧曉曉。而侯等亦曉曉也。廣寧驚



駭如此。況乎京師。臣遂念昔日。兵過黃河。猶拒告密。其故在內。而箝制其外。今日奴爲神物。紛相挑演。其投開原。而開原似不得爲逋逃主也。開原又不受。當必投之西酋。而西方復添一患矣。又使北酋不能逃走。或爲東奴所滅。則北關之地。必爲東奴之地。東奴黠甚。而又強。可曰亦猶北關居北而已乎。如果北關救全矣。東奴之心失矣。或必卽移攻北之酋。爲攻開邊之酋。當斯之時。赫然之怒。大師之克。必不可已。奴酋山險林密。蒐索方可徐圖。非遲歲月。未必盡殄。所憂東建之東。窮荒無際。渡江而去。師老酋逸。我兵言旋。酋復還集。再征再逸。事或有之。成事在人。王杲之功。庶乎可期。臣特不容不悉此酋之變耳。乃臣所謂利害之當審者此也。一則救勦之宜密。其密云何。奴酋擅東方富殖。昭餌遼人。而遼人久爲所用。故遼中舉動。奴酋全知。厥後小則疑怨。大則興戎。我師未出。彼防已預。兼以遼兵遼馬遼餉。奴皆習之。易戒害成。不可不慎。人謂奴酋可以虛聲讐服者。不知奴

酋者也。乃臣所謂救勤之宜密者此也。一則兵餉之當另集。何云另集。救勤一行。二酋已隙。遼中九百餘里之邊。看守無藉。將必時有搔譁。那移應防。兵馬往還。動經千里。一旦調發。恐不濟事。先期往戍。恐誤西邊。如今正二月。草枯料嗇。馬瘠兵餒。往返空馳。人人訴苦。頃者援兵止三百餘人。出住北寨。甫閱數日。北酋怨詈。却說漢兵將他雞狗羊豕都喫盡了。磨之惟恐不去。北酋且又乞餉。開原道詳到臣。臣批姑量應之。夫中國無辟穀之兵馬。北關有仰沫之枯魚。只靠現在兵餉。何能周給。乃臣所謂兵餉之當另集者此也。兵餉厚積。救則實救。勤則實勤。或先令金白二酋。從北兵東。以激奴酋之出鬪。或用大兵。從清撫而入。直搗奴酋之巢。或走奇兵。從橫江間道。星夜遄迫。以出奴酋之不意。或浮大衆于朝鮮。絕海而渡。以防奴酋之遁去。固一策也。是臣所云宜救者。救卽勤也。當不遺此策也。如云虛聲而已。適以召寇而速戾。計豈得乎。臣愚每想此事。區處可了。臣蓋頗知奴酋



器局舉動。與夫籌箸幃帳者。似朝鮮非常之趣。要不過富強爲酋中雄。受享爲酋中冠。而且小有才而狡耳。若能硬主北關涕泣。而女發還。逋壻令與奴酋三女。諸甥仍舊完聚。嚴與之約。儻或戕老女。賊逋壻。有討無貫。萬一奴酋背約。卽以今日救勦之兵馬。留在異時作用。未見爲晚。此又一策也。臣所謂不必加兵。不必加餉。而兩救兩全。術自在也。何也。奴酋好忠順之名。而我亦與完其名。奴酋執負婚匿壻之詞。而我姑爲塞其詞。奴酋恨北關之誣捏。而我爲釋其憾。奴酋好勝在北關之上。而我爲之還其好也。臣固知其必可圖也。舍此二策。只靠些須兵馬。東急那于西。西急那于東。東西俱急。便委于不可爲。而徼倖于不可必。眞有如該道所云。救不成其眞救。勦不成其眞勦也。又安忍以至艱極縮之餉。委于泥沙。以極疲劇嗇之兵。驅于鋒鏑。而究其故。止爲北關守一老女。防一逋壻。若老女遽死。逋壻遽死。奴酋亦死。守防猶有歇時。若女死壻死。奴酋不死。而北關之禍。固終蘊

崇也。北禍蘊崇而我救北之兵餉可暫停乎。矧不止一北關而又增  
出遼陽九百餘里之邊患。誰爲遼謀。仁乎忠乎。臣不知其解也。臣只  
願實救實勦。一創永逸。臣之第一迂計也。乃臣全遼之迂計。惟在築  
牆。夫遼非秦皇漢武不城之遼也。遼從來有牆。嘉靖中。遼撫亦有築  
牆者。其時發內帑。開事例。築有土牆。詞臣郭朴。作有記文。豐碑現存。  
記云。是年牆成。大虜入犯。臨牆搖手咋舌而退。第土牆在風雨中。未  
有十年不圯者。欲興此工。非石非磚。不能久遠。而遼固多山多石。多  
柴木。其採辦燒造。良易。遼土多斥鹵而堅。各屯堡城垣。皆外磚而內  
土。誰云遼土不可牆也。所須金錢。如部科之意。卽寬處百萬之外。遼  
實賴之。遼有山澤之利。便宜收用。臣前疏區處。亦自有說得。此牆成。  
遼有百利。而利不可勝數也。否則百害。而害不可勝數也。年年月月。  
無籬無籬。拚此軍民官弁。試于虎狼之吻。有怵惕惻隱之心者。可無  
戚乎。如曰牆成而封拜無路。陞廕且希。臣謀所不及矣。如又曰內外



空虛。何敢遽議大工。獨不思薊門微闕。便須急借百萬金錢。亂乃過已。遼之可慮。奚翅薊門。積慘負痛。匪伊朝夕。獨不得比于薊門之議。以出一方于湯鑊火坑乎。臣查先年郭墻大同。戚墻薊鎮。彼二武臣耳。竟饒爲之。今人何得驚視二武臣。爲絕響也。此臣全遼之迂計也。伏乞皇上萬幾之暇。慨賜覽觀。如果臣言少有可錄。勅下該部。聽其擬議具覆。

籌遼碩畫卷之三

戊午孟夏

天都程開祐仲秩父輯

遼東巡撫李維翰題。爲黠奴計陷孤城。悍虜聞風煽動。東西交鬩。勢甚猖獗。懇乞聖明大奮乾斷。亟賜調兵發餉。以急拯救危鎮事。四月十六日。據瀋陽遊擊尤世功差夜不收口報。從撫順所平奠舖楊安屯進入。有馬達賊一千餘騎下營等情。本月十七日。據中協副總兵頗廷相差夜不收口報。帶領兵馬策應至撫順所城南。與遊擊尤世功。武靖遊擊文明象。健兵火器。原任遊擊朱騰耀。各統兵合營。本日又據署清河遊擊事鄒儲賢差夜不收。押同散羊峪堡夜不收口報。從兀耳口進入。有馬達賊約有七百餘騎等情。各稟報到職。據此預令鎮守總兵官張承胤。統領正兵左翼等營兵馬。速赴應援。卽牌行各營將領等。相機追勦。去後十八日。據署清河遊擊鄒儲賢差夜不收口報。十五日未時。有本營兵馬。追至梨樹奠。與賊對敵。斬獲首級



伍顥等情。本日又據分守道右叅政顧頤稟。據署清河遊擊鄒儲賢火牌報稱。十五日酉時分。本職統兵追虜回營。隨據清河守鴉鵲關口夜不收馳送。原領做市建夷付漢齎來奴酋漢字印稟一張。內云。因你南朝發兵。設在外邊。故我到撫順講話。候朝廷將出邊的兵馬退回。若把邊外北關交與我。則這事或可以免得。且今要你清河。照常作市。故不侵你清河地界。謹白等語。職據此爲照。奴酋係市口屬夷。輒敢突犯疆界。賊兵甫退。又來關口。申文詞語。狂悖殊甚。明恃橫強。輕侮中國。雖稍有斬馘。畧挫賊鋒。竊恐賊酋愈懷忿恨。復逞兇謀。事未可知。沿河營堡。邊長兵寡。孤懸山峽。在在可虞。請兵設防。似不容緩。又據頗副將差夜不收。押同瀋陽營夜不收口報。達賊三萬餘騎。圍着撫順城。一枝達賊。與兵馬相對。隔河不能前進。各營兵馬。俱在崔四屯下營。離撫順城二十餘里等情。到道。據此爲照。來夷數萬。於十五日壓境。進圍撫順城。未知存失。至今未見遊擊李永芳撥報。

恐有別項重大事情。除差官赴營。查得另報等情。又據開原兵備右參政馮瑗稟稱。據慶雲守堡沈時行稟報。十四日巳時分。有新安關進入福餘衛夷酋煖兔。宰賽。卜兒亥三營下通夷等伍百名到堡。卽令通事說。稱有我們趕車二百輛。裝載木植乾柴。又隨帶牛馬羊隻皮氈等物來賣。有宰賽營下通夷把氣革兒說。有宰賽煖兔。卜兒亥等各營達子。馱帶盔甲。俱到遼河兩岸下營。上關討賞。又有愁傳調我們各營達子頭兒會議。要犯搶南朝。不知那地方。今我們外邊煖兔兒子八個。都不聽他老子。各帶部下達子。要來爭賞等情。理合具稟緣由到道。據此看得。宰賽煖兔等。馱帶盔甲。俱到遼河兩岸下營。上關討賞。又愁傳調合議要搶。且稱煖兔子來爭賞。既係在市通夷稟報。情形似真。狡謀叵測。除嚴行開鐵慶雲協遊守備等官。比常萬分。加謹防禦。仍分投收斂等情。各稟到職。又據慶雲堡遊擊寶永澄稟報。相同看得。奴酋因北關之事。懷怒蓄忿久矣。向來未敢公然犯



順。無非畏中國之威。故爲伏耳匿爪以待耳。乃今一旦背逆統兵。攻圍撫順。勢甚猖獗。且具稟清河。辭更悖慢。如此情形。河東已岌岌不可支矣。兼之西北各處諸虜。見在沿邊住牧。亦據報謀犯。情似不虛。誠恐乘虛突入。禍將莫知所終也。除一面嚴行各道。督行各該將領等官。萬分加謹隄備。及相機堵剿。去後。仍又白牌傳諭各邊。嚴謹收斂。卽差夜不收分投。調遣五路兵馬。星馳救援外。其奴酋攻圍撫順城。未知講話。未知攻尅。至今未見李永芳撥報。俟有的確。另行馳報緣由。俱已塘報各部軍門訖。職預于十七日。卽差聽用官郭之翰等四名。執旗監督各該將領追剿。去後十八日。又據分守道顧頤稟。據奇兵營中軍朱世顯。蒙副將顏廷相紙票。四月初六日。本協統兵前赴長安所防工。十四日。移防長勝邊工。十五日酉時。據長勇撥傳。東虜奴兒哈赤達子。圍住撫順。本協當時。統兵前進。至十六日寅時。到撫順境上。與武靖。瀋陽。鐵嶺遊擊文明象等。各領健兵。又原任遊擊

朱騰耀合營。攻擊二陣。無柰虜衆布滿山川。約有五萬餘騎。本營與瀋陽家丁。斬獲首級一顆。兩相扎營。隨據破擄脫逃人吳文禮稟稱。十四日。有奴酋部夷八百餘名。在市討賞。口說。明日有三千餘名達賊。來做大市買賣。至十五日寅時分。達賊果來叩市。遂誘哄買賣商人并軍民。出城貿易閒。各賊乘隙突衝入城。將閤城軍民人等牲畜。盡被殺擄。侵住城內等情。本協卽挑內丁千總等。冒矢衝至撫順城外探看。果如前供。該酋世受國恩。一旦犯順。抑且屯聚三日。尙未出境。而長安備禦又報。西虜宰賽。伯要子。聚兵二千餘騎。卽日入犯平虜等處。意圖東西夾攻。大肆狂逞。兵力單寡。萬分難支。乞於近鎮。速調大兵。以救燃眉等情。到道。據此看得。奴酋素日驕橫。近假入市。襲陷撫順城。聞將李永芳拿去。中軍千把總殺死。擄掠軍民牲畜殆盡。沿河設兵據敵。至今尙未出境。猖獗殊甚。除會請總鎮兵馬。協力防勦等情。十九日又據鎮靜堡守備王牧民稟稱。有西夷秦兀榜什密



稟。有本虜頭腦抄花。于十七日。差人叫先來領賞。夷使速回巢去。抄花巴領大小頭目二十個部落。全來了。都在馬場放馬。相對高平。大小黑山。離邊不遠。只待數日。馬有腓。一齊上關講話等情。各稟報到。職除嚴行各道。加謹隄備防守。及分守道。督令將領追勦外。該職會同薊遼總督汪可受。山東巡按楊一桂。議照建酋奴兒哈赤。性本兇殘。行多詭詐。倚恃富强。蔑視中國。包藏禍心。謀逆不軌。非一日矣。數十年來。中外胥以爲憂。緣一向未敢跳梁。以故不妨羈縻。無非爲保安疆圉計耳。詎意三月內。按臣查勘邊界。彼遂藉口。爲先發制人之舉。假做買賣。攻陷撫順。今且盤據不去。又暗通西虜。在在蠢動。此其罪大惡極。神人共憤。職豈不欲剪滅此而後朝食哉。惟是禦虜必資于兵。而足兵莫先于餉。乃遼之兵何如也。名雖九萬有奇。然散之一百二十餘城堡。其實各營戰兵八九千而止。而以當數萬之虜。其將能乎。是兵不可不速調也。乃遼之餉何如也。以民運則欠二十餘萬。

京運上年下半年。該銀二十六萬兩。毫釐未解。今又四閱月矣。各軍  
缺食。且幾一年。而欲使之枵腹以戰。其又將能乎。是餉尤不可不速  
發也。不然而腹背受敵。手足莫措。切恐遼左非國家有。卽京陵亦不  
能無震驚之虞矣。事關邊疆利害。社稷安危。乃當事者。多泄泄視之。  
職曷敢不急爲呼天之請。皇上勅下戶兵二部。再加覆議上。請卽調  
近鎮精兵二三萬前來。應援隨發。上年下半年與本年上半年原額  
京運五十二萬餘兩。星夜解來。接濟應用。如或太倉一時無銀。當速  
請發內帑。以濟燃眉。庶危遼有所恃賴。而衝邊不致再悞也。

兵科署科事給事中趙興邦題。爲虜陷邊城。勢甚危急。伏乞勅下部  
臣。亟議兵餉。並速發帑金。以募大軍。以保封疆事。臣接遼東撫臣李  
維翰塘報。奴賊猖狂。假稱入市。以三萬餘。虜陷撫順城。遊擊則拿去  
矣。中軍把總則殺死矣。軍民牲畜擄掠一空矣。且其盤據內地。久而



不去。又復結連西虜。住牧邊外。東西夾攻。以圖大逞。蓋岌岌乎殆哉。撫臣以無兵無餉。不能解大虜之圍。急則呼天。旦暮求援。皇上聞之。必且食不下咽。遑遑爲遼計者。臣愚以爲。今日計非兵寡之患。而餉缺之難也。遼撫今不請近鎮精兵二三萬。前來應援耶。卽今雖無精兵二三萬。以應遼撫。督臣汪可受。業已斟酌於薊鎮天津保定間。議調六千五百矣。顧六千五百名之兵。督臣尙謂其行糧無所出。如再有多兵。又將安出乎。遼撫不又請原欠京運五十二萬。星夜解發。以接濟應用耶。計遼餉所缺於額內者五十餘萬。見今太倉若掃。不能應萬分之一。遼之主兵餉。皆枵腹以待。如客兵再至。又將何給乎。無餉則何以有兵。無兵則何以禦敵。况敵賊壓境。軍民塗炭。少需時日。則流毒益有不可言者。皇上亟命戶兵兩部。作速議處。何項銀兩。堪以動支。如遼撫所請。盡數發解。以供主客之兵。目前之費。卽兵未必加多。而士飽馬騰。進可攻。退可守。勿得耽延。以釀莫救之禍。則遼或